

日本管理会計学会 30 年史

2021 年 8 月

日本管理会計学会

巻頭言

日本管理会計学会が創設されて今年でちょうど30年となります。会員みなさま、本当におめでとうございます。私が考える30年の学会の思い出をまとめたいと思います。

当学会の起源は、1987年に創設された数理会計研究会に遡ります。1989年に、数理会計研究会は、日本数理会計学会となりました。ここまでは無料で入会できたために、当時工学部に在籍していた私も入会いたしました。その後、1991年7月27日に日本管理会計学会と名称を変更しました。数理会計学会の会員は自動的に日本管理会計学会の会員となり、会費徴収されました。まだ、東京理科大学に在籍されていた片岡洋一先生の学会という印象でしたので、突然の会費徴収に戸惑った記憶があります。

片岡先生が創設した学会なので当然ではありますが、片岡先生の思いがこもった学会でした。一方、個人と切り離れた学会の体をなすべきだという動きが出てきて、学会が二分していきました。これが会長選挙に表れ、激しい選挙合戦が繰り広げられました。最終的には、会長職他に理事長職が設けられ、片岡先生は理事長に就き決着したと思います。

その後、論文が実証研究型の論文だけが受理されるようになり、これに反対する動きが出てきて、再度二分する形となりました。実証研究以外の論文として、ケーススタディや理論研究の論文を投稿しても学会の趣旨に合わないとして却下されたからです。実際のところ、私もケーススタディ論文を却下されたことがあります。つまり、学会誌編集委員長を中心とした二分化となりました。最終的には実証研究型だけでなく、多様な研究を受け入れる学会へと収斂していきました。

学会が落ち着きを取り戻したとっていたら、2020年の春から武漢で発生したコロナウイルスが世界中に感染が拡大していきました。その影響で、対面で行われるはずだったみなし理事会が延期の末、書面による常務理事選挙となりました。第1回の常務理事会と理事会もメールによる持回り会議にせざるを得ない状況でした。現在もコロナの影響が続いて学会活動を阻んでおります。一日も早く、コロナが沈静化して、正常な研究活動ができるようになることを期待しております。

学会創設して30年のうちには良いことも悪いこともたくさんありました。永続している学会は少なからず同じ状況が起ったのではないかと思います。このような紆余曲折があったことで、会員から認められる学会になってきたと思います。次の10年で学会がどのように良くなっていくのか期待しながら筆をおきたいと思います。

2021年7月2日
日本管理会計学会
会長 伊藤和憲

目次

巻頭言（会長：伊藤和憲）

第1部 日本管理会計学会の30年間のあゆみ

1. 日本管理会計学会の創設と進展（初代会長：片岡洋一先生）	3
2. 歴代会長が語る日本管理会計学会のあゆみ	21
（2008年4月から2020年3月までの歴代会長）	
・創設30周年を迎えて—回顧と宿望—（辻 正雄）	22
・会長時代の思い出（浅田孝幸）	25
・創立30周年記念に寄せて（原田 昇）	27
・学会創設30周年を祝して：個人的な思い出と共に（水野一郎）	30
3. 功労者が語る日本管理会計学会のあゆみ	33
・日本管理会計学会九州部会の歩み（丸田起大）	34
（西村明先生へのインタビュー）	
・日本管理会計学会の関西部会と関西・中部部会（宮本寛爾）	37
・日本管理会計学会：創成期の活動の思い出（門田安弘）	40
・日本管理会計学会との関わりと活動の概括（山田庫平）	43

第2部 資料集

1 歴代役員	46
2 全国大会30年の記録	52
3 学会誌	96
4 フォーラムのあゆみ	116
5 研修プログラム／リサーチセミナー	140

6	九州部会	148
7	関西・中部部会	164
8	企業研究会	178
9	スタディ・グループ／産学共同研究グループ	182
10	学会賞	186
11	国際的活動	198
	あとがき	204

(前会長・創設 30 周年記念事業委員会委員長：水野一郎)

第 1 部

日本管理会計学会の 30 年間のあゆみ

1. 日本管理会計学会の創設と進展 (初代会長 片岡洋一先生)

(20年史発刊にあたり執筆していただいた原稿を再掲)

日本管理会計学会の創設と進展

初代会長 片岡 洋一

日本管理会計学会は、本年、2011年の夏で創設時から数えて20周年を迎えました。本学会は、今日、諸会員の協力のおかげで日本の会計学関係の諸学会のなかで日本学術会議法にもとづく学術研究団体としては2番目の規模になったといわれるまでに進展してきました。そこで、本学会の創設の経緯とその後の進展について、1.創設の思想的萌芽、2.日本管理会計学会と東京理科大学、3.管理会計学会の創設と学会の名称、4.学会誌「管理会計学」の発刊、5.日本学術会議法の学術研究団体への登録、6.日本管理会計学会編『管理会計学大辞典』の編集、7.企業調査研究プロジェクトの成果の発刊、8.本学会の運営機関の変遷の8つに区分して述べようと思います。

1. 創設の思想的萌芽

まず、本学会の創設を決意するまでの考え方の経緯を述べておきたいと思います。本学会の設置は、東京理科大学およびその経営学部設置と決定的に関係があります。

本学会の創設の思想的萌芽は、私が大学院博士課程3年次に東京理科大学工学部経営工学科の専任講師に採用が決まった後、当時の橋高重義常務理事(後に学校法人東京理科大学理事長:2007年逝去)に挨拶に行ったときを契機に生まれたといえます。丁度刊行した『原価会計』(品田先生他2名との共著:白桃書房)を献本する目的もあって橋高常務理事にお会いしました。その際、私の今後の学術研究の成果の公刊に関して、主要学会誌での査読済み論文の掲載のみを目的にするように言われました。それ以外の研究成果、すなわち、専門書(単著・共著)はもちろん、商業誌・学内紀要に掲載した論文等は、一切、研究業績とみなさないというのです。したがって、その日に献本した、心血を注いで完成した専門書は、東京理科大学の業績評価基準から見て、私のなんらの研究業績にはならないことが宣言されたこととなります。また、同大学は学会活動を重視するので、同大学の研究費予算を活用することが求められていることも告げられました。

このことの具体的な意味については、その後、同大学工学部経営工学科に籍を置き、工学系の種々の領域に係る採用・昇格の会議の審議に参加し、体験を通じて理解しました。主要学会とは、少なくとも日本学術会議法に定める「登録学術研究団体」であって、会員はその研究領域の全国の研究者の大部分(8,9割以上)が所属していなければならず、また活発に研究活動を継続している組織でなければなりません。したがって、会員が特定の組織に偏った研究団体や、偏りが無いとしても研究領域が狭く1~200名程度の同志が集まったような研究団体は主要学会には当たりません。

また、査読済み論文とは、二重匿名査読制(double-blind review system)のもとで行われ

る査読を経て受理された論文という意味です。二重匿名査読制とは、投稿した論文の著者にとって査読者が誰か知らされず、かつ、査読者からみても著者が誰であるか知らされていない状況で客観的かつ公正に実施される査読システムです。投稿した論文の著者名と査読者名を知っているのは、編集委員長(編集者)ないし限られた編集担当者(委員)だけであり、かれらは査読が客観的かつ公正に行われているか否かを監視し、著者と査読者の意見が対立した場合はこれを調整する権限と責任を有しています。このシステムでは、そのための諸規程が整備され、編集委員会が適正に機能していることがその前提条件となります。

同大学では、学部の卒業論文でも、科学の研究方法にもとづいて行った研究の成果、すなわち少なくとも科学の研究論文でなければならないとされていました。また、大学院に進学する可能性のある優秀な学生については、修士課程1年次に主要学会で研究報告させることを目的として学部時代から研究指導がなされていました。今も同様なことが行われていると思います。研究報告は、指導教授と連名で行われますが、当時、社会科学系の学会では、連名とはいえ修士課程の学生が主要学会で研究報告を行うことは考えられないことでした。当時の工学部経営工学科について言えば、日本経営工学会、日本品質管理学会、日本経営情報学会、日本応用統計学会、日本応用数学会等で学生と連名で研究報告を行うことができましたが、会計学系と経営学系の学会では、修士課程の学生は指導教員と連名であっても学会報告ができるという環境ではありませんでした。また、教員の側も通常、修士課程の学生に学会報告させるという発想を持つことがないのがあたりまえの状況でした。

主要学会を重視し、二重匿名査読制のもとでの学術論文のみを教員の研究業績とみなし、単著・共著を問わず専門書も商業誌掲載の論文も一切研究業績とみなさず、学生にも科学の論文を書くことを要求し、その合否については公開審査を経て判定会議で厳格に審査し、また学生といえども積極的に学会報告させるという環境と学風のもとで、私は研究と教育を行ってきたので、当時の会計学系の諸学会の後進性と封建性に歯がゆさと苛立ちを感じていました。したがって、管理会計学会の創設は、私が東京理科大学に身を置いたことが大きな動因となっていると言えます。

2. 日本管理会計学会と東京理科大学

専任教員が主要学会で行う研究活動を重視する東京理科大学に籍をおいていたため、私自身、学会活動を活発に行っていました。管理会計学会が創設されるまでは、活動の場は、基本的には、まだ日本経営工学会、日本原価計算研究学会および日本会計研究学会でした。日本経営工学会は会員規模が2000人以上でしたが、原価計算・会計学の研究者は全く少数であり、私どもの研究を活性化するためには小規模過ぎ、また日本原価計算研究学会では、会員として大いに活躍してきましたが、その当時の機関誌では数式が印刷で適切に表わせない状態でした。日本会計研究学会の機関誌は、当時から最も権威ある専門誌とされていましたが、縦組みのため数式に不適でした。

そのようなこともあって、有志を募り小規模な研究会を立ち上げ、1987年の春には50名

程の会計専門家の協力が得られる状況になったので、数理会計学研究会と称する組織を編成しました。その後、この研究会が徐々に育ち 1989 年には 150 人を超える規模になったので、日本数理会計学会と名称を改めました。当初よりこの組織を日本学術会議法の定めに従って公式の日本管理会計学会にまで発展させようとの意図をもっていましたが、そのための条件が整わず、どの段階で管理会計学会に切り替えて発展させるかについては意思決定できませんでした。

日本管理会計学会を立ち上げて本格的に活動を行うためには、まず二重匿名査読制のもとでの査読付き学会誌を少なくとも年 2 回発刊する必要があると考えていました。というのは、年 1 回発刊する研究報告書はいわゆる年報とみられ学術雑誌とは見なさないという考え方が一般的でした。当時は現在と比較すると、印刷の技術もソフトも未成熟であって、文章も数式も活版印刷で行われる時代でしたから、100~150 頁の雑誌 500 冊程度を年一回印刷し発刊するためには 120 万から 150 万円掛かり、年 2 回印刷し発刊するためには、年 300 万円の安定収入を確保しなければなりません。当時の会員は 200 人であり、年会費は年額 6000 円でしたから会費回収率 70%としても年 84 万円しか予算手当ができず、学会誌の発行は全く無理な状況でした。

このような状況下で、1991 年に日本管理会計学会の創立総会において創立を決めることができたのは、同学会の創設期に東京理科大学の当時の橘高理事長から学会誌刊行費として補助金を収受することができるようになったからです。

日本管理会計学会は東京理科大学とは直接関係を持たず、また理工系大学である同大学は社会科学系学会とは関係がないにもかかわらず、なぜ本学会は補助金を受けることができたか説明しておく必要があるでしょう。

1993 年(平成 5 年)に設置された東京理科大学経営学部は、校地探しを含めて、昭和の終わりから準備を始め、約 7 年かけて目的を達成しました。私は、この経営学部の設置業務に全面的にかつ深く携わり、最終的に成功裏に終了しました。その恩賞として、橘高理事長は私個人に特別な報酬を支払うことを示唆してくれましたが、私は辞退して、日本管理会計学会を育てるための補助金をお願いして、これを了承してもらうことができました。

経営学部設置準備の経緯は次の通りです。昭和の終わり頃、東京理科大学の橘高理事長が学内・学外の関係者に対して秘密裏に経営学部設置の準備を始めることを決定し、私にその準備をすることを依頼していました。同大学は、理工系大学として有数の大学であり、その時点では、理事会・教員等、学内・学外の関係者は経営学部や経済学部などの社会科学系の学部を設置することには反対でした。例えば、以前から当時の西川学長、高橋常務理事などは経営学部設置について私に対して明確に反対の意思表示をしていました。

しかし、橘高理事長と私は、同大学を university(総合大学)とよぶためには総合性を備える必要があります、そのためには経営学部設置がその一歩となると考えていました。当時、橘高理事長は、学内・学外とも絶大な信望があり、理事会に対しても強力な指導力を有していましたが、経営学部設置の過程は、土地探しから始め、建物を建築し、カリキュラム等を決定

し、教員を集め、2年間かけて文部省に申請し、認可を受けて開設するには、5年以上の長い期間がかかるので、橋高理事長としては、その期間に大小いろいろな妨害や反対運動が起こることを嫌って、同大学内で公式に経営学部設置準備委員会を公式に立ち上げるまで可能な限り秘密にしておき、その間、理事会関係者等を説得するという方針を採っていました。彼は経営学部設置準備委員会を文部省に設置申請する半年程度前に編成すればよいと考えていたようです。事実、1991年(平成3年)2月に突然、正式に同設置準備委員会を編成し、同年6月に文部省に第1次設置申請しました。そして翌年の第2次設置申請を経て、その翌々年の1993年(平成5年)4月に同学部が開設されたのです。

なぜ私がこのような重要な業務を全面的に依頼されるに至ったかについては、採用面接の時に経営学部を設置したい旨を強く述べたこと、工学部2部経営工学科設置・東京理科大学諏訪短期大学設置の業務に深く関与したこと、後に同大学大学院工学部研究科経営工学専攻博士後期課程設置業務に全面的かつ指導的に携わったことと、その時の文部省における教員資格審査の際、最年少で研究指導教員(Dマル合教員)となったこと、その他のいくつかの事件での貢献があったこと等が理由となっていたと思われます。

経営学部設置の準備全般を依頼されたときは気楽に考えていましたが結局は大変なことでした。私は、関東一円で校地探し、予算について理事長と打合せしながらの不動産業者との交渉、校地の購入業務、校舎の設計、施設・設備の購入の決定、カリキュラムの立案、教員採用人事と学内異動人事(教養科目を含めた全般)、土木・建築予算の立案の検討、文部省への申請のための「設置の趣旨」等の立案、文部省との折衝等、経営学部設置業務の全般を委任されました。

私は大学における研究と教育の本務、常時依頼が切れることがなかった経営指導の実務、活発な学会活動の継続を行いながら、それに加えて経営学部設置業務を一任されたため、1週間7日働くことが当たり前であるような多忙を極める期間を数年続けざるを得ませんでした。その期間に私の傍らで常時、大学内で助力を惜しまずに協力してくれたのが、当時の井岡大度助手(専任講師を経て、現在、国士舘大学経営学部准教授)です。

関東一円で土地探しを始めてから約4年かけて、1991年に埼玉県久喜市に、当時の時価総額100億円以上と見積もれた15万平方メートルの校地を取得することを決定しました。これは当時、(株)商工リサーチの大原秀明部長から校地探しの協力者として埼玉銀行の不動産関連部門の紹介を受け、この助力を得て埼玉県で数か所の候補地を選定し、そのうちのひとつであった久喜市の土地を選ぶことができました。

その土地を決定できたのは久喜市の当時の渡邊良夫助役(2005年逝去)が東京理科大学を強力に誘致してくれたお陰です。渡邊助役は、私が独断で要求した二つの事項を、なんのためらいもなく即決で了承してくれました。その一つは、同市から同大学への30億円の補助金の要求です。補助金の大きさも実施時期も事前に橋高理事長とは打合せせず、渡邊助役と交渉しているなかで、可能であると判断した時点で申入れたのです。しかし、彼は、私の要求を受諾するためには、当然、市の予算委員会会議と本会議の承認が必要であるにもかかわらず

ず、即断即決したのです。

その二つ目は、同大学がこの土地を入手可能にするために必要な具体的な方法の実施を要求しました。私が指定したその方法とは、同市がこの地域を学園都市として指定し事実上の市街化調整地域化して土地の時価を引き下げ、かつ、補助金 30 億円で現実に当該土地を購入できるように、同市が買手となって、または同大学の代理人となって全筆の土地の売買契約を締結することです。このことが私の要求通りにいけば大学は、土地の購入費が無償であるばかりでなく、土地の購入契約という困難で煩雑な仕事をしないで済みます。

この申入れについても、渡邊助役は、平然と即座に了承してくれました。そして、その後半年程かけて、約束した通りにすべてを実行したのです。橘高理事長と私を含む、彼を囲むすべての関係者は、彼の指導力と実行力には驚嘆しました。最も時間がかかり重要で骨の折れた業務である土地の取得が終われば、これと比較すれば、後は人集めと本来の学部設置の業務なので、著しい困難はありませんでした。

3. 管理会計学会の創設と学会の名称

前述のように、東京理科大学は、1991 年に久喜市から補助金を受けることが決まり、経営学部を設置することが決定しました。この段階で、橘高理事長から毎年 200 万円の補助金を学会誌刊行費として本学会が財政的に独り立ちできるまでの間受けられることが決まりました。その結果として学会誌を年 2 回継続的に出版できる予算措置ができたので、いよいよ本学会を設立することが可能となりました。

1991 年 7 月に東京の池袋にある東京芸術劇場のホールで、当時、私が会長をしていた日本数理会計学会の年次大会を実施するなかで、全参加者の了解のもとで、日本管理会計学会の創立総会に切り替え、日本数理会計学会を母体として日本管理会計学会を創設することを提案し、満場一致の決議をもって了承を得て、本学会は創設されました。したがって、日本数理会計学会の全会員は日本管理会計学会の会員となり、日本数理会計学会はこの日に消滅しました。

日本管理会計学会の基本方針は、会員として管理会計と原価計算の研究者だけではなく、財務会計、経営分析、会計情報等、周辺領域と関連領域の研究者、さらにこれらの実務家をも迎え入れ、会員の新しいアイデアと意見を積極的に採り入れる「開かれた学会」として運営すること、したがって、入会資格についても公表論文を条件とせず、保証人による保証のみとすること、完全な二重匿名査読制(二重匿名レフェリーシステム)をつうじて国際的水準にある独創的な学術論文を掲載する学会誌を年 2 回刊行すること、本学会誌が掲載可能な専門領域は、会計学全般とその周辺領域および関連領域をも含むものであること、従来の学会とは比較にならないほど活発に研究会等を開催すること、ならびに人材を支援し育成する体制づくりをすることなどを目指すものでした。

本学会の創立後の第 1 回の全国大会は、創立総会の 5 か月後の 1991 年 12 月に東京理科大学で行うことがその創立総会で決定されました。その決定通り、第 1 回の全国大会は、東

京理科大学の神楽坂校舎で開催され、会員総会、研究会および懇親会が開かれました。その会員総会において、会長・常務理事・理事・参事・監事が決定され、その後の運営方針が審議されました。その際、本学会の正式の名称が再度、話題となったことについて、ここで触れておきたいと思います。

7月の創立総会では、私は原案として「日本管理会計学会」(Japanese Association of Management Accounting)を提案して了承されましたが、「日本管理会計研究学会」という名称を検討したらどうだという新たな意見が出されました。日本ではすべての会計研究者がおそらく「日本会計研究学会」の会員であろうという事情にあるため、私どもは、このタイプの名称に慣れており、ためらいなく「研究学会」の呼称を付した学会名を提案したものでしょう。しかし、他の専門領域の研究者からみると、このタイプの名称は、奇妙であり、矛盾に満ちた表現であることを、東京理科大学の工学部教授会における採用と昇格の審議で、他の専門領域の複数教員から質問され指摘されました。すなわち、小規模の研究組織を「研究会」と呼ぶのは適切であるし、一定規模の研究組織を「学会」と呼ぶことも通常である。しかし、「研究学会」という呼称は二重形容であり不適切であるばかりでなく、一般的に「会計学」という専門領域の呼称があるにもかかわらず、「会計学会」の呼称を用いないのは不自然であろう。それはなぜか。もし日本物理学会を日本物理研究学会と呼び、日本数学会を日本数究学会と呼ぶとしたら異常であろう、という論法の質問が真面目になされました。この質問は、同大学の教授会で「日本会計学会編集『会計』(森山書店)」に掲載された論文が、主要学会の論文か否かに関する審議でなされたものです。

したがって、会員総会では「日本管理会計研究学会」という呼称は、「管理会計学会」という普通の用語法が使えるにもかかわらず使わないのは、他の専門領域の研究者からみても不自然であるということも説明して、創立総会で承認済みの原案を再可決したいきさつがありました。

いうまでもなく当時も、会計学は、財務会計論と管理会計論に2区分されており、財務会計学と管理会計学の用語を用いることはありませんでした。しかし、「～論」という用語法は、他の科学の領域においても用いられていますが、比較的狭い領域を研究対象とする科学の1分野を指すのが普通です。たとえば、物理学における「一般相対論」、「量子論」、「素粒子論」等、数学における「数学基礎論」、「数論」、「集合論」、「確率論」等、経済学における「金融論」、「証券論」等、経営学における「組織論」、「経営戦略論」、「経営財務論」等を挙げることができます。会計学における管理会計学は、会計学の二大領域の一つであり、その広がりにはまさに「管理会計論」では収まりきれず、「管理会計学」とよぶのに相応しいと言えます。

本学会の名称は、発行している学会誌名「管理会計学」と、編集した辞典「管理会計学大辞典」(本学会20周年記念:中央経済社)とともに管理会計学の呼称を一般的なものにするのに現在も役立っているでしょう。

なお、橘高理事長から学会誌刊行費として収受した補助金は、公式には同理事長が理事長

をしていた「財団法人 科学技術振興会」が本学会の賛助会員として本学会に支払ったものです。しかし、創設の翌年 1992 年 10 月には会員数が 555 名に達し、その後も順調に進展し、1996 年 3 月末の収支計算書では、次期繰越金が 500 万円を超え、以後の学会誌の刊行に財政上の支障が生じなかつたので累積額 700 万円を受けた段階で、それ以後は同理事長に請求を行っていません。

4. 学会誌『管理会計学』の発刊

二重匿名査読制のもとで学会誌を発刊するためには編集委員会を組織しなければなりません。当時、会計学系・経営学系のいかなる学会も二重匿名査読制を採用している学会はなく、慎重に制度設計する必要がありました。その頃、私は日本経営工学会誌の編集委員会から比較的頻繁に査読を頼まれていました。ただし、原価計算と管理会計の領域の査読はまれであって、オペレーションズ・リサーチ、経営情報、経営工学等の領域で経済計算が含まれているものが大部分でした。その関係で伏見多美雄教授(慶応義塾大学)が経営工学会やOR学会等の査読を豊富に行っていたことを知り、本学会誌の査読を含む編集の業務について数回の打合せを持つことができました。その結果、同教授に初代の編集委員会委員長の就任をお願いし、承諾を得ることができました。さらに副委員長として佐藤進教授(中央大学)と吉川武男教授(横浜国立大学)のお二人を、編集幹事として原田昇教授(東京理科大学)という強固な体制を作り創刊に挑みました。その後、今日まで歴代の委員長のご尽力により順調に刊行されています。

日本管理会計学会誌『管理会計学』という雑誌名の原案は、橘高理事長から補助金を頂く最終的な折衝をするなかで決まりました。管理会計論ではなく「管理会計学」という呼び名を普及させ一般的なものにすべきであるという意味も含めて、この名称を使うという考え方は同理事長と同一の認識でした。そこで、本学会の最高意思決定機関である常務理事会で、『管理会計学』を学会誌名とするという会長案を審議しました。予想外の反論がでましたが審議の結果、会長案が了承され今日に至っています。自画自賛ですがよい雑誌名である、といまだに思っています。

なおこの時、正式英名、**The Journal of Management Accounting, Japan** は、伏見多美雄委員長により提案され承認されました。

本学会の二重匿名査読制のもとで学会誌の刊行は、他の学会に大きな影響を与えました。まず、数年後、日本原価計算研究学会は二重匿名査読制ないしこれに準ずる制度を採用しました。さらに、日本会計研究学会の武田隆二元会長(神戸大学名誉教授、大阪学院大学教授)からは、会長就任後直ちに、日本管理会計学会の基本方針はこれからの学会の進むべき適切な方向であるから、日本会計研究学会もこれを見習って、二重匿名査読制のもとで学会誌を刊行し、院生会員の制度を設け、院生に研究報告の機会を与える旨を記した非常に丁寧で長文の手紙を頂きました。武田元会長は、手紙に書いた通りに、新たに学会誌『会計プロセス』を刊行し、全国大会では院生セッションを設けたことは会員の皆さんも周知のことと思

います。その他の学会も機関紙を査読制にしたこともおそらくご存じでしょう。現在、会計学の世界でも学会誌といえば査読付きであることが当たり前になっていますが、この先鞭をつけたのが本学会である、と行ってよいでしょう。

5. 日本学術会議法の学術研究団体への登録

正規の学会であると一般的に認められるためには、日本学術会議法に定める学術研究団体に登録することが求められます。日本学術会議は、「科学が文化国家の基礎であるという確信に立って、科学者の総意のもとに、わが国の平和復興、人類社会の福祉に貢献し、世界の学界と提携して学術の進歩に寄与することを使命とし、ここに設立される。」と謳われて設立されました。同法の定めで登録した団体は、「登録学術研究団体」といわれ、学術研究の向上を目的とし、研究者により自主的に運営されており、一定以上の規模があると認められた学術団体であり、日本国が公的に認定する学術団体に相当します。同法に定める登録をするための審査基準が1993年に制定されました。その基準の概要は、①科学者の研究団体であること、②査読制付きの学術刊行物を刊行していること、③3年以上研究団体としての活動を継続していること、等等です。本学会の同法にもとづく申請の担当者は、原田昇常務理事(東京理科大学教授)と井岡大度参事(東京理科大学専任講師)でした。1996年2月に井岡参事が説明会に参加するところから本格的に登録申請の準備を始め、5月に登録の申請手続きを行いました。本学会の実情が審査基準を完全に満たしているため、非常にスムーズに審査が終了しました。1996年7月に日本学術会議法の登録学術研究団体として承認され、同年9月の本学会の常務理事会で報告されました。

なお、現在は、従来から存在していた「登録学術研究団体」と「広報協力学術研究団体」が統合され、日本学術会議「協力学術研究団体」という名称になっています。これは2005年10月に新設されたもので、2010年2月21日現在、1772の学会等が認定されています。

なお、本学会は日本経済学会連合会に属していますが、同連合会には1999年4月に申請し、5月に承認され、11月の常務理事会で報告されたことを申し添えておきます。

6. 日本管理会計学会編『管理会計学大辞典』の編集

管理会計学大辞典は、1994年の全国大会における常務理事会、理事会および会員総会でその編集と刊行を決議し、実に6年間の歳月を費やし、約150人もの執筆者の協力を得て、2006年6月に中央経済社から発刊したものです。私は1991年12月から1999年3月まで本学会の会長を務めた後、会則改正の新制度の下で同年4月から就任した理事長としてこの編集の業務を引継ぎました。

編集組織の構成としては、編集代表を片岡洋一(東京理科大学)、佐藤進(中央大学)、西澤脩(早稲田大学)、伏見多美雄(東京理科大学)が務め、コア編集委員を門田安弘(筑波大学：編集委員長)、原田昇(東京理科大学)、佐藤紘光(早稲田大学)、小倉昇(筑波大学)の各教授が務めました。

企画編集業務の大部分は、コア編集委員会が大変なご苦勞をして担当しました。管理会計学は、基本的には非常に多様な領域とトピックスを包含した応用科学ですから、本大辞典の構成の体系化には多様な可能性があり、また2段組で約1000頁の辞典ですので頁の配分等についても大変なご苦勞をされたのをよく覚えています。このコア編集委員会の4教授のご尽力がなければとても2000年には刊行できなかったでしょう。ここで改めて感謝の意を表したいと思います。

2011年の今日、同大辞典は発刊11年を経過して、領域によっては陳腐化の感をぬぐえません。改訂作業の準備に着手することが常務理事会で了承されていることはなによりです。

7. 企業調査研究プロジェクトの成果の発刊

1999年に10周年記念事業として企画し準備を始めた「企業調査研究プロジェクト」は、当初、29の研究プロジェクト別企業調査研究委員会が編成され、それらを統合する企業調査研究委員会本部が組織化されました。同委員会本部は、理事長所管の委員会の一つとして活動するため、その財務的基盤を会員会費（一般会計の対象）とは全く別個に捻出する必要がありますがありました。

私が知っている様々な機関と組織に働きかけた結果、本学会の理事長特別補佐(1999～2002)であった中根滋代表取締役会長(SAPジャパン、その後、PwCコンサルタントを経て、i2テクノロジー代表取締役会長)に、倉重英樹代表取締役会長(PwCコンサルタント、その後、IBMBCS会長)を紹介され、お二人のご尽力によって強力な研究補助を受けることができるようになりました。本学会は、PwCコンサルタント(株)と2001年12月に協定を結び、協定日から3年以内の各研究プロジェクト成果について、出版基準(出版毎)で総額1500万円補助金枠の供与を受けました。当初、実証研究を中心に順調に進むはずでしたが、諸般の事情で研究成果の刊行がおくれ、現実には2005年に第1巻が出版されました。協定の期間はすでに過ぎていましたが、倉重会長のご厚意により補助金を収受することができました。

なお、出版社としては、当初は門田安弘教授(筑波大学)のご尽力で企業調査研究プロジェクトの成果を「ハンドブック3巻」で完結するという形態で出版することを中央経済社から提案されたが、各委員会内でおおたの賛成が得られず、横山和男教授(東京理科大学)の骨折りで、本部委員会の新しい方針通りに税務経理協会に販売を引受けてもらうことになり今日に至っています。

これまでの研究成果の刊行は、つぎの7巻です。

木村幾也編著『グループ企業の管理会計』2005年3月

秋庭雅夫・井岡大度・山下裕企共著『TPマネジメントによる原価低減の実践記録』2005年9月

門田安弘・浜田和樹編著『企業価値重視のグループ経営』2006年1月

李健泳・小菅正伸・長坂悦敬編著『戦略的プロセス・マネジメント』2006年3月

上埜進編著『日本の多国籍企業の管理会計実務—郵便質問票からの知見—』2007年6月
 溝口周二編著『情報化戦略の進化とコストマネジメント』2008年2月
 矢澤秀雄・島津誠・竹本達広・秋川卓也著『サプライチェーンマネジメントの目標管理』
 2009年10月

近刊(第8巻)として宮本寛爾編著『実態調査からみた国際管理会計』が予定されています。

8. 本学会の運営機関の変遷

本学会の運営機関は、会長、副会長、常務理事会、理事会、会員総会、監事および参事から構成されています。会則は、1992年10月から施行されていますが、役員選任規程が施行されたのは、1998年4月以降です。以下では、1991年から2008年末に至る役員構成の変遷を示します。

役員構成 (1991年7月～1995年3月)

会長	片岡 洋一 (東京理科大学)	副会長	佐藤 進 (中央大学)
			河野 二郎 (九州産業大学)
常務理事	小倉 昇 (東北大学)	常務理事	原田 昇 (東京理科大学)
	加藤 隆之 (公認会計士協会)		伏見多美雄 (慶応義塾大学)
	田中 雅康 (東京理科大学)		門田 安弘 (筑波大学)
	田中 隆雄 (東北大学)		横山 和夫 (東京理科大学)
	長松 秀志 (駒沢大学)		吉川 武男 (横浜国立大学)
	西澤 脩 (早稲田大学)		
理事	浅田 孝幸 (大阪大学)	理事	昆 誠一 (九州産業大学)
	荒川 邦寿 (日本大学)		坂手 恭介 (姫路獨協大学)
	石川 昭 (青山学院大学)		白銀 良三 (国士舘大学)
	石崎 博司 (早稲田大学)		谷 和久 (キンピール)
	大藪 俊哉 (横浜国立大学)		髙村 剛雄 (明治大学)
	小川 洸 (早稲田大学)		中村 忠 (一橋大学)
	奥野 忠一 (東京理科大学)		西村 明 (九州大学)
	加登 豊 (神戸大学)		早矢仕健司 (龍谷大学)
	川北 博 (公認会計士協会)		原田 行男 (福井県立大学)
	岸 勝太郎 (リーガル・コーポレーション)		平田 正敏 (西南学院大学)
	小島 廣光 (北海道大学)		山田 重雄 (不二家システムセンター)
監事	中村 義彦 (常葉学園浜松大学)	参事	青木 雅明 (青森県立大学)
	船本 修三 (大阪学院大学)		井岡 大度 (東京理科大学)
			今林 正明 (東京理大諏訪短期大学)
			吉岡 正道 (東京理科大学)

役員構成 (1995年4月～1998年3月)

<p>会長 片岡 洋一 (東京理科大学)</p>	<p>副会長 佐藤 進 (中央大学)</p> <p>西澤 脩 (早稲田大学)</p>
<p>常務理事 小倉 昇 (東北大学)</p> <p>加藤 隆之 (公認会計士協会)</p> <p>木島 淑孝 (中央大学)</p> <p>佐藤 紘光 (早稲田大学)</p> <p>佐藤 宗弥 (横浜市立大学)</p> <p>田中 隆雄 (東北大学)</p> <p>田中 雅康 (東京理科大学)</p> <p>谷 和久 (キリンビール)</p>	<p>常務理事 長松 秀志 (駿河台大学)</p> <p>原田 昇 (東京理科大学)</p> <p>福川 忠昭 (慶応義塾大学)</p> <p>伏見多美雄 (東京理科大学)</p> <p>門田 安弘 (筑波大学)</p> <p>横山 和夫 (東京理科大学)</p> <p>吉川 武男 (横浜国立大学)</p> <p>吉田 寛 (流通科学大学)</p>
<p>理事 浅田 孝幸 (大阪大学)</p> <p>荒川 邦寿 (日本大学)</p> <p>石川 昭 (青山学院大学)</p> <p>石崎 博司 (早稲田大学)</p> <p>上埜 進 (甲南大学)</p> <p>大塚 宗春 (早稲田大学)</p> <p>大藪 俊哉 (横浜国立大学)</p> <p>小川 洸 (早稲田大学)</p> <p>奥野 忠一 (東京理科大学)</p> <p>加登 豊 (神戸大学)</p> <p>川北 博 (公認会計士協会)</p> <p>岸 勝太郎 (リーガル・コーポレーション)</p> <p>木村 幾也 (広島県立大学)</p> <p>黒川 行治 (慶応義塾大学)</p> <p>小島 廣光 (北海道大学)</p> <p>小林 啓孝 (慶応義塾大学)</p> <p>昆 誠一 (九州産業大学)</p> <p>坂口 博 (城西大学)</p> <p>坂手 恭介 (山口大学)</p> <p>坂部三次郎 (ガインック)</p> <p>佐藤 康男 (法政大学)</p> <p>芝 章 (NEC 東芝情報システム)</p>	<p>理事 白銀 良三 (国士舘大学)</p> <p>佃 純誠 (武蔵工業大学)</p> <p>辻 正雄 (早稲田大学)</p> <p>東海 幹夫 (青山学院大学)</p> <p>中 光政 (東京経済大学)</p> <p>中村 忠 (創価大学)</p> <p>中村 義彦 (常葉学園浜松大学)</p> <p>西村 明 (九州大学)</p> <p>根本 光明 (中央大学)</p> <p>橋本 賢一 (ME マネジメントサービス)</p> <p>早矢仕健司 (龍谷大学)</p> <p>原田 行男 (福井県立大学)</p> <p>平田 正敏 (西南学院大学)</p> <p>船本 修三 (大阪学院大学)</p> <p>溝口 周二 (横浜国立大学)</p> <p>三代澤経人 (立命館大学)</p> <p>矢澤 秀雄 (専修大学)</p> <p>安国 一 (亜細亜大学)</p> <p>山田 康平 (明治大学)</p> <p>山田 重雄 (不二家システムセンター)</p> <p>渡辺 金愛 (白鳳大学)</p>
<p>監事 今井 次郎 (高千穂大学)</p> <p>柳田 仁 (神奈川大学)</p>	<p>参事 伊藤 嘉博 (成蹊大学)</p> <p>井岡 大度 (東京理科大学)</p> <p>今林 正明 (東京理大諏訪短期大学)</p>

清水 孝 (早稲田大学)
吉岡 正道 (東京理科大学)

役員構成 (1998年4月～1999年3月)

会長	片岡 洋一 (東京理科大学)	理事長	佐藤 進 (中央大学)
副会長	西澤 脩 (早稲田大学)		
常務理事	浅田 孝幸 (大阪大学)	常務理事	中根 滋 (SAPジャパン)
	小倉 昇 (筑波大学)		長松 秀志 (駿河台大学)
	加藤 隆之 (公認会計士協会)		原田 昇 (東京理科大学)
	木島 淑孝 (中央大学)		福川 忠昭 (慶應義塾大学)
	佐藤 紘光 (早稲田大学)		伏見多美雄 (東京理科大学)
	佐藤 宗弥 (横浜国立大学)		門田 安弘 (筑波大学)
	田中 隆雄 (日本大学)		横山 和夫 (東京理科大学)
	田中 雅康 (東京理科大学)		吉川 武男 (横浜国立大学)
	谷 和久 (キリンビール)		吉田 寛 (九州産業大学)
理事	荒川 邦寿 (国士舘大学)	理事	辻 正雄 (早稲田大学)
	石川 昭 (青山学院大学)		東海 幹夫 (青山学院大学)
	石塚 博司 (早稲田大学)		中 光政 (東京経済大学)
	上埜 進 (甲南大学)		中村 忠 (創価大学)
	大塚 宗春 (早稲田大学)		中村 義彦 (常葉学院浜松大学)
	大藪 俊哉 (横浜国立大学)		西村 明 (九州大学)
	小川 洌 (早稲田大学)		根本 光明 (中央大学)
	加登 豊 (神戸大学)		橋本 賢一 (MEマネジメントサービス)
	岸 勝太郎 (リーガル・コーポレーション)		早矢仕健司 (龍谷大学)
	木村 幾也 (広島県立大学)		原田 行男 (福井県立大学)
	黒川 行治 (慶應義塾大学)		平田 正敏 (西南学院大学)
	小島 廣光 (北海道大学)		船本 修三 (大阪学院大学)
	小林 啓孝 (慶應義塾大学)		溝口 周二 (横浜国立大学)
	昆 誠一 (九州産業大学)		三代澤経人 (立命館大学)
	坂口 博 (城西大学)		矢澤 秀雄 (専修大学)
	坂手 恭介 (山口大学)		安国 一 (亜細亜大学)
	坂部三次郎 (タニック)		山口 操 (慶應義塾大学)
	佐藤 康男 (法政大学)		山田 康平 (明治大学)
	芝 章 (NEC 東芝情報システム)		山田 重雄 (不二家システムセンター)
	白金 良三 (国士舘大学)		渡辺 金愛 (白鳳大学)

	佃 純誠 (武蔵工業大学)		
監事	今井 次郎 (高千穂大学)	参事	井岡 大度 (東京理科大学)
	柳田 仁 (神奈川大学)		今林 正明 (東京理大諏訪短期大学)
			河合 久 (中央大学)
			清水 孝 (早稲田大学)
			吉岡 正道 (東京理科大学)

役員構成 (1999年4月~2002年3月)

会長	西澤 脩 (早稲田大学)	理事長	片岡 洋一 (東京理科大学)
副会長	田中 隆雄 (東北大学)		
	西村 明 (九州大学)		
	門田 安弘 (筑波大学)		
常務理事	浅田 孝幸 (大阪大学)	常務理事	長松 秀志 (駿河台大学)
	石崎 忠司 (中央大学)		原田 昇 (東京理科大学)
	小倉 昇 (筑波大学)		福川 忠昭 (慶應義塾大学)
	小林 啓孝 (慶應義塾大学)		伏見多美雄 (東京理科大学)
	佐藤 紘光 (早稲田大学)		宮本 寛爾 (関西学院大学)
	佐藤 宗弥 (横浜国立大学)		三代澤経人 (立命館大学)
	田中 雅康 (東京理科大学)		山田 康平 (明治大学)
	谷 和久 (イマジン)		横山 和夫 (東京理科大学)
	中根 滋 (i2テクノロジージャパン)		吉川 武男 (横浜国立大学)
理事	青木 茂男 (東京国際大学)	理事	佐藤 康男 (法政大学)
	石塚 博司 (早稲田大学)		芝 章 (NEC 東芝情報システム)
	伊藤 嘉博 (上智大学)		白銀 良三 (国土舘大学)
	上埜 進 (甲南大学)		成田 博 (高千穂商科大学)
	小川 洌 (早稲田大学)		西村 優子 (東洋大学)
	上總 康行 (京都大学)		浜田 和樹 (西南学院大学)
	加登 豊 (神戸大学)		藤永 弘 (札幌学院大学)
	金児 昭 (信越化学工業)		船本 修三 (大阪学院大学)
	木島 淑孝 (中央大学)		本橋 正美 (明治大学)
	木村 幾也 (岡山商科大学)		矢澤 秀雄 (専修大学)
	古賀 勉 (福岡大学)		柳田 仁 (神奈川大学)
	昆 誠一 (九州産業大学)		山口 操 (慶應義塾大学)
	坂口 博 (城西大学)		渡辺 金愛 (白鳳大学)
	佐藤 進 (中央大学)		
監事	今井 次郎 (高千穂大学)	参事	今林 正明 (東京理大諏訪短期大学)

加藤 隆之 (公認会計士協会)
崎 章浩 (明治大学)

河合 久 (中央大学)
清水 孝 (早稲田大学)
平岡 秀福 (創価大学)
山下 裕企 (東京理科大学)

役員構成 (2002年4月～2005年3月)

会長	田中 隆雄 (東北大学)	理事長	片岡 洋一 (東京理科大学)
副会長	小林 啓孝 (慶應義塾大学)	副理事長	倉重 英樹 (PwCコンサルティング)
	山田 康平 (明治大学)		
常務理事	浅田 孝幸 (大阪大学)	常務理事	西澤 脩 (早稲田大学)
	石崎 忠司 (中央大学)		西村 明 (九州産業大学)
	上埜 進 (甲南大学)		西村 優子 (東洋大学)
	小川 洵 (城西国際大学)		浜田 和樹 (西南学院大学)
	小倉 昇 (筑波大学)		原田 昇 (東京理科大学)
	笠井 賢治 (亜細亜大学)		宮本 寛爾 (大阪学院大学)
	上總 康行 (京都大学)		三代澤経人 (立命館大学)
	崎 章浩 (明治大学)		門田 安弘 (筑波大学)
	田中 雅康 (東京理科大学)		横山 和夫 (東京理科大学)
理事	青木 茂男 (東京国際大学)	理事	佐藤 宗弥 (横浜市立大学)
	伊藤 和憲 (玉川大学)		佐藤 紘光 (早稲田大学)
	大下 丈平 (九州大学)		竹森 一正 (中部大学)
	加登 豊 (神戸大学)		東海 幹夫 (青山学院大学)
	河合 久 (中央大学)		成田 博 (高千穂大学)
	菊井 高昭 (上智大学)		長谷川泰隆 (麗澤大学)
	木島 淑孝 (中央大学)		廣本 敏郎 (一橋大学)
	木村 幾也 (岡山商科大学)		水野 一郎 (関西大学)
	古賀 勉 (福岡大学)		本橋 正美 (明治大学)
	小菅 正伸 (関西学院大学)		柳田 仁 (神奈川大学)
	昆 誠一 (九州産業大学)		吉川 武男 (横浜国立大学)
	坂口 博 (城西大学)	参事	
監事	今井 次郎 (高千穂大学)		
	加藤 隆之 (公認会計士協会)		

役員構成 (2005年4月1日～2008年3月31日)

会長	田中 雅康 (諏訪東京理科大学)	理事長	山田 庫平 (明治大学)
副会長	石崎 忠司 (中央大学)		

	加登 豊 (神戸大学)		
	辻 正雄 (早稲田大学)		
常務理事	青木 雅明 (東北大学)	常務理事	田中 隆雄 (青山学院大学)
	上埜 進 (甲南大学)		西村 明 (九州産業大学)
	笠井 賢治 (亜細亜大学)		西村 優子 (青山学院大学)
	上總 康行 (京都大学)		浜田 和樹 (西南学院大学)
	片岡 洋一 (目白大学)		原田 昇 (東京理科大学)
	古賀 勉 (福岡大学)		水野 一郎 (関西大学)
	小林 啓孝 (早稲田大学)		宮本 寛爾 (大阪学院大学)
	坂口 博 (城西大学)		三代澤経人 (立命館大学)
	崎 章浩 (明治大学)		門田 安弘 (目白大学)
	竹森 一正 (中部大学)		山本 浩二 (大阪府立大学)
理事	青木 茂男 (青山学院大学)	理事	木島 淑孝 (中央大学)
	秋庭 雅夫 (東京工業大学)		小菅 正伸 (関西学院大学)
	浅田 孝幸 (大阪大学)		昆 誠一 (九州産業大学)
	石川 昭 (青山学院大学)		紺野 剛 (中央大学)
	伊藤 和憲 (玉川大学)		佐藤 紘光 (早稲田大学)
	伊藤 嘉博 (早稲田大学)		園田 智昭 (慶應義塾大学)
	井岡 大度 (国士舘大学)		高浦 忠彦 (立教大学)
	大下 丈平 (九州大学)		中瀬 忠和 (中央大学)
	小川 洸 (松蔭大学)		長松 秀志 (駒澤大学)
	小倉 昇 (筑波大学)		廣本 敏郎 (一橋大学)
	尾畑 裕 (一橋大学)		松川 孝一 (早稲田大学)
	河合 久 (中央大学)		矢澤 秀雄 (千葉商科大学)
監事	佐藤 宗弥 (富士大学)	参事	井上 善博 (諏訪東京理科大学)
	高橋 史安 (日本大学)		大鹿 智基 (早稲田大学)
	廣瀬 哲夫 (日本公認会計士協会)		大槻 晴海 (明治大学)
			櫻井 康弘 (高千穂大学)
			山浦 裕幸 (千葉経済大学)

なお、本学会の顔である学会誌『管理会計学』の編集委員会委員長は、会員の研究成果の公表に係る重責を担う職務であり、極めて煩雑な業務を行わなければなりません。つぎの方々がその職務を担当されました。

学会誌『管理会計学』編集委員会委員長(所属は当時)

伏見多美雄教授(慶応義塾大学)1992～1995

門田安弘教授(筑波大学)1995～1999

小倉 昇教授(筑波大学)1999～2005

原田 昇教授(東京理科大学)2005～2008

佐藤紘光教授(早稲田大学)2008～現在

おわりにあたり読み返してみると、まだ、いうべきことや、いい足りない事柄があることに気が付きました。とくに一度書き終えてから、大幅に削った「6.日本管理会計学会編『管理会計学大辞典』の編集」と「7.企業調査研究プロジェクトの成果の発刊」に関する事項については、多くの人々のご協力を書き記すべきですが紙幅の関係で断念せざるを得ませんでした。

本学会の創設と進展にご協力を頂いた方々は、例外を除き、すべて本学会の役員としてご尽力いただいた方々です。ここで皆様に感謝の意を表して本稿を閉じます。(完)



2007. 1. 13 日本管理会計学会 2006年度第三回フォーラム

片岡洋一先生 (2006 年度第 3 回フォーラム自由論題報告 (目白大学))

2. 歴代会長が語る日本管理会計学会の あゆみ

(2008年4月から2020年3月までの歴代会長)

創設30周年を迎えて—回顧と宿望—

名古屋商科大学大学院 辻 正雄

1. 会長に選出されて

2008年4月から2011年3月までの3年間、私は図らずも本学会の会長を務めさせていただきました。その前の3年間は、田中雅康会長と山田庫平理事長の下で石崎忠司先生および加登豊先生とご一緒に副会長として学会運営に携わる機会を賜りました。この間に、学会活動に精通されておられる碩学の執行部4名の先生方からご指導いただいたお陰で、その後の会長職を何とか務めることができたのだと思います。

2007年度の全国大会が東京理科大学で開催された折に行われた選挙で会長に選ばれるや、私は、残された副会長の任期中に原田昇先生、上埜進先生、小倉昇先生、そして崎章浩先生に副会長ご就任の内諾をいただき、次期3年間に解決すべき課題と事業計画について検討を始めました。私が選ばれた理由の一つに、私の在職していた早稲田大学には学会運営の業務を担える先生方が所属しており、参事として期待される若手の人材が揃っていることがあったと思います。事実、大鹿智基先生には参事の方々をまとめていただき、以下の課題解決と事業計画の遂行に一方ならぬご支援を賜りました。

2. コラボレーションの推進について

我が国において管理会計を主たる研究対象とする人々が所属する学会として、本学会の他に、日本原価計算研究学会とAsia-Pacific Management Accounting Association（アジア太平洋管理会計学会）があり、管理会計研究の発展には、この2つの学会とのコラボレーションが欠かせないと考えました。そこで、前者の会長であった廣本敏郎先生と後者の創設者であった西村明先生にご賛同いただき、学会間の交流を促進する活動を開始しました。新規事業のリサーチ・フォーラムは毎年一度、日本原価計算研究学会と共同で開催されるようになり、アジア太平洋管理会計学会の年次大会は、2013年度に上埜先生を委員長として名古屋大学で、2018年度には私を委員長として早稲田大学で、それぞれ開催されました。両大会ともに本学会の会員の方々が中心となり、国際交流に貢献されました。

3. 三選禁止規定の導入について

本学会では役職者は3年ごとに改選されます。当時から会長には再選禁止の規定がありましたが、理事及び常務理事についてはその規定がないために先輩の先生方が繰り返し選出され、世代交代が起こりにくい状況にありました。また、本学会には実務家の会員が多数おられ、理論と実践を学べるという特長を有しながら、実務家の会員が選挙で選ばれるのは稀なことでした。そこで、役職者の選出に三選禁止の規定を設けるとともに、選挙で選ばれ

ない会員を役職者に推挙する規定に加えて、一定数の実務家会員を役職者に推挙することを規定に盛り込んだ、会則の改定を行いました。会長の任期を終えた私は、その後、常務理事を2期、さらに顧問を2期務めさせていただき、着実に世代交代が進み、若手の会員の方々が活発に運営に参画されている姿を実見することができました。

4. 創設 20 周年事業について

会長任期最終の 2010 年度には、執行部がチームワークで本学会の創設 20 周年事業の仕上げに取り組みました。記念事業の一つである英文学会誌の発刊は、編集委員長を上埜先生とウィスコンシン大学の Matsumura 先生に務めていただき、8 編の論文を掲載した *The Journal of Management Accounting, Japan, Supplement 2* として実現しました。また、20 年史の編纂は、小倉先生に纏めていただきました。さらに、創設 20 周年記念大会は、水野一郎先生を大会委員長として、関西大学において盛大に執り行っていただきました。

創設 20 周年事業の一つに『管理会計学大辞典』の改訂を掲げ、中央経済社のご協力を得て、原田先生と共にテキスト・ファイルの作成まで漕ぎ着けました。しかし、その後の改訂作業が進まずに未完成となっており、誠に申し訳ない限りです。『管理会計学大辞典』は学会の財産であり、発刊から 20 数余年を経過しながら改訂せずに置くことは悔いを千載に残すことになりはしないかと、心掛かりです。創設 30 周年を迎えるにあたり、改訂作業の継続についてご検討いただけますと幸甚に存じます。

5. 宿望と感謝

2019 年度からは無役となり、学会活動は久しぶりに研究報告と討議のみへの参加となりました。しかし、学会の運営に関わる活動として最後の機会になると思い、在職している名古屋商科大学大学院で開催した 2020 年度の年次全国大会では委員長を務めさせていただきました。新型コロナ禍にありましたが、いつでもオンライン開催へ切り替える準備を整えた上で万全の感染防止対策を講じ、133 名の方々に名古屋校へお越しいただいて対面による大会を開催することができました。小規模の大学であっても、執行部と会員の方々からご支援を賜れば、全国大会が開催できることをご観照なされたことと存じます。

学会誌『管理会計学』は本年度に記念すべき第 30 巻が刊行される運びとなり、編集委員長の挽文子先生から論文投稿のご案内が会員に向けて発信されました。『管理会計学』は我が国における管理会計領域の学術誌として評価を得ておりますが、論文のほとんどが和文で書かれているため、海外で参照されることは期待できません。30 年の歴史の中で英文誌の刊行はわずか 2 冊に過ぎませんので、今後は発刊の頻度を上げて、h-index と journal impact factor を得られるように取り組むことが望まれます。否応なしに進行する国際化の流れの渦中であって、将来の発展のために学会の国際化へ向けて持続的に改革を進めねばならないと考えます。

学会への入会時から今日まで私は、数多くの会員の方々から暖かいご指導ご鞭撻を賜り、

多くの学ぶ機会を得て、幾多の有意義な経験を積ませていただきました。衷心より感謝申し上げますとともに、会員の皆様のご活躍と学会の更なる発展を祈念いたします。



辻正雄先生（学会の懇親会に於いて）

会長時代の思い出

浅田 孝幸

浅田が会長を務めさせていただいたのは、2011年4月より2014年3月の3年間です。就任当初の2011年は、東日本大震災が3月11日、14:46に発生し、その後、東北地方の混乱をテレビでみて、改めて大変な時代がきたことを、私なりに自覚することから始まりました。かかる混乱が、会長就任には、どれほど、影響したか定かではないですが、多くの会員をふくめて、学会会員の罹災も、学会の継続や通信などで研究活動を維持するうえで、大きな課題であったと思う次第です。ただ、時間の過ぎる速さに、改めて時代の変化と環境の変化がこの10年間でいかに大きかったかを考えさせられる今日この頃です。

私は、会員の皆さんから学会会長の信託をうけて、研究活動の一層の活発化のための会員への要請以外に特段したことは記憶にありません。とりわけ、学会を取り巻く時代の要請による社会科学への期待の変化、社会的環境変化のなかで、管理会計学会も何か、新たな視点なり方向性を出さないといけないのではと感じたことを思い出します。

その1つとして、2013年に産学共同研究会とスタディ・グループを立ち上げました。これらの規程作成等にあたっては、副会長の水野一郎先生が主導してくださいました。産学共同研究会は、大学と産業界が共同して実務に近い分野のなかで、知見を共有あるいは交換するのは、有意義だろうということではじめました。2013年度以来、3つの産学協同研究グループが組織され、研究成果報告書が公表されています。また、スタディ・グループは、会員からの自主的な申請で組織するものです。2013年度以降、ほぼ毎年度、1ないし2つのスタディ・グループが組織されています。いずれも、研究活動の一層の活発化に寄与しているのは喜ばしい限りです。

管理会計は、原価計算と異なり、組織の仕組みとそのマネジメントコントロールのあり方、あるいは、あるべき姿を検討することだと思えます。現在の日本においては、製造業のマネジメントの危機とでも言える状況が一部では、発生しているようです。これは、現場の力が落ちたのが原因とされる一方で、現場部門と企画・技術部門のインターフェイスの問題もあると言われております。いずれにしても、管理会計の中心的領域である原価管理と原価企画・製品デザインなどの技術と人のインターフェイスが、かつて程には、密接でなくなったのが一因かもしれません。あるいは、組織内でのボトムアップの情報交流と連携関係が弱くなってきているのが要因かもしれません。

かかる状況を改善するには、今一度、現場と企画・開発の人的交流を強化し、さらにITを駆使して、これまで以上にイノベーションする仕組みを考える必要があるのではと思えます。そこでは、原価企画の上流部門の戦略・企画・デザインと製造技術部門とのインターフェイス促進の課題を産学共同研究などを通じて解明していくことが重要になっていると

思う次第です。



浅田孝幸先生（2012年度全国大会（国士舘大学））

創立 30 周年記念に寄せて

原田 昇（東京理科大学名誉教授）

日本管理会計学会（The Japanese Association of Management Accounting: 以下 JAMA と略称）は、日本学術会議法に基づく学会として学会員 700 名以上を擁する大きな規模まで発展している。これは所属学会員による長年にわたる多くの研究活動とその成果公表に係る多大な努力の賜物であると深く感謝している。大いなる学会の発展を祝賀し 30 年間に回顧する一言「学会創立の経過」をここに記して、お祝いのことばに代えることとする。

JAMA は、ご存じのように、故片岡洋一教授（東京理科大学）発起人代表の主導のもとで東京理科大学の財政的支援を受けて、1991 年 7 月 27 日に東京芸術劇場で創立総会が行われ、高らかに JAMA の創立が宣言された。同時に第 1 回年次全国大会が開催され、興味深い研究発表と活発な質疑応答が展開された。もともと JAMA は 1987 年創設の日本数理会計学研究会（1989 年日本数理会計学会に改組）を母体として管理会計を主たる研究領域とする学会として創立された。私も発起人の 1 人に名を連ねることになった。発起人による「創立趣意書」は研究者や実務家など多方面に郵送され、学会員を募った。大きな反響を呼び、会長経験者から新しい学会のあり方に対して多大な祝意と激励をいただくとともに、多くのご批判もいただいた。前途洋々であるが前途多難なスタートでもあった。

もとより学術学会は当該分野における研究者による学術情報の交換、研究の促進、および研究活動を多面的に支援し、その研究結果や知見を発表する場を提供するとともに、その研究成果を学術的な観点から中立的かつ客観的に評価し、このことを通じてその品質を保証する組織として存在する。この品質保証は学術情報の流通に信頼性を付与するという重要な任務を果たすことになる。ところが日本における文系の学会のあり方や理念は、他の理工系の分野や欧米のそれと比して、少なからず相違が見られた。この相違は私達の所属する東京理科大学における教育や研究の経験を契機として認識されることになった。

東京理科大学において教員の業績は、研究 4、教育 3、行政 3 の割合で評価されていた。研究業績の評価は主として学会誌掲載の「査読付き英文論文」に限定され、査読なしの論文は非常に低く評価された。この評価にあたって、学部・研究科や研究所などの各組織単位から選出された委員からなる委員会を構成し、それらの委員を同質性の高いグループに振り分け、そのグループごとに担当委員が当該グループ教員の研究業績をスコア化して評価した。またその他の教育や行政の業績もスコア化して評価された。このスコアの合計は教員の金銭的報酬や非金銭的報酬（プロモーションなど）の決定にも利用され反映された。この業績評価システムは文系の教員にとって極めて厳しいもので、理系に準じた研究環境を整備することが急務であった。これが JAMA 創立の 1 つの契機であった。

創立当時、日本における文系の学会では、学会誌への論文掲載の採否を判定するための

「査読制度」が定着しておらず、査読付きのジャーナルがほとんど刊行されていなかった。そこで学会誌掲載論文でも理工学の分野から見ると「学術論文」と認められ難いものであった。そこで、科学一般に通用する学会活動を意図して JAMA が創立され、査読付き学会誌を刊行することになった。もとより学術論文は研究の本質とのかかわりで「新規性」(originality)が重視されるが、結果の追跡可能性を示す「透明性」(transparency)、結果の有用性や方法の妥当性を示す「有効性」(availability)または「妥当性」(validity)、信頼できる方法の採用を示す「信頼性」(reliability)などの科学的な要件(scientific requirements)とばかりでなく、学術論文としての文体上の体裁の要件(stylistic requirements)も要諦される。

これらの要件を具備して受理され学会誌に掲載されたものが「学術論文」として認められる。論文採否の判定は「査読制度」によることになる。もちろん要件の適用には学会や当該学問分野によってその適用に軽重が異なる。査読は「編集委員による査読」(editorial review)と「同僚専門家による査読」(peer review)に大別されるが、査読の基本は後者にあり前者はその前段階として査読に値するか否かが問われる。また査読制度には、執筆者と査読者や担当編集委員とが互いに匿名である「ダブルブラインド制」と、査読者に執筆者名を知らせる「シングルブラインド制」とがある。JAMA はダブルブラインドによる査読制度を採用した。査読制度にはそれぞれ長所ばかりでなく短所や問題点が潜んでおり、研究の状況に応じて柔軟にその組合せやオープン化の工夫を絶えず再構築する必要がある。

JAMA では、創立以来、新しい学会のあり方を模索し、さまざまな事業を試行してきた。主な事業内容は、①研究の促進のための共同研究(スタディ・グループ、産学共同研究グループ、企業研究会などの開催)、②研究成果の発表(年次全国大会、フォーラム、リサーチ・セミナー)、③研究成果の発刊(査読付き学会誌の刊行)、④記念事業(英文学会誌の刊行、管理会計学大辞典や企業調査研究プロジェクトの出版)などである。もちろん新しいアイデアや絶えざる再構築が重要になる。学会誌の改革は緊急性を要するレター論文(letter paper)、特定分野に係る研究状況とその展望を示すレビュー論文(review paper)などの取り扱い、グローバルな意味で「新規性」の主張が可能となる「英語論文」の刊行や年次全国大会の「プロシーディング」への査読の導入なども必要となる。要するに、将来における研究環境の変化に対して柔軟に適応して、それに有効な戦略を主体的に組織に浸透させ実行し、絶えず学会のあり方を根本から「再構築」することが肝要である。

最後に、JAMA の学術的研究支援の総括的成果に深く感謝して創立 30 周年をお祝いするとともに、さらなる学会の発展を祈念しつつ、ここに筆を擱く。



原田昇先生（2015年度全国大会（近畿大学））

学会創設 30 周年を祝して：個人的な思い出と共に

水野一郎（関西大学教授）

1. 入会の頃の思い出

日本管理会計学会は初代会長の片岡洋一先生の再掲された玉稿にあるように、その前身は数理会計学研究会として発足しました。この学会の情報が届いたのは私が鹿児島大学に勤務していた時代であり、その専門内容から私には関係がないと思っていましたが、1991年に管理会計学会として誕生した頃から関心を寄せるようになり、1992年に佐賀大学に転出してから、本学会に入会することになりました。まだ九州部会が開設されていない時期でしたが、九州産業大学で1993年に全国大会が開催され、1997年にはフォーラムが開催され、九州産業大学の昆誠一先生が積極的に学会活動をされていたのが印象に残っています。昆先生には当時の学会の中心メンバーと共に中洲の有名なラウンジに連れて行っていただいたことも思い出に残っています。

この時期に中国北京で開催された日中会計統計国際シンポジウムでお世話になった九州大学の西村明先生、大下丈平先生をはじめ北部九州の先生方と交流を深めることができました。その後1998年に関西大学に転出してから本学会とさらに深く関わることになりました。2000年に関西部会が設立されるのですが、その前後に浅田孝幸先生に声を掛けていただき、三代澤経人先生、上總康行先生と会食し、宮本寛爾先生、上埜進先生、竹森一正先生とも交流させていただき、その後関西・中部部会の部会長にもなり、部会の発展にもお手伝いさせていただくことになりました。

2. 学会での発表について

管理会計学会では、1999年に福岡大学で開催された第9回全国大会で「付加価値とスループット会計」をテーマに報告させていただいたのが最初ですが、その後は以下のような報告を致しました。私にとっては先生方からご指導いただいた大変懐かしい報告です。

- ・「組織変革と管理会計－持株会社を中心として－」関西部会統一論題報告（於：立命館大学 2001年）
- ・「中国における管理会計の動向と課題－人的資源会計を中心として－」共同報告 全国大会（於：東北大学 2001年）
- ・「中国における管理会計研究の動向」九州部会（於：九州産業大学 2004年）
- ・「企業の社会的責任と管理会計の役割」関西中部部会統一論題報告（於：立命館大学 2005年）
- ・「現代中国における管理会計の動向と特質－財務管理制度との関わりの中で－」関西中部部会（於：甲南大学 2006年）
- ・「中国における管理会計の動向－理論と実務－」関西中部部会統一論題報告（於：甲南大学 2013年）
- ・「中小企業における管理会計の総合的研究」管理会計学会スタディ・グループ（研究代表：

水野一郎) 共同報告 中間報告 (於: 近畿大学 2015 年) 最終報告 (於: 明治大学 2016 年)

・「CSV と付加価値概念の再考—人本主義管理会計の展開を目指して—」九州部会 (於: 長崎県立大学 2018 年)

また、学会活動として 2003 年度の第 1 回関西・中部部会、2007 年度の第 1 回関西・中部部会、そして 2011 年には学会創設 20 周年記念全国大会を多くの先生方のご支援とご協力で開催させていただきました。さらに 2020 年度の関西・中部部会は、開催校として関西大学でお引受けしたものの、コロナの影響で開催の延期が続き、やっと 11 月に ZOOM によるオンライン部会を初めて開催したことも忘れられない思い出となりました。

3. 会長として取り組んできたこと

2001 年に初めて学会の理事に選出され、2005 年からは常務理事にも選出され、2011 年からは浅田孝幸会長の下で副会長を仰せつかり、2016 年に会長に選出され、2017 年 4 月から 3 年間務めさせていただくことになりました。

会長としての業務を開始するにあたって、これまでとは異例のことでしたが、最初の常務理事会、理事会で在任期間の 3 年間の中期目標として次のようなスローガンと目標を打ち出しました。すなわち「管理会計学会の創設の理念と原点に立ち返り、創設 30 周年に向けて学会の再興と発展を！」というスローガンを掲げ、①産学連携と「開かれた学会」、②学術誌としての充実・国際化、③活発な研究会活動を目標としたのです。

そして特に重点的取り組みとして、3 つの課題を提示しました。①科学技術振興機構が運営する論文プラットフォーム「J-STAGE」への速やかな移行のために広報委員会と編集委員会が共同して対応すること。②学会誌「管理会計学」の改善と活性化のための課題と具体的な方針の確立、そのための編集委員会活動の見直しと活性化をはかること。③ GMAP (Global Management Accounting Principles) の翻訳作業を完成させ、産学共同研究グループへと発展させること。そしてこれらの課題については、会員の皆さまのご支援とご協力によりほぼ予定通り遂行できました。とくに①については専修大学の岩田弘尚先生にご負担お掛けし、②については編集委員長として専修大学の伊藤和憲先生にご尽力いただき、③については東北大学の青木雅明先生にお世話になりました。ここにあらためて記して感謝申し上げます。

その他には、学会創設 30 周年記念準備委員会を発足させ、30 年史の準備を開始しました。また会員種別に関して会則を修正しました。賛助会員の権利に関連して「3 口以上の賛助会員は 2 名まで参加費および懇親会費が免除される」を盛り込んで賛助会員の法人が学会に参加しやすくしました。特別会員についても「正会員期間 10 年以上かつ 65 歳以上の常勤の職に就いていない者」に修正し、定年を迎えた会員がただちに退会ではなくて、特別会員に種別変更し、引き続き学会活動に参加しやすくしました。

そして最後の大きな仕事として学会業務の外部委託の件がありました。これは 2019 年度

の常務理事会，理事会，総会で承認していただいたうえで交渉を開始し，最終的に新会長の伊藤和憲先生にもご協力いただき，学会誌を印刷していただいている株式会社国際文献社にお願いすることができました。これによって学会のかなりの財政的負担が生じますが，学会の業務活動は大いに軽減することになりました。

2017年4月から3年間の会長の職務を無事，務めさせていただけたのは，会員の皆様方のご支援，ご協力のお陰ですが，直接的には副会長，参事の先生方の支えがあったからこそです。心より厚くお礼申し上げます。



水野一郎先生（2005年度第1回関西・中部部会統一論題報告（立命館大学））

3. 功労者が語る日本管理会計学会の あゆみ

(氏名の五十音順に掲載)

日本管理会計学会九州部会の歩み

丸田 起大

(本稿は、2018年3月11日に、西村明先生に対して、水野一郎先生、大下丈平先生、および丸田がインタビューした内容の抄録である)

1. 日本管理会計学会の創成期

(大下) 日本管理会計学会の創成期の様子や九州部会の設立の経緯についてお話しください。

(西村) 1991年に日本管理会計学会を創設するとの連絡が来ました。創設と同時に理事に就任し、1999年まで理事を、1999年から2001年までは副会長を、2002年から2008年までは常任理事を務めました。学会では、当時の他の学会での伝統的な研究スタイルとは違い、数理モデルを使った研究や実証的なケーススタディが報告されており、テーマや研究方法が新鮮で活気にあふれていました。副会長時代には学会賞審査委員長も務め、責任重大で大変でしたが、ユニークな研究を評価することを意識していました。

2. 九州部会の設立

(西村) もともと、九州大学を中心として近隣の大学の先生方と研究会を開催しており、昆誠一先生らとともに数理モデル研究を勉強し、Kapanの翻訳書を刊行したりしていました(R. S. Kaplan 著、西村明・昆誠一監訳『上級管理会計』中央経済社、1989年)。

(水野) 翻訳が出たときは、九州の研究者たちが最先端を行っていることに驚かされました。

(西村) 副会長のときに、その研究会を母体にしながら、福岡だけでなく九州全体の管理会計の研究者が交流できる場を作ればとの思いで、古賀勉先生、浜田和樹先生、昆先生に相談して、2000年に九州部会を設立しました。第1回は2000年4月に西南学院大学で開催していただき、大下先生に報告していただきました。また学術研究だけでなく実務の理解も重視する学会の方向性に賛同し、第1回は㈱はせがわ、第2回は㈱リンガーハットの実務について社長さんに講演していただきました。古賀先生、浜田先生、昆先生には、部会の幹事を、大下先生には九州部会の事務局を、それぞれお願いし、部会を年に3回は開催しようとみんなで頑張りました。



(西村明先生)

3. アジア太平洋管理会計学会との連携

(水野) 日本管理会計学会とアジア太平洋管理会計学会 (Asia-Pacific Management Accounting Association) との関わり合いについてお話しください。

(西村) 1993年3月から1年間ニュージーランドでの在外研究のご縁で、オタゴ大学の Willett 教授らとともに、アジア太平洋地域の会計を研究する国際プロジェクトを開始し、共同研究の成果を日本語版 (西村明・R.ウィレット・N.バイドン編著『アジア太平洋地域の会計』九州大学出版会, 1995年) や英語版 (N. Baydoun, A. Nishimura, and R. Willett ed., *Accounting in the Asia Pacific Region*, Wiley, 1997) で出版しました。そのつながりから、中国、香港、韓国、シンガポール、マレーシア、タイの研究者を訪問し、アジア太平洋地域の管理会計研究者のための学会を作ろうと相談し、2002年11月にキックオフのためのフォーラムを九州大学で開催しました。その際、関西中部部会に共催していただき、宮本寛爾先生や小菅正伸先生にご報告いただきました。また海外からの報告者の招聘経費を学会の企業調査部会が支援してくださったおかげで、最初のフォーラムが実現しました。九州大学が主催した第3回フォーラムでは田中雅康先生に、別府大学で開催された第5回では門田安弘先生に、国際的にも著名な先生方に基調講演をいただきました。現在も、上埜進先生を中心にして、日本管理会計学会の会員の多くみなさまに支えられており、感謝しております。

4. これからの九州部会へのエール

(大下) これからの九州部会に対して期待することをお話しください。

(西村) 九州部会は、管理会計の研究者に限らず、財務会計、監査、財政学など他分野の研究者や、専門学校の先生、コンサルタント、公認会計士など、様々な方々の研究報告を歓迎するアットホームでオープンな雰囲気がいいと思っています。また、中国、ニュージーランド、フランス、タイなど、海外から研究者を招聘し、さらに他部会

の大学へ招聘された海外の研究者も積極的に歓迎してきました。ぜひこれからも続けてもらいたいと思います。さらに部会のいいところは、全国大会よりも報告時間を長めにとって、じっくりと議論できることです。とくに若手研究者や大学院生は、全国大会に挑戦する前に、鍛えてもらう場として部会をうまく活用してもらいたいと思います。

日本管理会計学会の関西部会と関西・中部部会

宮本 寛爾

1. 関西部会について

1999年の常任理事の役割分担での地方部会運営委員会の委員長が(故)三代沢経人氏(立命館大学)、副委員長が私でした。常務理事会の議案で4番目か5番目にはいつも「地方部会の活動の活性化について」が記載されていました。なお、九州部会は西村明氏(九州大学)を中心に、すでに、3回開催されていました。大阪大学で開催された2000年の常務理事会の前に、(故)三代沢氏からの電話で、地方部会運営委員会の委員長と副委員長の地元で関西部会が開催されていないのは、任務怠慢であり、早く関西の関係者が集まり、関西部会を開催するための準備をしようとの話がありました。そこで、私とその準備をすることとなり、私の大学(関西学院大学)で国際管理会計をテーマにして、研究者1名と実務家1名の報告会を開き、その後で関係者が集まり正式な第1回目の関西部会を開催するための会議を持つことを二人の間で決めました。

私はオーストラリアのシドニーに滞在中の同僚の小菅正伸氏に電話をし、次に、私の松下電器産業株式会社の国際管理会計の実態調査の研究についてお世話をして頂いた花木孝道様に電話をして、両人の承諾を得て、関西在住の会員を中心に30名程度で開催しようと言うことを三代沢氏と決定しました。開催日は、花木様の都合と私の大学の推薦試験の日程との関係(私が推薦試験の責任者になっていますので)で11月18日しかとれませんでした。その1週間後に沖縄でフォーラムが開催されても影響はないと判断しておりました。ところが、9月15日の全国大会の理事懇親会場で上埜進氏(甲南大学)に報告会とその後の第1回の関西部会の開催について話をしたところ、それなら懇親会を行い、ディスカッションを決めようという提案があり、司会は上埜氏にしてもらうことになりました。また懇親会も行うことに決めました。次の日の懇親会で(故)片岡洋一理事長にこの話をしますと、「私も参加可能なので出席します、また案内状を関西の一部の会員に出すのではなく、本部から全会員に出すのが本学会の方針であり、第1回の関西部会とするのがよい」と即決され、三代沢氏と私は言われるままに第1回の関西部会を開催することにしました。

全国大会終了後、9月21日に帰宅し、翌22日に懇親会場を準備するために大学の関学会館の予約センターに行きまして、相談をしたら、11月18日は土曜日で、結婚式や他の学会がすでに会場を予約しており、空きがないとのこと、担当の月城和江様に何とかありませんかとお知恵を借りましたところ、会館内のレストラン・ポプラと交渉して下さり、椅子席の40名程度で、他のお客と同席することとなるがよろしいかとのこと、結構ですと即決しました。以上のような理由で第1回目の関西部会は準備不足のまま開催することになりました。なお、関西部会(関西・中部部会に名称変更するまで)の活動は以下の如くです。

- ①第1回関西部会 2000年11月18日(土) 関西学院大学にて開催。
- ②第1回経営セミナー 2001年2月23日(金) 大阪大学にて開催。
- ③第2回関西部会をフォーラムと合同で 2001年6月30日(土) 立命館大学で開催

2. 関西・中部部会について

2000年11月18日(土) 関西学院大学で開催された第1回関西部会の出席者の少ないことから、部会の開催前に開催された地方部会運営委員会で関西部会を関西・中部部会と名称変更することが決定されました。なお、(仮) 関西・中部部会第1回役員会には、別紙の関西・中部部会役員に、地方部会委員会委員長の三代澤氏、副委員長の私とオブザーバーとして、理事長の片岡氏、副会長の西村氏が出席しました。

私は2001年4月に大阪学院大学に移りました。2001年9月21日(金) 大阪学院大学において、仮決定の関西・中部部会の役員から就任の承諾を得て、第1回役員会(役員名は添付ファイル)を開催し、関西・中部部会は関西、中国、四国、北陸および中部の会員をもって構成し、関西・中部部会およびフォーラムを開催することおよび企業調査研究に積極的に参加し、管理会計の研究を行うことを決定しました。

2010年に大阪学院大学で2回目の関西・中部部会とフォーラムを一緒に開催しました。私にとって非常に印象深い部会でした。上野山 実氏(パナソニック株式会社, 常務取締役)が演題「パナソニックの経営理念と経営管理制度」で講演された。パナソニックの経営理念、経営管理制度、資金管理制度、業績評価制度、グローバル経営管理、経理社員制度まで詳しく語られました。次に、統一論題「管理と会計」が浜田和樹氏(関西学院大学)の司会で、報告者は北田幹人氏(八木通商株式会社, 常務取締役)の「専門商社の経営管理」、横山俊宏氏(株式会社竹中工務店, 常勤監査役)の「建設業におけるプロジェクトをベースとした経営管理」そして大下丈平氏(九州大学)の「不況の管理会計学: 「管理と会計」に寄せて」の3氏により行われました。

上野山氏の講演は会員が関心のある問題であり、多くの会員から講演の power point が欲しいとの申し込みがあり、メールで送付しました。また、統一論題では大下氏の独壇場で敬服しましたのを覚えています。

3. 関西・中部部会の主たる活動

部会やフォーラムの他に、関西・中部部会として企業調査を行うために、企業調査研究委員会を設置し、経営戦略、国際管理会計、原価管理そして多国籍企業の4分野に分けて、各委員会のメンバーを決めました(各委員会とメンバーは添付ファイル)。私は国際管理会計の研究会を2001年7月に開催し、当時の松下電器産業株式会社、シャープ株式会社そして三洋電機株式会社を調査することを決定しました。この成果として、日本管理会計学会-企業調査研究プロジェクト-シリーズ No.8 宮本寛爾編著(2012)『実態調査からみた国際管理会計』(税務経理協会)を出版しました。これより前に、この調査研究をもとに、英

文書 Kanji Miyamoto ed. (2008), *International Management Accounting in Japan*, World Scientific Publishing Co. Pte. Ltd. を出版しています。

4. 日本管理会計学会と関西・中部部会への希望

上記の企業調査研究会のようなチームのよる研究をいくつかの課題を設定して行ってはどうかと思います。その課題の一つに多国籍企業（グローバル企業）の管理会計を加えて頂きたい。

近年、企業環境は経済や市場のグローバル化、IT 技術を含む技術革新の急速な進歩により、不確実性やリスクが増大しています。技術の高度化や製品の高機能化などにより、企業が単独で経営活動を遂行するのは経営資源の制約上、困難であり、企業間のネットワーク連携あるいはビジネス・エコシステムが不可欠となっています。このため、多国籍企業はグローバル・アライアンスを行う企業が増加しています。かかる企業の管理会計についての研究が行われることを希望します。

日本管理会計学会：創成期の活動の思い出

門田 安弘

1. まえがき

日本管理会計学会（JAMA）の草創期において、私もその組織化に関与する機会を与えていただき、本当にありがたく感謝しています。いま、私は満 78 歳になり、私の人生の若き時代はもう一度繰り返すことはできませんが、若い元気な時期に、JAMA の活動で皆様に引っ張られながら、一所懸命にその活動に関与できましたことは、それが多くに先生方と一緒に共同して行いましたので、その人間関係を通じて苦しくも楽しい若い日々を送ることができました。かけがえのない、素晴らしい若き人生を過ごすことができたこと、衷心より感謝しています。

2. 日本管理会計学会との係りをもった経緯（前身の数理会計研究会との係り）

1980 年代の終わり頃に東京理科大の神楽坂校舎で片岡洋一教授が「数理会計研究会」を創設され、私も管理会計の数学的研究に興味がありましたので、これに参加させていただきました。さらにこの研究会が「数理会計学会」と名称変更された折には、確か東京理科大の神楽坂校舎での発表会で、私は「協力ゲーム理論による累積的機会原価法」という手法を発表したことは、この研究会での忘れえぬ思い出です。

その手法は理科大の鈴木光男教授がその著「ゲームの理論」（勁草書房、1959 年）に書かれていた「 Φ （ファイ）安定」という概念を満たすような利益配分法であり、私が自分で苦労してオリジナルに開発した手法です。（特にネットワーク組織のメンバーが無限大にまで増えても「 Φ 安定」が成立することを数学的に証明しました。）

発表日に、たまたま当の鈴木光男先生が目の前で聞いておられ、私の手法が Φ 安定もコア条件も満たしていると言われ、とても嬉しく思いました。この手法は「日本経営工学会誌」にも公刊でき、私の博士論文（筑波大学）のコア論文の一つになりました。

3. 日本管理会計学会の役員としての活動（暦年順）

これについては時系列的には、次のようなものがありますが、主要な 3 つの業務についてのみ、思い出を述べておきます。

1. 日本管理会計学会 常務理事 1992 年 10 月～1999 年 3 月。2002 年 4 月～2017 年 3 月
2. 日本管理会計学会「管理会計学大辞典」編集委員長 1995 年～2000 年 9 月
3. 日本学術会議・会計学研究連絡委員会委員 1997 年 10 月 21 日～2000 年 10 月 20 日
4. 日本管理会計学会・学会誌「管理会計学」編集委員長 1999 年 4 月～2002 年 3 月
5. 日本管理会計学会 副会長 1999 年 4 月 1 日～2002 年 3 月 31 日

3.1 学会誌「管理会計学」編集委員長：1999年4月～2002年3月

学会誌の「管理会計学」の編集委員長の仕事は、私は初代の伏見多美雄教授のすぐ後任でした。これが査読付きジャーナルということで、原則、査読者は2名でしたが、評点A,B,C,Fの基準でどちらか1名がC未満の評点を付けると、第3番目の査読者を割り当てます。評点Cの査読が出ると審査は続行するが改定を要求し再査読になります。これらは煩雑ですが、編集委員長として最も大変だったのは、適切な査読者を探して依頼する仕事でした。また評点C未満がでるとまた新しい査読者を探して依頼しなければなりません。また合わせて、毎年2つの号の出版をタイムリーにきちんと行うべきという要件も満たさなければなりません。

しかしながら、なんととっても、査読にご協力いただいた多くの先生方には衷心より感謝申し上げます。

さらに、多くの投稿がありましたので、これは余程きちんと整理してやらないと、混乱します。そこでその整理技術としては、EXCELを使って時系列的に整理しました。また郵送によるやり取りのため、事務量大変多い。私の場合は学内の研究事務助手に助けられていたので、この補助には大いに感謝しています。

もう一つ、編集委員長在任中に私が新しく行ったささやかな仕事の一つは、各論文のWord原稿を「カメラレディ」でそのまま印刷に機械的に回せるようにしたこと。当時、学会誌の印刷費が1号あたりに80万円余もかかっており、これは学会の予算使用で最大の費目であり、なんとか印刷費を大幅に減らす必要がありました。そこで印刷屋の方で組版編集の事務をなくすようにし、「カメラレディ」印刷を可能にする必要があったのです。

この「カメラレディ方式」のために、私は「論文規格」を決め、印刷前の編集事務が省けるようにしましたが、この規格は今も使われています。ただし、それは私の後任で小倉先生が編集委員長となられた時にさらに改良されたものです。

3.2 「管理会計学大辞典」の編纂：1995年～2000年9月

1995年には、管理会計学会編「管理会計学大辞典」（中央経済社）の編集委員長を拝命し、約6年間の歳月をかけて2000年8月に「2段組 総1000ページ」の書籍として出版しました。本辞典は、学会のまさに総力をかけ、ほぼ全会員に執筆していただいたものであり、全会員の皆様に感謝申し上げます。さらに特筆しておくべきことですが、献身的なコア編集委員の原田昇・佐藤紘光・小倉昇の3先生が特に用語別のデータベースをパソコン上に作り整理されたことが完成の最大の貢献でした。

終盤の頃にはこれら編集委員の先生方が筑波大学や拙宅にも来られ、未筆のままの項目などを分担して執筆していただいたことも、私の人生においてかけがえのない懐かしい思い出です。

この大辞典は世界的に見わたしても、未だに類書がなく、当学会のこれらのコア編集委員の先生方とすべての会員の皆様の功績として、日本の管理会計史にとって大きな仕事と評

価値あるべきものです。

3.3 「企業調査研究プロジェクト」総括委員会委員長：2002年~2004年

2001年には片岡洋一理事長から、当学会の創立10周年の記念として、日本の管理会計および広く経営管理の実務の現状を実証研究するプロジェクトが発案されました。その結果、多くの分野別の専門委員会が設立されました。その際、当プロジェクト全体の実施運営に関する「総括委員会」が設けられ、私とその総括委員長として実務の運営を拝命しましたが、これは実際まことに大変な仕事で苦心したものでした。だが幸いに私と特に親しくしていただいていた先生方のご協力のお陰で、木村幾也先生、井岡大度先生、浜田和樹先生、李健泳先生・小菅正信先生・長坂悦敬先生、上埜進先生、溝口周二先生、宮本寛爾先生その他の先生の号が次々と出版されることになりました。この総括委員会は、私の後任として原田昇先生に引き継いでいただきました。

日本管理会計学会との関わりと活動の概括

明治大学名誉教授 山田 庫平

1 日本管理会計学会との関わりをもった経緯

- (1) 日本管理会計学会は、1991年「日本数理会計学会」から「日本管理会計学会」へと名称を変更した。この名称の変更を機に同学会に入会した。同学会に入会した年度ははっきり覚えていないが、多分1992・3年と思う。
- (2) 同学会活動に積極的に参加するようになったのは、1995年からである。1996年度の全国大会が明治大学で開催されることになり、その準備が1995年から行われてからである。

2 学会役員としての活動

- (1) 理事：1995年4月～1999年3月
 - (2) 常務理事：1999年4月～2002年3月
2008年4月～2011年3月
 - (3) 副会長：2002年4月～2005年3月
 - (4) 理事長：2005年4月～2008年3月
 - (5) 顧問：2011年4月～2014年3月
- ※ 常務理事会において、日本経済学会連合会評議員に選出され、同評議員を1999年4月より2005年3月まで務めた。

3 全国大会等を主催した経験

- (1) 全国大会
 - ① 明治大学において、1996年度の全国大会を9月18日（土）～20日（月）に開催した。
 - ② 統一論題および報告書等は、次のとおりである。
統一論題：ABMによる経営革新の現状と展望
「機能原価計算による経営革新」田中雅康（東京理科大学）
「日本企業の経営革新の意義とABC/ABMの可能性」浅田孝幸（大阪大学）
「ABC/ABMによる本社費の配賦と管理」安部彰一（NECシステム建機（株））
「SAP R/3で実現するABM」中根 滋（SAP ジャパン（株））
 - ③ 特別公演
「ダグアウトからみた倉庫業」中村 浩（旭運輸（株）取締役社長）
 - ④ 自由論題報告

12 件の報告が行われた。

(2) フォーラム

① 明治大学において、2002 年度第 1 回フォーラムを 4 月 6 日（土）および 2004 年度第 1 回フォーラムを 4 月 3 日（土）に開催した。

② 2002 年度第 1 回フォーラム

統一論題：「環境マネジメントと管理会計情報」

「環境管理会計の展開と国際動向」水口 剛（高崎経済大学）

「キヤノンにおける環境への取り組み」古田清人（キヤノン（株））

「日本におけるマテリアルフローコスト会計の導入事例について」中嶋道靖（関西大学）

自由論題報告：4 件の報告が行われた。

③ 2004 年度第 1 回フォーラム

統一論題：「PM の管理会計 - 新しいフレームワークの構築」

「P2M とは何か - その目的と意義」小原重信（シドニー工科大学）

「PBSC および P Budgeting のフレームワーク」鈴木研一（明治大学）

「PM 型マネジメント・コントロールの事例と意義」芝尾芳昭

(IBM ビジネスコンサルティングサービス（株）)

「PBSC および P Budgeting の実務への適応可能性」川野克典

(ベリングポイント（株）)

自由論題報告：3 件の報告が行われた。

第 2 部 資料集

1 歴代役員

(2008年3月末までは第1部に掲載済みのため、2008年4月1日以降の役員を掲載。所属は就任時のもの。)

役員構成 (2008年4月1日~2011年3月31日)

会長	辻 正雄 (早稲田大学)		
副会長	上埜 進 (甲南大学)	副会長	原田 昇 (東京理科大学)
	小倉 昇 (筑波大学)		
常務理事	青木 茂男 (青山学院大学)	常務理事	佐藤 紘光 (早稲田大学)
	浅田 孝幸 (大阪大学)		田中 雅康 (東京理科大学名誉教授)
	石崎 忠司 (中央大学)		水野 一郎 (関西大学)
	伊藤 嘉博 (早稲田大学)		溝口 周二 (横浜国立大学)
	片岡 洋一 (目白大学)		宮本 寛爾 (大阪学院大学)
	加登 豊 (神戸大学)		三代澤経人 (立命館大学)
	菊井 高昭 (上智大学)		門田 安弘 (目白大学)
	昆 誠一 (九州産業大学)		山田 庫平 (明治大学)
	坂口 博 (城西大学)		横山 和夫 (東京理科大学)
	崎 章浩 (明治大学)		
理事	青木 雅明 (東北大学)	理事	園田 智昭 (慶應義塾大学)
	李 健泳 (新潟大学)		竹森 一正 (中部大学)
	伊藤 和憲 (専修大学)		長屋 信義 (産能大学)
	井岡 大度 (国土舘大学)		成田 博 (高千穂大学)
	大下 丈平 (九州大学)		西村 優子 (青山学院大学)
	大島 正克 (亜細亜大学)		長谷川恵一 (早稲田大学)
	笠井 賢治 (亜細亜大学)		長谷川泰隆 (麗澤大学)
	上總 康行 (福井県立大学)		浜田 和樹 (関西学院大学)
	河合 久 (中央大学)		廣本 敏郎 (一橋大学)
	古賀 勉 (福岡大学)		山下 裕企 (東京理科大学)
	小菅 正伸 (関西学院大学)		山本 正彦 (愛知東邦大学)
	小林 啓孝 (早稲田大学)		吉岡 正道 (東京理科大学)
	澤邊 紀生 (京都大学)		吉村 聡 (流通経済大学)
	清水 孝 (早稲田大学)		
監事	紺野 剛 (中央大学)	参事	海老原 崇 (武蔵大学)
	高橋 史安 (日本大学)		大鹿 智基 (早稲田大学)
	廣瀬 哲夫 (日本公認会計士協会)		大槻 晴海 (明治大学)

参事 櫻井 康弘 (高千穂大学)
 鈴木 孝則 (早稲田大学)
 堀井 悟志 (立命館大学)

役員構成 (2011年4月1日~2014年3月31日)

会長	浅田 孝幸 (立命館大学)		
副会長	伊藤 和憲 (専修大学)	副会長	浜田 和樹 (関西学院大学)
	園田 智昭 (慶應義塾大学)		水野 一郎 (関西大学)
常務理事	李 健泳 (新潟大学)	常務理事	崎 章浩 (明治大学)
	石崎 忠司 (中央大学)		佐藤 紘光 (早稲田大学)
	上埜 進 (甲南大学)		辻 正雄 (早稲田大学)
	大島 正克 (亜細亜大学)		長坂 悦敬 (甲南大学)
	小倉 昇 (青山学院大学)		長谷川泰隆 (麗澤大学)
	片岡 洋一 (目白大学)		原田 昇 (東京理科大学)
	河合 久 (中央大学)		門田 安弘 (目白大学)
	菊井 高昭 (上智大学)		山田 庫平 (明治大学)
	小菅 正伸 (関西学院大学)		横山 和夫 (東京理科大学)
	小林 啓孝 (早稲田大学)		吉岡 正道 (東京理科大学)
理事	青木 茂男 (茨城キリスト教大学)	理事	鈴木 研一 (明治大学)
	青木 雅明 (東北大学)		長屋 信義 (産業能率大学)
	新江 孝 (日本大学)		河 榮徳 (早稲田大学)
	伊藤 嘉博 (早稲田大学)		朴 景淑 (摂南大学)
	井岡 大度 (国土館大学)		平岡 秀福 (創価大学)
	今林 正明 (目白大学)		星 法子 (白鷗大学)
	大下 丈平 (九州大学)		星野 優太 (名古屋市立大学)
	尾畑 裕 (一橋大学)		山下 裕企 (愛知大学)
	加登 豊 (神戸大学)		山本 達司 (名古屋大学)
	昆 誠一 (九州産業大学)		山本 正彦 (愛知東邦大学)
	芝尾 芳昭 (イノベーション・マネジメント(株))		吉村 聡 (流通経済大学)
	清水 孝 (早稲田大学)		八木 和則 (横河電機(株))
	清水 信匡 (早稲田大学)		和田 淳蔵 (岡山大学)
	白銀 良三 (国土館大学)		
顧問	田中 雅康 (東京理科大学)	顧問	宮本 寛爾 (大阪学院大学)
監事	小宮山 賢 (あずさ監査法人)	参事	岩田 弘尚 (専修大学)
	鈴木 浩三 (東京都庁)		内山 哲彦 (千葉大学)
	廣瀬 哲夫 (日本公認会計士協会)		岡 照二 (関西大学)

参事 坂手 啓介 (大阪商業大学)
 椎葉 淳 (大阪大学)
 鈴木 孝則 (早稲田大学)
 三浦 徹志 (大阪成蹊短期大学)
 山口 直也 (新潟大学)

役員構成 (2014年4月1日~2017年3月31日)

会長	原田 昇 (目白大学)		
副会長	青木 雅明 (東北大学)	副会長	木村 彰吾 (名古屋大学)
	大島 正克 (亜細亜大学)		清水 孝 (早稲田大学)
常務理事	浅田 孝幸 (立命館大学)	常務理事	辻 正雄 (早稲田大学)
	新江 孝 (日本大学)		長坂 悦敬 (甲南大学)
	李 健泳 (新潟大学)		長屋 信義 (産業能率大学)
	伊藤 和憲 (専修大学)		長谷川泰隆 (麗澤大学)
	上埜 進 (甲南大学)		浜田 和樹 (関西学院大学)
	片岡 洋一 (東京理科大学)		平岡 秀福 (創価大学)
	河合 久 (中央大学)		水野 一郎 (関西大学)
	菊井 高昭 (東京学芸大学)		皆川 芳輝 (名古屋学院大学)
	小菅 正伸 (関西学院大学)		門田 安弘 (筑波大学)
	清水 信匡 (早稲田大学)		柳 良平 (エーザイ(株))
	園田 智昭 (慶應義塾大学)		吉岡 正道 (東京理科大学)
	田坂 公 (久留米大学)		横山 和夫 (公認会計士)
理事	青木 章通 (専修大学)	理事	佐藤 紘光 (早稲田大学)
	飯島 康道 (愛知学院大学)		澤邊 紀生 (京都大学)
	伊藤 克容 (成蹊大学)		白銀 良三 (国士舘大学)
	伊藤 嘉博 (早稲田大学)		鈴木 研一 (明治大学)
	井岡 大度 (国士舘大学)		鈴木 孝則 (早稲田大学)
	今林 正明 (目白大学)		平井 裕久 (高崎経済大学)
	内山 哲彦 (千葉大学)		星野 優太 (名古屋市立大学)
	大下 丈平 (九州大学)		宮本 寛爾 (大阪学院大学)
	小倉 昇 (青山学院大学)		森 久 (明治大学)
	尾畑 裕 (一橋大学)		安酸 建二 (近畿大学)
	梶原 武久 (神戸大学)		山下 裕企 (青山学院大学)
	片岡 洋人 (明治大学)		吉村 聡 (流通経済大学)
	小林 啓孝 (早稲田大学)		渡辺 岳夫 (中央大学)
	昆 誠一 (九州産業大学)		

顧問 石崎 忠司 (松陰大学)
田中 雅康 (東京理科大学)

監事 小宮山 賢 (早稲田大学)
齋藤 孝一 (南山大学)
鈴木 浩三 (東京都庁)

顧問 山田 庫平 (明治大学)

参事 岩田 弘尚 (専修大学)
庵谷 治男 (長崎大学)
楠 由記子 (青山学院大学)
杉山 善浩 (甲南大学)
松田 康弘 (東北大学)
間普 崇 (関東学園大学)
吉岡 勉 (産業能率大学)
渡邊 直人 (大東文化大学)

役員構成 (2017年4月1日~2020年3月31日)

会長	水野 一郎 (関西大学)	副会長	澤邊 紀生 (京都大学)
副会長	伊藤 嘉博 (早稲田大学)		中川 優 (同志社大学)
	井岡 大度 (国士舘大学)	常務理事	園田 智昭 (慶應義塾大学)
常務理事	青木 章通 (専修大学)		田坂 公 (福岡大学)
	青木 雅明 (東北大学)		長谷川惠一 (早稲田大学)
	浅田 孝幸 (立命館大学)		浜田 和樹 (関西学院大学)
	伊藤 和憲 (専修大学)		原田 昇 (東京理科大学)
	大鹿 智基 (早稲田大学)		挽 文子 (一橋大学)
	大島 正克 (亜細亜大学)		平井 裕久 (神奈川大学)
	片岡 洋人 (明治大学)		細海昌一郎 (首都大学東京)
	木村 彰吾 (名古屋大学)		本橋 正美 (明治大学)
	後藤 晃範 (大阪学院大学)		八木 和則 (横河電機(株))
	崎 章浩 (明治大学)		柳 良平 (エーザイ(株))
	清水 孝 (早稲田大学)		山口 直也 (青山学院大学)
	鈴木 浩三 (東京都水道局)	理事	成田 智弘 (新日本有限責任監査法人)
	鈴木 孝則 (早稲田大学)		松尾 貴巳 (神戸大学)
理事	飯島 康道 (愛知学院大学)		丸田 起大 (九州大学)
	伊藤 克容 (成蹊大学)		水島多美也 (中村学園大学)
	井上 裕史 (経営科学研究所)		皆川 芳輝 (名古屋学院大学)
	今井 範行 (トヨタファイナンスサービス(株))		宮地 晃輔 (長崎県立大学)
	岩田 弘尚 (専修大学)		向田 靖 ((株)経営研究所)
	岩田 悦之 (ZECOOPार्टナース(株))		森 久 (明治大学)
	大槻 晴海 (明治大学)		
	梶原 武久 (神戸大学)		

	上總 康行 (メルコ学術振興財団)		諸藤 裕美 (立教大学)
	川島 和浩 (苫小牧駒澤大学)		安酸 建二 (近畿大学)
	椎葉 淳 (大阪大学)		山浦 裕幸 (千葉経済大学)
	杉山 善浩 (甲南大学)		横田 絵理 (慶應義塾大学)
	寺戸 節郎 (中央学院大学)		吉見 宏 (北海道大学)
	塘 誠 (成城大学)		渡辺 岳夫 (中央大学)
	中村 博之 (横浜国立大学)		
顧問	辻 正雄 (名古屋商科大学)		
監事	斎藤 孝一 (南山大学)	参事	伊藤 正隆 (京都産業大学)
	長谷川泰隆 (麗澤大学)		井上 秀一 (追手門学院大学)
	横山 和夫 (公認会計士)		梅田 宙 (専修大学)
			庵谷 治男 (長崎大学)
			岡 照二 (関西大学)
			奥 倫陽 (東京国際大学)
			関 洋平 (早稲田大学)
			張 宏武 (大阪産業大学 (非常勤))
			中井 誠司 (国士舘大学)

役員構成 (2020年4月1日~2023年3月31日)

会長	伊藤 和憲 (専修大学)		
副会長	崎 章浩 (明治大学)	副会長	田坂 公 (福岡大学)
	椎葉 淳 (大阪大学)		中村 博之 (横浜国立大学)
常務理事	青木 雅明 (東北大学)	常務理事	塘 誠 (成城大学)
	新江 孝 (日本大学)		中川 優 (同志社大学)
	伊藤 嘉博 (早稲田大学)		丹羽 修二 ((株)日本経営)
	井岡 大度 (国士舘大学)		挽 文子 (一橋大学)
	今井 範行 (トヨタファイナンシャルサービス(株))		藤野 雅史 (日本大学)
	内山 哲彦 (千葉大学)		細海昌一郎 (東京都立大学)
	大鹿 智基 (早稲田大学)		松尾 貴巳 (神戸大学)
	大槻 晴海 (明治大学)		三浦 勝 (日本メックス(株))
	大沼 宏 (中央大学)		水野 一郎 (関西大学)
	木村 麻子 (関西大学)		本橋 正美 (明治大学)
	後藤 晃範 (大阪学院短期大学)		諸藤 裕美 (立教大学)
	澤邊 紀生 (京都大学)		山口 直也 (青山学院大学)
	清水 孝 (早稲田大学)		横田 絵理 (慶應義塾大学)
	清水 信匡 (早稲田大学)		

理事 浅田 拓史 (大阪経済大学)
新井 康平 (大阪府立大学)
岩田 弘尚 (専修大学)
岩田 悦之 (ZECOO パートナース[®] (株))
庵谷 治男 (東洋大学)
大西 淳也 (財務省)
奥 倫陽 (東京国際大学)
尾畑 裕 (一橋大学)
川島 和浩 (東北工業大学)
小菅 正伸 (関西学院大学)
島 吉伸 (近畿大学)
杉山 善浩 (甲南大学)
谷守 正行 (専修大学)

監事 長屋 信義 (産業能率大学)
長谷川泰隆 (麗澤大学)
横山 和夫 (東京理科大学)

理事 中井 誠司 (国士舘大学)
中嶋 道靖 (関西大学)
長谷川惠一 (早稲田大学)
柗 紫乃 (愛知工業大学)
丸田 起大 (九州大学)
水島多美也 (中村学園大学)
宮地 晃輔 (長崎県立大学)
向田 靖 ((株)経営研究所)
森口 毅彦 (富山大学)
山浦 裕幸 (千葉経済大学)
山下 裕企 (青山学院大学)
吉見 宏 (北海道大学)

参事 浅石 梨沙 (一橋大学)
梅田 充 (金沢星稷大学)
梅田 宙 (高崎経済大学)
岡田 龍哉 (高松大学)
北田 真紀 (滋賀大学)
関谷 浩行 (北海学園大学)
原 慎之介 (名古屋外国語大学)

2 全国大会 30 年の記録

全国大会は、学会誌『管理会計学』の発行とならぶ日本管理会計学会（以後、JAMA と略称）の主要活動である。1991 年 12 月に開かれた第 1 回全国大会から数えて、今年度（2021 年）は 31 回目の全国大会となる。ここでは、1991 年度から 2020 年度までの 30 回の JAMA 全国大会の内容を収録した。ただし、自由論題の研究報告論題と報告者氏名は、2001 年度以降から掲載している。

第 1 回の 1991 年度大会では、自由論題報告 3 件と特別講演だけの小規模な大会から足を踏み出した。第 30 回に当たる 2020 年度の大会は、基調講演および特別企画、40 編の自由論題報告、そして 2 つのスタディ・グループ報告という規模にまで拡大した。内容面でも、2 回全国（1992 年）大会では日本電気株の元副社長の小池明氏（当時は顧問）を講師に迎え特別講演を行ったことを手始めに、株ワコール会長の塚本幸一氏（1995 年）、花王株副社長（当時）渡邊正太郎氏（1999 年）など、ビジネス界のリーダーによる特別講演を実施するとともに、統一論題報告および自由論題報告などでも実務家による報告を受け入れ、実務界と学界の交流の場を提供してきたことは、JAMA の全国大会の大きな特徴である。

また、1999 年度大会から 2004 年度大会までの 6 大会では、若手研究者の実証研究に関する研究能力の向上を目指して研修プログラムを実施した。この研修プログラムは、JAMA 設立以後 1990 年代に行われてきた月例研究会を引き継ぎ、また、2002 年から始まり現在も継続しているリサーチ・セミナーへと橋渡しをする役割を果たした。同じ時期に開かれるようになったテーマセッションは、同じ研究課題に興味を持つ研究者の共同研究の成果発表の場を提供してきた。テーマセッションの研究課題の過半は、1999 年度に企画された 2002 年から実質的な活動が始まった「企業調査研究プロジェクト」の研究グループから提案された。

2013 年度大会よりスタディ・グループおよび産学共同研究グループの報告が始まった。スタディ・グループとは、学会員からの自主的な申請で組織するもので、日本会計研究学会のスタディ・グループに相当する。一方、産学共同研究グループとは、学会執行部が主導性を発揮して、実務家も加わり、事例研究なども含む産学共同研究グループとして組織する学会提案型の研究グループである。

学会誌『管理会計学』は一時期、実証研究の論文に偏っていた時代があった。しかし、管理会計研究においては、仮説検証型の実証研究だけではなく、ケース研究や理論研究も重要な研究アプローチである。昨今の JAMA の全国大会では、研究方法論は問わず多様な研究成果が発表されている。JAMA の全国大会が多様な管理会計研究をブラッシュアップする機会を提供してきたことを、30 年の記録から読み取っていただくことを期待している。

1991年度全国大会			
会 場	東京理科大学	開催日	12月14日(土)
特別講演：			
	「経営データの多変量分析」 奥野忠一（東京理科大学）		
自由論題報告			
	「コンピュータによる管理会計システム」 浮田萌男（㈱竹中工務店）		
	「組織内情報の戦略と原価計算の適応—縦型組織からフラット組織へ」 小倉 昇（東北大学）		
	「日本の生産システムと原価管理—トヨタの原価企画・原価改善」 田中隆雄（東京経済大学）		

1992年度全国大会			
会 場	早稲田大学	開催日	10月2日(土)～3日(日)
統一論題：海外進出企業の管理会計上の諸問題			
	「グローバル企業に耐えるための基本的管理思考」 松田修一（早稲田大学）		
	「海外進出企業の現在直面する税務上の諸問題」 大川邦彦（アーサーアンダーセン）		
	「海外企業進出と管理会計の課題」 芝 章（㈱日本電気精器）		
特別講演：			
	「管理会計実務の現代的課題」 小池 明（日本電気㈱）		
自由論題報告 8件 （報告論題および報告者名は省略）			

1993年度全国大会			
会 場	九州産業大学	開催日	11月5日(土)～6日(日)
統一論題：リストラ時代の原価低減の動向			
	「利益指向の原価体質の強化方法」 田中雅康（東京理科大学）		
	「利益管理としての原価企画の意義と方法」 門田安弘（筑波大学）		
	「戦略的事業選択の推進」 淤見博篤（三菱電機㈱）		
	「八幡製鐵所における一貫製造コスト低減活動について」 儀間真一（新日本製鐵㈱）		
特別講演：			
	「リストラ時代の物流コストの管理」 西澤 脩（早稲田大学）		
自由論題報告 10件 （報告論題および報告者名は省略）			

1994年度全国大会			
会 場	中央大学	開催日	9月30日(土)～10月1日(日)
統一論題：リエンジニアリングと管理会計の課題			
	「リエンジニアリングと管理会計の課題—事例に基づく若干の考察」 持本志行（朝日大学）		

「リエンジニアリングと管理会計」久保雅裕（川鉄テクノリサーチ㈱）
「リエンジニアリングと管理会計の課題」宮崎和郎（アンダーセンコンサルティング）
「トータルなコストマネジメントからトータルコストのマネジメントへ」浅田孝幸（筑波大学）
特別講演：
「価格破壊時代の経営」唐津 一（東海大学）
自由論題報告 12件（報告論題および報告者名は省略）

1995年度全国大会			
会 場	立命館大学	開催日	11月9日(土)～10日(日)
統一論題：管理会計の有用性－理論と実務の融和をめざして－			
「実態調査から見た管理会計理論と実務の乖離」西澤 脩（早稲田大学）			
「管理会計における理論と実務の融合－その日米比較－」田中隆雄（日本大学）			
「事業部独立採算性と管理会計」陣川公平（オムロン㈱）			
「事業のグローバル化と事業部制業績評価制度」伊原豊昭（松下電器産業㈱）			
特別講演：			
「貫く 一私の経営理念－」塚本幸一（㈱ワコール会長）			
自由論題報告 16件（報告論題および報告者名は省略）			

1996年度全国大会			
会 場	明治大学	開催日	9月18日(土)～20日(月)
統一論題：ABMによる経営革新の現状と展望			
「機能原価計算による経営革新」田中雅康（東京理科大学）			
「日本企業の経営革新の意義と ABM/ABC の可能性」浅田孝幸（大阪大学）			
「ABC/ABMによる本社費の配賦と管理」安部彰一（NEC システム建設㈱）			
「SAP R/3 で実現する ABM」中根 滋（SAP ジャパン㈱）			
特別講演：			
「ダグアウトから見た倉庫業」中村 浩（旭運輸㈱取締役社長）			
自由論題報告 12件（報告論題および報告者名は省略）			

1997年度全国大会			
会 場	城西大学	開催日	9月4日(木)～6日(土)
統一論題：情報化で管理会計はどう変わるか			
「情報化時代の原価管理」吉川武男（横浜国立大学）			
「情報化と会計パラダイムの変革」青柳六郎太（㈱NEC総合研究所）			
「分散環境における情報システムのコスト要因と投資の有効性評価」			

	内山悟志（日本ガートナーグループ）
	「原価情報オンラインを活用した開発段階からの原価管理」 沢本和男（三菱電機㈱）
特別講演：	
	「私の学際的管理会計研究」 西澤 脩（早稲田大学）
自由論題報告 17件 （報告論題および報告者名は省略）	

1998年度全国大会			
会 場	慶應義塾大学	開催日	10月23日(金)～25日(日)
統一論題：戦略管理会計の新展開：分散と統合の戦略的マネジメントへの適応			
	「グループ企業における経営組織と管理会計情報」 木村幾也（岡山商科大学）		
	「戦略的コントロールのための業績管理会計の構築」 小倉 昇（筑波大学）		
	「任せる経営のメカニズム：ミニ・プロフィットセンターによるエンパワメント」 三矢 裕（学習院大学）		
	「統合的資金管理ツールとしての社内資本金制度」 渡辺康夫（㈱情報通信総合研究所）		
	「サプライチェーンのマネジメント・コントロール—最適所要量のモデルによるサプライチェーンの全体最適—」 三田洋幸（中央コーパス・アンド・ライブランドコンサルティング㈱）		
研究部会報告：			
	「業種業態別の収益構造と戦略管理会計」 竹内祐二（㈱ジェムコ日本経営）・石川 勝・三田洋幸（中央コーパス・アンド・ライブランドコンサルティング㈱）		
自由論題報告 21件 （報告論題および報告者名は省略）			

1999年度全国大会			
会 場	福岡大学	開催日	9月6日(月)～8日(水)
統一論題：日本企業の再生と業績管理システム			
	「総合的マネジメントと管理会計—非財務的尺度と財務的尺度の総合—」 浜田和樹（西南学院大学）		
	「業績測定と報酬システム」 横田絵里（武蔵大学）		
	「企業の投資行動と業績評価」 佐藤紘光（早稲田大学）		
	「富士通における目標管理と年俸制」 和田敏雅（富士通㈱）		
特別講演：			
	「経営者こそ成果主義を—日本企業の業績評価と役員報酬—」 渡邊正太郎（花王㈱）		
テーマセッション：			
	「業績評価研究の課題」 小川 洵（城西国際大学）・石崎忠司（中央大学）・原田 昇（東京理科大学）・伊藤嘉博（成蹊大学）		
	「戦略管理会計の領域と技術」		

清水 孝 (早稲田大学)・平岡秀福 (創価大学)・福田淳児 (法政大学)
「グループ経営と持株会社の管理会計」
挽 文子 (一橋大学)・加藤雅則 (㈱イメージン)・川野克典 (アーサーアンダーセン)
研修プログラム 2件
「エンピリカル・リサーチの方法と実践」古賀健太郎 (早稲田大学)
「会計教育・研究におけるインターネットの活用」
成田 博 (高千穂商科大学)・河合 久 (中央大学)
自由論題報告 14件 (報告論題および報告者名は省略)

2000年度全国大会			
会 場	上智大学	開催日	9月15日(金)～17日(日)
統一論題：新世紀の管理会計：経営革命にどう対処するか			
	「21世紀のe-Markets」中根 滋 (プライスウォーターハウスクーパース・コンサルタント(株))		
	「サプライチェーン・マネジメントのための利益指標：ビジネス速度をどう取り込むか」 今岡善次郎 (ビシタイン)		
	「事業収益と企業価値」御立尚資 (ボストン・コンサルティング・グループ)		
特別講演：			
	「ソニーにおける企業価値経営とグループHQの役割」伊庭 保 (ソニー(株))		
テーマセッション：			
	「分散と統合のマネジメント戦略」伏見多美雄 (東京理科大学)・吉川武男 (横浜国立大学)・挽 文子 (一橋大学)・渡辺康夫 (㈱情報通信総合研究所)・三田洋幸 (プライスウォーターハウスクーパース・コンサルタント(株))		
	「管理会計をいかに研究すべきか—研究方法論の諸問題—」 片岡洋一 (東京理科大学)・門田安弘 (筑波大学)・浅田孝幸 (大阪大学)・西村 明 (九州大学)・田中降雄 (東北大学)		
	「業績評価の実践的方法」田中雅康 (東京理科大学)・曾我太郎 (日本IBM(株))・島田三郎 (山武産業システム(株))・有賀将雄 (キヤノン(株))		
研修プログラム 3件			
	「企業価値の評価と残余利益モデル」福井義高 (東北大学)		
	「CAPMと資本コスト」葛山康典 (早稲田大学)		
	「質問紙調査の設計と分析」高橋弘司 (三重大学)		
自由論題報告 8件 (報告論題および報告者名は省略)			

2001年度全国大会			
会 場	東北大学	開催日	10月27日(土)～29日(月)

統一論題：企業価値：市場の期待と業績管理	
	「企業価値情報の意思決定機能と業績管理機能」小倉 昇（筑波大学）
	「アナリストによる企業分析と評価のプロセス」 中島俊彦（メリルリンチ日本証券㈱）・村形光俊（メリルリンチ日本証券㈱）
	「ソニーにおける企業価値経営と業績評価」湯原隆男（ソニー㈱）
特別講演：	
	「Tying Valuation to Performance with Financial Analysis」 Stephen H. Penman（New York University, USA）
	「価値の変化と企業経営」倉重英樹（PwC コンサルタント㈱）
テーマセッション：	
	「業績評価における非財務的要因の重要性—顧客満足の見点から—」石崎忠司（中央大学）・ 片山富弘（中村学園大学）・福田淳児（法政大学）・長谷川泰隆（駒澤大学）
	「バランスト・スコアカードの論点の確認と理論的拡充の方向性」伊藤嘉博（上智大学）・小林啓孝 （慶應義塾大学）・清水 孝（早稲田大学）・長谷川恵一（早稲田大学）
	「社会人 MBA コースにおける管理会計教育・研究指導の実践課題」 浅田孝幸（大阪大学）・小倉 昇（筑波大学）・加登 豊（神戸大学）
研修プログラム 2件	
	「統計処理の基礎／回帰分析」佃 良彦（東北大学）
	「会計ビッグバンの現在：減損会計，時価会計」小林伸行（公認会計士）
自由論題報告 18件	
	「情報技術と生産技術」鈴木孝則（早稲田大学）
	「会計評価とインセンティブ問題」上田晋一（成城大学）
	「業種特性が与える影響の観点からの Ohlson モデルの詳細な検証」 辻 正雄（早稲田大学）・矢内一利（早稲田大学）
	「研究開発費の株式市場における評価の実証的研究：日本の医薬品会社を中心に」 劉 慕和（東北大学院生）
	「グローバル企業の資金管理と業績評価」塘 誠（福山平成大学）・浅田孝幸（大阪大学）
	「中国における管理会計の動向と課題」水野一郎（関西大学）・唐 楽寧（関西大学）
	「SBU 財務諸表の目的および意義の再検討」松本安司（早稲田大学）
	「「組織の学習」に関するパフォーマンス・ドライバーの実証研究」 島崎高行（筑波大学）・小倉 昇（筑波大学）・高橋弘司（三重大学）
	「個尊重マネジメントにおけるバランスト・スコアカードの適用」藤崎晴彦（横浜市立大学）
	「バランスト・スコアカードによるロジスティクス・コストの管理」徐 賢珍（済州大学）
	「投資利益率（ROI）の再検討：CFROI の分析と中心としたその構成要素の検討」 荻野拓也（早稲田大学）

「スループット会計の適用領域の拡大」大塚裕史（石巻専修大学）
「企業価値を考慮した組織再編成：アウトソーシングにおける知的資産効果と BSC の適用可能性」 森 勇治（静岡県立大学）
「SCM 計画業務における「成熟化」と「参加」の重要性に関する実証研究」 石川和幸（㈱日本総合研究所）
「ローン・ビジネスのバリューチェーン分析」杉本正隆（横浜国立大学）
「ホテル業の管理会計：顧客満足に基づく収益性向上の方策について」青木章通（東京経済大学）
「品質コスト概念の再検討と品質原価計算の現代の意義」小田康治（長岡大学）
「電力会社におけるリアル・オプション活用の経営戦略：研究開発費と排出権取引の選択の理論と実態」村井秀樹（日本大学）

2002年度全国大会			
会 場	横浜市立大学	開催日	9月8日(土)～10日(月)
統一論題：インタangibleの測定と管理			
	「知的資産と企業の内部改革」岡田依里（横浜国立大学）		
	「ブランド価値に基づく広告費予算の設定」猿山義広（駒澤大学）		
	「M&Aとインタangibleの測定—企業価値・インタangible価値と所有者転換の影響—」 佐山展生（ユニゾン・キャピタル㈱）		
	「研究開発投資と企業価値—コスト・ベネフィット分析の視点から—」西村優子（東洋大学）		
特別講演：			
	「持株会社による事業再編成—紙パルプ業の事例—」中島 巖（日本製紙㈱）		
テーマセッション：			
	「会計情報統合化の流れとそのインパクト」河合 久（中央大学）・今井二郎（公認会計士）・井上裕史（SAP ジャパン㈱）・櫻井康弘（高千穂大学）		
	「組織構造のデザインと管理会計」浜田和樹（西南学院大学）・李 健泳（大阪産業大学）・星 法子（白鷗大学）・平岡秀福（創価大学）		
	「アジアにおける日本進出企業の管理会計の実態」 西村 明（九州産業大学）・大下丈平（九州大学）・北村浩一（鹿児島大学）		
研修プログラム 3件			
	「中国・香港の経済と税制・会計制度」西川京子（公認会計士）		
	「資本市場に関連した会計研究の展望」薄井 彰（法政大学）		
	「CD-ROMによるビジネス・ゲーム演習」野々山隆幸（横浜市立大学）		
自由論題報告 15件			
	「新規株式公開における企業価値の推定—ケーススタディー—」大鹿智基（早稲田大学）		
	「CEO 交代に伴う利益予想の変更および誤差について—アナリストは、CEO の利益操作を予期し		

「ているのか」 金田直之（筑波大学）
「従業員満足についての実証分析～顧客満足との相関及び形成プロセスについて～」 鈴木研一（明治大学）
「職務発明報奨制度の変更が株式リターンに与える影響」 渡邊俊輔（明治学院大学）
「戦略志向のマネジメントと会計の役割—戦略実行のための情報の測定と利用」 豊田尊久（関西学院大学）
「知的資産の測定および管理の可能性—成功のためのプロセスを見出すために—」 木村麻子（関西学院大学大学院）
「フランス自治体管理会計—アンジェ市全部原価計算システム—」 中西 一（佐賀大学）
「プロセス KPI—21 世紀の新たな経営管理のパラダイム—」 川田 信（名城大学）・今井範行（トヨタ自動車(株)）
「化粧品メーカーA社の原価企画導入への挑戦」 豊川 貴（株ノエビア）
「郵送調査からみた国際財務管理と責任会計」 塘 誠（摂南大学）・浅田孝幸（大阪大学大学院）
「持株会社形態化におけるコントロール・システムについて」 原田行男（明星大学）
「成果主義における管理会計情報の役割」 内山哲彦（千葉大学）
「行動科学的マーケティング管理会計研究」 加登 豊（神戸大学大学院）・藤田智丈（神戸大学大学院）
「異なる戦略の下でのインセンティブ及び予算管理システム—2001年の調査結果を中心として—」 朴 景淑（大阪大学大学院）・浅田孝幸（大阪大学）・塘 誠（摂南大学）
「マネジメント・コントロール論の変化と戦略管理会計論」 堀井悟志（京都大学大学院）

2003年度全国大会			
会 場	関西学院大学	開催日	9月7日(日)～9日(月)
統一論題：戦略経営と管理会計			
	「戦略経営と管理会計—フィードフォワード・コントロールの視点から—」 丸田起大（北海道大学）		
	「管理会計による競争優位性の獲得と維持—新しい潮流の評価—」 加登 豊（神戸大学）		
	「戦略的管理会計論—伝統的管理会計との対比—」 廣本敏郎（一橋大学）		
	「企業価値モデルと目標・施策展開—特に、ステークホルダー間の利害調整を重視した適用について—」 浜田和樹（西南学院大学）		
特別講演：			
	「現代の企業経営の課題」 辻 晴雄（シャープ(株)）		
テーマセッション：			
	「ビジネス・プロセス経営：The Process-Based Management」 長坂悦敬（甲南大学）・李 建泳（新潟大学）・木村麻子（関西学院大学）・小菅正伸（関西学院大学）・Ahn Youngjin (Dankook University)		

「原価企画・コスト戦略の課題」 田中雅康（諏訪東京理科大学）・小丸千秋（シャープ㈱）・水谷智春（マツダ㈱）
研修プログラム 2件
「会計学の研究方法—研究デザインと哲学・思想—」上埜 進（甲南大学）
「研究の進め方—修士論文・博士論文を書くために—」鹿島幸治（University of Washington）
自由論題報告 15件
「収益マネジメントコントロールの一考察—P2Mによる収益マネジメントの理論フレームワーク—」佐々木郁子（東北学院大学）・鈴木研一（明治大学）
「戦略マネジメントと現業マネジメントとの統合—収益決定要因からの分析を中心に」 竹内祐二（㈱日本総合研究所）
「自治体責任センター構築の国際比較」中西 一（佐賀大学）
「簿記会計のビジュアル化」岡崎一浩（愛知工業大学）
「環境配慮型設計と戦略的コストマネジメント」加登 豊（神戸大学）・朴 鏡杓（香川大学）
「持株会社化時代における持株会社のための評価指標」長谷川泰隆（麗澤大学）
「戦略的携帯・M&Aと管理会計情報」浅野信博（追手門学院大学）・浅田孝幸（大阪大学）・塘 誠（摂南大学）・山本達司（名古屋大学）
「有害産業廃棄物のマテリアルフローコスト会計」竹森一正（中部大学）
「現金保有政策が経営業績に与える影響—バブル経済期における日本企業の実証分析」 辻 正雄（早稲田大学）・潘 健民（早稲田大学）
「ビジネス・プロセス管理のための管理会計」坂手啓介（大阪商業大学）
「原価企画における原価見積の現状と課題」 田中雅康（諏訪東京理科大学）・大槻晴海（諏訪東京理科大学）
「ベンチャー企業における管理会計—Smart Accounting—」 加登 豊（神戸大学大学院）・山田伊知郎（神戸大学大学院）
「契約理論による業績指標の分析」松田康弘（京都大学大学院）
「BSCと組織変革」西井 豪（大阪府立大学大学院）
「新製品開発における時間管理」木下和久（福井県立大学大学院）

2004年度全国大会			
会 場	立教大学	開催日	9月15日(水)～17日(金)
統一論題：業績評価と業績管理会計の構築			
「日本企業における主観的業績評価の意義と特徴」梶原武久（小樽商科大学）			
「日本企業の業績評価システムに影響を与える経営基盤」横田絵里（武蔵大学）			
「日本企業における業績評価と報酬制度」星野優太（名古屋市立大学）			
特別講演：			

「中国証券市場における革新および会計制度の改革」 陳 信元（上海財經大学）
「財務会計の管理会計化，管理会計のファイナンス化～管理会計研究の可能性～」 田中隆雄（青山学院大学）
テーマセッション：
「日韓企業の『ビジネス・プロセス管理』実態に関する調査研究」 小菅正伸（関西学院大学）・朝倉洋子（大阪国際大学）・豊田尊久（関西学院大学）・長坂悦敬（甲南大学）・坂手啓介（大阪商業大学）・木村麻子（九州産業大学）・安 榮鎮（新潟大学）・李 建泳（新潟大学）・今井範行（トヨタ自動車(株)）
「関係性のマネジメント」 木村彰吾（名古屋大学）・藤野雅史（日本大学）・伊藤克容（成蹊大学）
「固定収益マネジメント—顧客志向の安定収益モデル—」 鈴木研一（明治大学）・佐々木郁子（東北学院大学）・川野克典（ベリングポイント(株)）・三木僚祐（長岡大学）・青木章通（東京経済大学）
研修プログラム 1件
「コンピュスタットを使ったアメリカ企業の財務分析」 青木茂男（東京国際大学）
自由論題報告 17件
「設備投資の実態調査に基づく分析」 井岡大度（東京理科大学）・野澤昌弘（東京理科大学）・新井美奈子（東京理科大学院生）
「フランス管理会計学者の見る BSC 論～マネジメント・コントロール概念の再定義に向けて～」 中西 一（佐賀大学）
「韓国の管理会計における IT の役割とその限界」 金 承子（武蔵大学総合研究所）
「リコールコストの認知と非認知」 長谷川泰隆（麗澤大学）
「エンパワメント組織のコーディネーションにおける管理会計の有用性の検討」 川野克典（ベリングポイント(株)）・松岡みどり（ベリングポイント(株)）
「税効果会計がもたらした企業の特別損益計上の変化」 潘 健民（早稲田大学）
「連結決算情報に基づく企業価値推定値の有用性～Ohlson モデルによる評価を通して～」 辻 正雄（早稲田大学）・矢内一利（早稲田大学）
「暖簾実現概念における業績評価と業績報告」 辻 正雄（早稲田大学）・野坂和夫（あずさ監査法人）
「事業利益の意味するものとその利用を考える」 笠井賢治（亜細亜大学）
「従業員満足，顧客満足，財務業績の因果連鎖に関わる研究～A 社におけるアクション・リサーチ～」 鈴木研一（明治大学）・松岡孝介（(株)ブレインコンサルティング）・竹内倫和（明治大学）・佐々木郁子（東北学院大学）・伏見有貴（大阪大学）
「双方向型クイズシステムを利用した管理会計教育～携帯メールを利用して～」 塘 誠（摂南大学）・浅田孝幸（大阪大学）・前田利光（摂南大学）
「新市場の創出と管理会計」 山田伊知郎（同志社大学）
「コスト・プールの設定方法とコスト・プール別計算」 片岡洋人（大分大学）
「ABC の実践と今後の展開」 広原雄二（上武大学）

「戦略管理会計への会計部門の貢献～事例研究を通じて～」西居 豪 (大阪府立大学院生)
「戦略論の多様性と管理会計の支援可能性」豊田尊久 (関西学院大学大学院)
「病院のサービス・イノベーションと BSC」山本宣明 (青山学院大学大学院)

2005年度全国大会			
会 場	玉川大学	開催日	9月9日(金)～11日(日)
統一論題：戦略実行のマネジメント・システムにおける現状と課題			
	「戦略的管理会計論研究の動向：経営戦略論の多様化にともなう拡張と進化」伊藤克容 (成蹊大学)		
	「戦略実行とエンタープライズ・リスク・マネジメントの統合アプローチを目指して —BSC と COSOERM の融合の検討—」南雲岳彦 (株東京三菱銀行)		
	「バランス・スコアカードの組織戦略目標を連鎖しながら個人の目標に落とし込み戦略実行を実現する」林 昌芳 (シャープシステムプロダクト株)		
	「戦略マネジメント・システムとしての BSC の現状と展望」伊藤嘉博 (早稲田大学)		
テーマセッション：			
	「管理会計と日本的品質管理」加登 豊 (神戸大学) 他		
自由論題報告 20 件			
	「品質管理と財務的成果—イベント・スタディーを通じた実証研究」 島 吉伸 (近畿大学)・梶原武久 (小樽商科大学)・安酸建二 (流通科学大学)		
	「利益の質と発生項目アノマリー」海老原 崇 (早稲田大学)		
	「受注メーカーのダイレクトコストイングと付加価値を中核とする戦略受注計数管理システム」 岡本義三 (コンサルタント)		
	「収益性分散比率体系再考—事業収益性と企業収益性を整合的に分析するために—」 笠井賢治 (亜細亜大学)		
	「会計・管理・財務の世界—損益管理・資金管理・企業価値管理—」伊藤俊雄 (名古屋経済大学)		
	「企業革新の現実と課題」長坂敏史 (十文字学園女子大学)		
	「IT 時代の従業員経営活動管理論」芝野治郎 (中国学園大学)		
	「M&A が株価に与える影響とその要因」上嶋裕久 (青山学院大学院生)		
	「管理会計研究のポスト・モダニズム」浅沼宏和 (名古屋学院大学)		
	「製造業における工場の業績管理指標・非財務情報の視点から」 浅田孝幸 (大阪大学)・アハメド・マクソウド (同志社大学)・中川 優 (同志社大学)		
	「アメーバ経営の利益連鎖管理」上總康行 (京都大学)		
	「事業システム論における管理会計的要素について」山田伊知郎 (同志社大学)		
	「複雑で、多元的判断を支援する経営管理システム構築の必須要件に関する研究」 外山味之 (アヴィクス株)		
	「財務内容の改善が設備投資行動に与える影響」高見茂雄 (富山大学)		

「退職給付会計における割引率の会計方針選択行動—裁量的選択行動，横並び選択行動および水準適正化選択行動—」野坂和夫（あずさ監査法人）
「日本における原価理論の発展—標準原価，原価改善，原価企画—」楊 霞（青山学院大学院生）
「日本の製造業企業における広告費と研究開発費が無形資産に与える効果についての実証研究—会計データに適合的な GLS モデルをもとにして—」緒方 勇（東北大学院生）
「BSC の活用に関する事例研究—メーカー4 社の比較を中心に—」中嶋教夫（明星大学）
「新規公開企業における株価決定要因分析」今脇啓吾（東京理科大学院生）・馮 玲（東京理科大学）
「営業キャッシュフローに影響を与える実質活動を用いた報告利益管理」潘 健民（早稲田大学）

2006 年度全国大会			
会 場	京都大学	開催日	9 月 1 日(金)～3 日(日)
統一論題：わが国管理会計研究の将来方向			
	「エンタープライズ・リスクマネジメントと管理会計」澤邊紀生（京都大学）		
	「わが国管理会計研究の動向」長谷川恵一（早稲田大学）		
	「日本型ホールディングスの生成・機能化と管理会計の貢献可能性」浅田孝幸（大阪大学）		
特別講演：			
	「経営力を高めるアメーバ経営」森田直行（京セラ株）		
自由論題報告 21 件			
	「建設業における原価企画の展開」木下和久（沖縄国際大学）		
	「タイムコストへの試論—理論モデルの構築を目指して—」水島多美也（日本文理大学）		
	「米国に見る自動車リコール届出状況—リコールコスト論への一里塚—」長谷川泰隆（麗澤大学）		
	「企業価値と特許出願数—非財務指標としての特許出願数と企業価値の関係—」 間普 崇（関東学園大学）・青木雅明（東北大学）		
	「産業構造の変化と会計情報の価値関連性」木村史彦（名古屋市立大学）		
	「サプライチェーンマネジメントの調査研究—SCM における目標管理の有効性実証分析について—」秋川卓也（山梨学院大学）・矢澤秀雄（千葉商科大学）・武本達広（専修大学）・島津 誠（専修大学）		
	「ヨーロッパにおける BSC に活用について—行政組織での BSC 活用を中心に—」 中嶋教夫（明星大学）		
	「現代管理会計とキャパシティマネジメント」和田淳蔵（岡山大学）		
	「現代管理会計理論と組織」吉村文雄（愛知淑徳大学）		
	「マネジメント・アカウンタントの倫理に関する—考察」広原雄二（上武大学）		
	「退職給付会計における期待運用有益率の会計方針選択行動—裁量的選択行動，横並び選択行動および水準適正化選択行動—」野坂和夫（あずさ監査法人）		
	「システム監査による動機付け」鈴木孝則（早稲田大学）		

「管理会計研究方法の諸問題—Zimmerman 論争からわが国の管理会計研究へのインプリケーション—」大浦啓輔（神戸大学院生）・新井康平（神戸大学院生）・加登 豊（神戸大学）
「オプション・アプローチによる倒産確立の推定」 高澤憲一（東京理科大学院生）・本明直矢（東京理科大学院生）・馮 玲（東京理科大学）
「リアル・オプションに適用が望ましい条件の検討—投資案に関するシミュレーションをもとに—」 佐藤浩人（立命館大学大学院生）
「新製品開発プロセスのコントロールのための情報利用について」金 宰煜（大阪大学院生）
「管理会計と目標管理の統合が戦略共有に及ぼす影響—中期経営計画，予算管理，目標管理の統合効果の実証研究—」林 攝子（筑波大学院生）
「医療機関の赤字経営とその意味—独立行政法人国立病院機構の分析を通して—」 衣笠陽子（京都大学院生）
「組立型電子部品産業のサプライチェーン・マネジメント」山下 功（横浜国立大学院生）
「知的財産会計における ABC の有効性」臼谷健一（関西大学院生）
「経営者交代前後におけるアーニングスマネジメント」伊藤大輔（青山学院大学院生）

2007年度全国大会			
会 場	東京理科大学（神楽坂キャンパス）	開催日	9月7日(金)～9日(日)
統一論題：M & A時代の管理会計			
	「第一三共の経営統合のめざすもの」尾崎昭雄（第一三共(株)）		
	「買収プレミアムの分析と検討」奥村雅史（早稲田大学）		
	「買収対価の支払い手段と利益調整」高橋邦丸（青山学院大学）		
	「買収防衛策とコーポレート・ガバナンス」蜂谷豊彦（東京工業大学）		
特別講演：			
	「日本の製造業における課題と提言」西口泰夫（京セラ(株)）		
自由論題報告 20件			
	「わが国製造企業における品質コスト測定・利用の決定要因—フィールドスタディおよびサーベイデータに基づく分析—」梶原武久（神戸大学）		
	「オペレーショナル・マネジャーのためのマネジメント・コントロール・システム：ミニ・プロフィットセンター制のフィールド・リサーチとサーベイ・スタディ」松木智子（帝塚山大学）		
	“An Empirical Study of the Role of Management Control during Product Development” Chris Akroyd（University of Auckland, NZ）, William Maguire（Manukau Institute of Technology, NZ）		
	「地方公営企業の価値評価式—自治体病院の採算性分析をもとに—」佐藤清和（金沢大学）		
	「資金調達の事務と判断業務の総合支援について」 山崎 泉（金沢星稜大学）・山崎淳一（山崎システム・コンサルティング(株)）		
	「カンパニー制採用による業績改善効果」		

中野貴之（法政大学）・成岡浩一（金沢学院大学）・松本安司（流通経済大学）
「固定収益会計におけるキャッシュ・フロー計算書—固定キャッシュ・フロー計算書のフレームワークと可能性の検証—」 松本有二（静岡産業大学）・鈴木研一（明治大学）
「研究開発費・特許出願数と企業利益の関係に関する一考察」 青木雅明（東北大学）・間普 崇（関東学園大学）
「内部統制のパフォーマンス」 鈴木孝則（早稲田大学）
「CSR とレピュテーションのマネジメントにおける関係性」 岩淵昭子（東京経営短期大学）
「種類株式の評価—新株予約権の有利発行問題を中心として—」 白銀良三（国士舘大学）・岩田悦之（ZECOO パートナーズ共同事務所）
「紛争処理における管理会計の役割」 吉田博文（公認会計士）
「民営鉄道事業者の管理会計システム—民鉄 P 社の事例—」 片岡健治（南海電気鉄道株）
「SBSC の意義と可能性」 岡 照二（関西大学院生）
「業績管理の階層性と目標連鎖—目標管理制度の再認識—」 丹生谷 晋（筑波大学院生）
「M&A における財務構造変化分析～Healy et al.[1992]を手がかりとして～」 上嶋裕久（青山学院大学院生）
「わが国のバイヤー・サプライヤー関係と管理会計：郵送質問票による調査結果」 大浦啓輔（神戸大学院生）
「榊村田製作所における管理会計技法の進化」 浅田拓史（京都大学院生）
「日本企業のマネジメントコントロールにおける心理的契約の役割：経験的研究」 新井康平（神戸大学院生）・服部泰宏（神戸大学院生）
“Profitability Analysis Based on Penman's Theory: with A Case Study using Japanese Firms” Sachie Moriya (Aoyama Gakuin University)

2008年度全国大会			
会 場	甲南大学	開催日	8月29日(金)～31日(日)
統一論題： インタンジブルズ (intangibles) と管理会計			
	「企業価値と無形資産」 伊藤邦雄（一橋大学）		
	「企業価値の意味するもの」 青木茂男（青山学院大学）		
	「M&Aにおける企業評価—行動ファイナンスの視点から—」 山本達司（名古屋大学）		
	「インタンジブルズに関する米国の視点と日本での適用可能性」 古賀健太郎（イリノイ大学）		
特別講演：			
	「ドメスティック企業からグローバル企業への転換事例」 林 守也（株クボタ）		
自由論題報告 39件			
	「非財務指標研究の回顧と展望」 安酸建二（近畿大学）・乙政佐吉（小樽商科大学）・福田直樹（追手門学院大学）		

「業績評価と報酬制度研究の回顧と展望」島 吉伸 (近畿大学)・河合隆治 (桃山学院大学)・橋本理恵 (大阪産業大学)・朴 鏡杓 (香川大学)
「予算管理研究の回顧と展望」 松木智子 (帝塚山大学)・福田直樹 (追手門学院大学)・李 建 (京都学園大学)
「長期請負工事への ABC の適用：工事進行基準に関連して」片岡洋人 (明治大学)
「組織単位間連携を支援する原価企画システム」諸籐裕美 (立教大学)
「日本の医療機関の経営におけるバランス・スコアカードの有効性」劉 慕和 (日本大学)
「マルチタスクにおける最適なインセンティブ強度—バランス・スコアカードにおけるバランスとは—」小嶋甲子雄 (東京自働機械製作所)・末松栄一郎 (埼玉大学)
「広域自治体病院における BSC の導入—新潟県立病院のケース—」山口直也 (新潟大学)
「ビジネス・プロセス・マネジメント (BPM) と経営情報の有機的結合」 植松隆多 (管理会計コンサルタント)
「中小企業のビジネスプロセスネットワークに関する現状と課題」有元知史 (新潟大学)
「ビジネス・プロセス・マネジメント (BPM) におけるアブダクション・アプローチ」 長坂悦敬 (甲南大学)
「日本の企業間関係における調達活動の原価管理へのインプリケーション」木村彰吾 (名古屋大学)
「日本企業の MBO」金田直之 (学習院大学)
「コンビニエンス・ストアのロイヤルティ算定基準とオリジナル商品—セブン・イレブンを中心に—」星 法子 (白鷗大学)
「責任会計論における相互依存性問題に関する一考察：事例研究」潮 清孝 (京都大学院生)
“Methodological Issues in Qualitative Management Accounting Research” Chris Akroyd (Univ. of Auckland : NZ)・Ali M Elharidy (Univ. of Auckland : NZ), Stephan Jollands (Univ. of Auckland : NZ)
「会計システムを活用した株主価値評価モデルの模索」中西俊夫 (甲南大学)
「株式価値評価の理論と実務」 大塚勝弘 (ファイブタランツ・コンサルティング)・村田智之 (甲南大学)
「外部負傷のリスク管理と最適化のシステムアプローチ」 山崎 泉 (金沢星稜大学)・山崎淳一 (山崎システム・コンサルティング株)
「環境管理会計研究の回顧と展望」 國部克彦 (神戸大学)・大西 靖 (帝塚山大学)・東田 明 (名城大学)・堀口真司 (神戸大学)
「組織間管理会計研究の回顧と展望」 窪田祐一 (大阪府立大学)・大浦啓輔 (滋賀大学)・西居 豪 (専修大学)
「分権的組織の管理会計研究の回顧と展望—欧米研究を中心として—」 松尾貴巳 (神戸大学)・安酸建二 (近畿大学)・新井康平 (神戸大学院生)
「退職給付会計の監査実務への提言—実態調査にみるアクチュアリー独立性—」

野坂和夫 (早稲田大学)
「顧客別収益力の測定方法について」 小泉友香 (鹿児島国際大学)・片岡洋一 (目白大学)
「現代管理会計システムの諸特徴と組織における人間行動の関係性—自己決定理論をベースにした理論的フレームワークの構築—」 真部典久 (富山大学)
「R&D 費用のビヘイビアに関する実証研究」 安酸建二 (近畿大学)・緒方 勇 (山形大学)
「Ohlson-Juettner モデルに基づく企業価値評価の正確性の検証」 矢内一利 (青山学院大学)
「R&D に関わる財務指標と非財務指標」 青木雅明 (東北大学)・間普 崇 (関東学園大学)
「戦略的アライアンス投資のオプション価値と会計的利益概念の貢献」 三浦徹志 (大阪成蹊短期大学)・浅田孝幸 (大阪大学)
「経営者報酬についての分析的研究の動向」 椎葉 淳 (大阪大学)
「経営者報酬についての実証的研究の動向」 乙政正太 (関西大学)
「日本企業の事業プログラムと製品開発プロジェクトのマネジメント・コントロールのメカニズム 考察：PBS (Program & Project Balanced Scorecard) フレームワーク構築のためのアプローチとして」 金 幸煜 (大阪大学院生)
「機能戦略の実行における業績評価システムに関する研究」 奥 倫陽 (専修大学院生)
「非営利組織における管理会計貢献可能性の検討」 目時壮浩 (早稲田大学院生)
「分権型組織における業績評価システムの考察：コンティンジェンシー・アプローチから」 丹生谷 晋 (筑波大学院生)
「Palepu and Healy (流動・固定区分) と Penman (営業・財務区分) との財務分析手法の違いに関する一考察」 守屋幸恵 (青山学院大学院生)
「多角化戦略による事業リスク分散効果の実証研究」 佐藤友彦 (東京理科大学院生)・馮 玲 (東京理科大学)・山根里香 (東京理科大学)
「臨時損益を用いた報告利益管理—日本企業にみられる利益数値と特別損益項目認識の関連性—」 番 健民 (早稲田大学院生)
「BSC プロジェクトにおける戦略目標および業績評価指標の選択に係るミスリード—中小企業への BSC 導入事例研究を基礎として—」 長谷部光哉 (東北大学院生)

2009年度全国大会			
会 場	亜細亜大学	開催日	8月28日(金)~30日(日)
統一論題： インタングブルズと管理会計研究			
	「ブランド・マネジメント—レピュテーション・マネジメントとの関係において—」 馬渡一浩 (㈱電通総研)		
	「コーポレート・レピュテーションの測定とマネジメント」 岩田弘尚 (専修大学)		
	「CSR 活動の経済的価値」 伊藤嘉博 (早稲田大学)		
特別講演：			

「ICT 産業の発展と今後の展望—情報通信サービスの社会的役割の拡大—」 平田正之(株情報通信総合研究所)
自由論題報告 23 件
「退職給付会計におけるケース分析—退職給付制度の改訂を用いた報告利益の管理行動—」 野坂和夫 (野坂公認会計士事務所)
「利益の不確実性と研究開発活動」 青木雅明 (東北大学)・間晋 崇 (関東学園大学)
「固定資産の償却と減損についての分析的考察」 花村信也 (みずほ証券(株))
“The Undercover Proponents of Actor-Netwokr-Theory: An Internal Auditing Perspective” Stephen Jollands (Univ. of Auckland : NZ)・Chris Akroyd (Univ. of Auckland : NZ)・Norio Sawabe (京 都大学)
「企業価値創造会計」 紺野 剛 (中央大学)
「レベニューマネジメントが顧客価値の構築に与える影響」 佐々木郁子 (東北学院大学)・青木章通 (専修大学)
「顧客サービスへの ABC 適用の課題と発展可能性—銀行業の顧客 ABC の検討を通して—」 谷守正行 (専修大学非常勤講師)
「建設業における原価企画の特徴と課題—フジタのケースを中心として—」 田坂 公 (共栄大学)
「イノベーション創出における原価企画の貢献可能性」 大槻晴海 (明治大学)
「活動基準原価計算の製品原価計算への適用」 小泉友香 (鹿児島国際大学)・片岡洋一 (目白大学)
「インタンジブルとしての人的資源管理と管理会計」 内山哲彦 (千葉大学)
「知的資本と企業業績との関係」 細海昌一郎 (首都大学東京)
「株式市場における知的財産の評価」 今井航子 (東京理科大学院生)
「実証分析における業種区分の有用性」 新谷 理 (早稲田大学院生)
「バランスト・スコアカードによるコミュニケーション機能が財務意識および非財務意識の向上に 与える効果—わが国病院を対象とした定量分析」 渡邊直人 (早稲田大学院生)
「Relational Contracts と内部振替価格問題—企業内組織への市場原理導入の視点から」 内田愛三 (早稲田大学院生)
「税効果とインセンティブ」 平野典男 (早稲田大学院生)
「連結財務諸表における法人税等の情報開示のあり方」 堀 好一 (早稲田大学院生)
「ゴーイング・コンサーン情報開示からの脱却の要因」 稲葉喜子 (早稲田大学院生)
「格付け会社の経営基盤に関する考察」 岸野 務 (早稲田大学大学院生)
「地方自治体財政破綻リスク予測モデルの構築」 拜崎康至 (東京理科大学院生)
「創業の基礎研究段階における進捗評価モデルの検討」 諏訪頼正 (横浜国立大学院生)

2010年度全国大会			
会 場	早稲田大学	開催日	9月3日(金)~5日(日)

統一論題：コントロール機能としての管理会計	
	「内部統制報告制度における情報システムの意義」鈴木孝則（早稲田大学）
	「比較会計制度分析：コントロール機能の一つの分析視角」椎葉 淳（大阪大学）
	「性悪説に基づく内部統制の限界と IT 統制の最新事情」関口善昭（SAP ジャパン(株)）
	「ガバナンス・コントロールの理念と方法：内部統制論議を手掛りにして」大下丈平（九州大学）
特別講演：	
	「企業経営におけるコントロールと管理会計の役割」貫井清一郎（アクセンチュア(株)）
自由論題報告 44 件	
	「地方自治体へのバランスト・スコアカード適用の阻害要因等に関する研究」佐藤 幹（広島大学）
	「非営利組織におけるサステナビリティ・バランスト・スコアカード適用への視座」 岡 照二（大阪市立大学）
	「事業リスクを考慮した BSC のあり方」奥 倫陽（東京国際大学）
	「マネジメント・アプローチと管理会計」平岡秀福（創価大学）
	「原価企画の社会的分析—バリューエンジニアリングに着目して—」鈴木 新（神戸大学）
	「原価企画における節目管理・FFC について」管 康人（目白大学）・田中雅康（目白大学）
	「不確実性下の CVP 分析：確率過程の導入」佐藤清和（金沢大学）
	「複雑化する経営管理システムの構築方法の提案—集約指向から総当たり指向へ—」 外山味之（アヴィクス(株)）
	「ブランド・マネジメントについての企業意識調査」福田正彦（筑波大学院生）
	「特許化とノウハウ化による企業パフォーマンスへの影響」西村陽一郎（神奈川大学）
	「インタンジブルズとしての人的資産の価値測定」内山哲彦（千葉大学）
	「サービス提供現場における管理会計情報の役割」庵谷治男（早稲田大学）
	「病院原価計算における原価の同質性の一考察」足立俊輔（九州大学）
	「循環型マネジメントシステムによる医療の質向上」日向浩幸（中央大学）
	「「デュアル・モード管理会計モデル」の提唱—トヨタ的管理会計スキーマの要諦をふまえて—」 今井範行（名城大学）
	「研究開発投資の決定要因に関する一考察」吉井貴充（筑波大学院生）
	「事業戦略と設備投資予算との整合性が財務業績に及ぼす影響」清水信匡（早稲田大学）
	「事業相互間の相乗効果に基づく多角化企業の企業価値の分析」鈴木竜児（公認会計士）
	「研究開発活動の投資パターンとその成果についての一考察」 間普 崇（関東学園大学）・青木雅明（東北大学）
	「潜在顧客の感性を加味した機能評価に基づく売価設定法」 福岡宣行（目白大学）・田中雅康（目白大学）
	「先行き不透明な経営環境下における業績評価システムの役割と課題」丹生谷 晋（筑波大学院生）
	「小売業におけるプロモーション手法の役割—ポイント制度と値引販売に関する実証分析」

佐々木郁子（東北学院大学）・青木章通（専修大学）
「財務・経理シェアードサービスの導入成果」新井康平（甲南大学）・岡崎路易（株大丸松坂屋百貨店）・三矢 裕（神戸大学）・大浦啓輔（滋賀大学）
「OECD 移転価格ガイドラインの管理会計的考察」吉田博文（公認会計士・税理士）
「移転価格算定手法に関する一考察」大石和礼（税理士）
「移転価格と組織戦略」青山伸一（公認会計士）
「工事契約に関する税法改正」神山直規（早稲田大学）
「経営者交代と利益マネジメント」山口朋泰（東北大学）
「会計基準の変更が管理会計に与える影響に関する一考察」河路武志（成蹊大学）
「買収防衛策導入企業のガバナンスと株式市場の評価」大越教雄（早稲田大学）
「環境配慮型 SCM を促進するマネジメント・コントロールの機能について—組織間関係理論の適用の視点から—」山根里香（東京理科大学）・浅田孝幸（大阪大学）
「TD-ABC と BPM の連携によるシナジー効果の研究」李 健泳（新潟大学）・長坂悦敬（甲南大学）
「買収プレミアムと株価効果の関連性」高橋美穂子（高崎経済大学）・大橋良生（会津大学）
「投資ハードルレートの調整機能としての持株会社について」平野典男（早稲田大学）
「アドバース・セレクションと内部振替価格問題」内田愛三（早稲田大学）
「シンジケートローンにおける債権者間の利害衝突について」安下達也（早稲田大学）
「組織スラック形成における銀行の情報生産の検証」田尻敬昌（九州大学）
「IFRS 第 9 号「金融商品」と有価証券保有の関係に関する考察」須藤時男（早稲田大学）
「ストック・オプション訴訟の判決内容と市場反応についての実証分析」 大沼 宏（東京理科大学）・櫻田 譲（北海道大学）
「金融オペレーションにおける戦略的マネジメントのためのフレームワークの探究—住宅ローン専門会社を中心とした考察」秋山 盛（三菱 UFJ リース株）
「長期的人材育成を行うための教育訓練費予算に関する一考察」竹内伸一（慶応義塾大学）
「ABC の総合原価計算への拡張—仕損・減損が生じるケースについて—」 小泉理絵（目白大学）・片岡 洋一（目白大学）
「伝統的な原価計算における廃棄物・GHG の認識と測定に関する研究」向田 靖（目白大学）
「総合原価計算の問題点一期首仕掛品から減損が生じないという仮定に関連して—」 小泉友香（鹿児島国際大学）・片岡洋一（目白大学）

2011年度全国大会			
会 場	関西大学	開催日	10月7日（金）～9日（日）
統一論題：管理会計研究の現状と課題			
	「バランスト・スコアカードの現状と課題：インタングブルズの管理」伊藤和憲（専修大学）		
	「組織間コスト・マネジメント研究の展開」窪田祐一（大阪府立大学）		

	「行政経営改革は管理会計研究に何をもたらしたのか」 藤野雅史（日本大学）
特別講演：	
	「現代中国企業の経営と会計」 謝 志華（北京工商大学副学長）
記念講演：	
	「管理会計学をいかに研究するべきか：科学的方法論序説」 片岡洋一（目白大学）
自由論題報告 49 件	
	「利益変動が株主価値評価に及ぼす影響について」 矢内一利（青山学院大学）
	「コーポレート・レピュテーションと企業業績の関係性」 岩田弘尚（専修大学）
	「温室効果ガス排出量による企業価値評価・企業の研究開発活動に関する一考察」 青木雅明（東北大学）・間普 崇（関東学園大学）
	「国際会計基準に対応した管理会計の課題」 川野克典（日本大学）
	「国際基準と管理会計」 平岡秀福（創価大学）
	「IFRS のアドプションが管理会計に与える影響について」 園田智昭（慶應義塾大学）
	「製品開発における水平的組織間コントロールシステムの可能性」 山田伊知郎（香川大学）
	「中小企業ネットワークのマネジメントコントロール」 大串葉子（新潟大学）
	「国際物流における組織間コントロールの規定要因：リスクマネジメントの視点から」 大浦啓輔（滋賀大学）・梶原武久（神戸大学）・西 健太郎（日本通運）
	「監査報酬と内部統制に関する研究」 大沼 宏（東京理科大学）・斉藤雄規（東京理科大学院生）
	「電子署名の会計・税務への活用と課題」 坂戸英樹（愛媛大学院生・ジェイアールグループ健康保険組合）
	「租税回避とコーポレート・ガバナンスの関係性について」 大沼 宏（東京理科大学）・佐々木和弘（東京理科大学院生）
	「日系多国籍企業の国際振替価格管理に関する実態調査」 梅田浩二（名古屋市立大学院生）
	「現代的予算管理に関する一考察—継続的予算と脱予算経営の比較検討—」 吉川晃史（熊本学園大学）
	「日本企業における予算のコントロール機能：4社のヒアリングからの比較」 松木智子（帝塚山大学）・福田直樹（兵庫県立大学）・李 建（京都学園大学）
	「原価計算におけるエネルギーロスの配賦に関する研究」 向田 靖（(株)東京放送ホールディングス）
	「多工程で発生する仕損、減損の測定と改善—プリント基盤製造工程の事例研究—」 鷲澤正樹（大陽工業(株)）
	「MFC A と BSC の連携による環境マネジメントの可能性について」 中寫道靖（関西大学）・岡 照二（関西大学）
	「日本企業におけるリーダーシップと業績評価のスタイルの関係の考察」 妹尾剛好（和歌山大学）
	「組織構成員の相互依存性とアカウントビリティの変容について」 衣笠陽子（滋賀大学）
	「情報提供による組織メンバーの行動変容についての一考察」

横田絵里 (慶應義塾大学)・末松栄一郎 (埼玉大学)
「プロジェクトとプログラムについて, マネジメント・コントロールのフレームワークと事例研究」 中村正伸 (アビーム・コンサルティング(株))・細田雅洋 (明治大学院生)・富田大資 (日本公認会計士協会)・鈴木研一 (明治大学)
「ものづくり力を高める意思決定会計とは: 製品ライフサイクルマネジメントにおける原価企画の発展的活用」北山一真 (プリベクト)
「利益管理の「短期化」に関する一考察—トヨタの実務視点からの解釈と今後の展望」 今井範行 (名城大学)
「ABC (ABPA) と TOC の親和性について」臼谷健一 (鹿児島県立短期大学)
「ドイツ管理会計に関する研究—Kostenlehre から management accounting research への移行—」 森本和義 (羽衣国際大学)
「総合原価計算の基礎構造と諸問題」小泉友香 (鹿児島国際大学)
「ソフトウェア開発の品質コストマネジメント—製造装置産業 X 社の事例—」 丸田起大 (九州大学)・佐藤浩人 (立命館アジア太平洋大学)・梶原武久 (神戸大学)
「自動車部品関連メーカーの合併・協調戦略におけるコスト競争力について—戦略的提携による原価予算内の企画・提案力の向上—」三浦徹志 (大阪成蹊短期大学)
「原価企画のサービス業への展望—原価企画の原点からの考察—」田坂 公 (久留米大学)
「時間主導型活動基準原価計算の構造」波多野佑輔 (目白大学院生)・片岡洋一 (目白大学)
「動的活動基準製品原価計算の展開」佐藤安博 (目白大学院生)
「年価ベースによる改善活動の効果分析—J コスト論の展開—」井岡大度 (国士舘大学)
「社会福祉法人の管理会計—バランスト・スコアカードの導入・適用を中心に—」 佐藤 幹 (広島大学院生)
「管理会計の視点から見た医療機関の BSC—台湾の病院の BSC 導入事例」劉 慕和 (日本大学)
「エクイティ・インセンティブと報告利益管理」遠谷貴裕 (早稲田大学院生)
「売上高の不確実性と原価態様の非対称性に基づく CVP 分析」佐藤清和 (金沢大学)
「資本予算における投資評価方法の変化要因」篠田朝也 (北海道大学)
「日本電産株式会社の経営改革: 経済危機下における管理会計の変化と知識創造」 浅田拓史 (大阪経済大学)・吉川晃史 (熊本学園大学)・上總康行 (福井県立大学)
「受注生産への等級別原価計算の適用—大陽工業の事例研究—」孟 飛 (目白大学院生)
「管理会計におけるコントロール概念について」和田淳蔵 (岡山大学)
「財務成果と顧客満足のマネジメントに関する研究」 近藤隆史 (京都産業大学)・乙政佐吉 (小樽商科大学)
「顧客関係性構築の促進要因に関する研究」青木章通 (専修大学)
“A History of Target Cost Management: Institutionalization of Value Engineering” Arata Suzuki (Kobe University)

<p>“Effects of Spinoff Strategy on Corporate Group Performance” Tetsuhiro Kishita (Ryukoku University)</p>
<p>“Account of Others Comprehensive Incomes as Business Results; Questionnaire Research Studies on Comprehensive Incomes in 2011” Masamichi Yoshioka (Tokyo University of Science)・Noriko Noguchi (Tokyo University of Science)・Keita Kinjou (Tokyo University of Science)・Satoshi Suehara (Tokyo University of Science)</p>
<p>“Project Flow Model for Introducing BSC” Masaaki Aoki (Tohoku University)・Mitsuya Hasebe (Arcept Consulting Co. Ltd.)</p>
<p>“Niigata Minamata Disease and Showa Denko” Kazumasa Takemori (Chubu University)</p>
<p>“Uncertainty and Management Accounting: Opportunity, Profit Opportunity, and Profit” Akira Nishimura (Beppu University)</p>

2012年度全国大会			
会 場	国士舘大学	開催日	8月24日(金)～26日(日)
統一論題：管理会計研究と方法論			
	「管理会計における分析的手法の意図と貢献」渡邊章好 (東京経済大学)		
	「管理会計における実証研究の特徴と課題」木村史彦 (東北大学)		
	「管理会計における実験研究の位置付けを巡って」田口聡志 (同志社大学)		
	「管理会計研究における質的研究方法論の意義：実務とのインタラクション」木村彰吾 (名古屋大学)		
特別講演：			
	「知識社会における組織運営」倉重英樹 ((株)シグマックス代表取締役 CEO)		
自由論題報告 40件			
	「移転価格に関する事例研究」青山伸一 (公認会計士)		
	「移転価格税制における事前確認制度」大石和礼 (税理士)		
	「移転価格課税リスクマネジメント」高久隆太 (慶應義塾大学)		
	「個別受注生産に適用した等級別原価計算の妥当性—個別原価計算による検証—」 鷺澤正樹 (目白大学大学院客員研究員・大陽工業(株))		
	「総合原価計算への動的モデルの適用—T社の事例研究—」佐藤安博 (目白大学院生)		
	「価値連鎖への活動基準原価計算の適用—活動基準価値連鎖原価計算 (ABVCC) の適用—」 孟 飛 (目白大学院生)		
	「日本企業の海外進出に伴う企業価値評価の差異分析」 大沼 宏 (東京理科大学)・丹羽信之 (東京理科大学院生)		
	「調達・購買マネジメントのパラドックス」 高野仁一 (高野国際会計事務所・米国公認会計士・税理士)		

「日韓企業における IFRS 導入と IT, 管理会計に関する実態比較—アンケート調査からの考察—」 長坂悦敬 (甲南大学)
「債務超過企業における組織再編の効果に関する研究」村上暢子 (筑波大学大学院生)
「PFI/PPP 事業における意思決定問題—需要リスクと事業リスクの関係性を中心に—」 山口直也 (新潟大学)
「日本航空の再建について」金田直之 (学習院大学)
「コミュニケーションツールとしてのマテリアルフローコスト会計—K社におけるコスト削減ツールから戦略マップへの展開—」関 利恵子 (信州大学)
「トヨタ生産システムとマテリアルフローコスト会計の統合化に関する一考察」 今井範行 (名城大学)
「環境ライフサイクル・コストイングにおける測定手法」長野史麻 (明治大学)
「IT 組織の業績評価指標—戦略志向 IT 組織への変革の観点から—」小酒井正和 (玉川大学)
「戦略的キャッシュフローマネジメントにおける顧客価値会計の活用」北山一真 (プリベクト)
「資本予算における経済性評価方法の選択と企業業績との関連性」篠田朝也 (北海道大学大学院)
「移転価格税制の適用と企業統治属性に関する実証研究」 大沼 宏 (東京理科大学)・加藤恵吉 (弘前大学)
「年金資産運用が企業財務に与える影響」大沼 宏 (東京理科大学)・能村章司 (東京理科大学院生)
「時系列モデルによる ROE 予想値の予想精度の検証」矢内一利 (青山学院大学)
「減損・仕損品原価計算の事例研究～窯業企業のケース～」 向田 靖 (目白大学経営研究所客員研究員)
「原価差異分析の前提となる原価差異の算定—記帳方法と差異分析の混同を出発点に—」 井上和子 (立教大学院生)
「原価企画推進上の必要機能」管 康人 (目白大学院生)・田中雅康 (東京理科大学)
「見積原価計算における設備費の取扱い」眞田 崇 (あらた監査法人)・田中雅康 (東京理科大学)
「サプライチェーンを構成する企業における結合的利益の分配について～センター・フィーを例に～」 今林正明 (目白大学)
「人道支援サプライチェーン・マネジメント—管理会計の視点から—」皆川芳輝 (名古屋学院大学)
「企業の危機管理における組織能力構築の意義—トヨタ自動車の危機管理事例を中心として—」 柊 紫乃 (東京大学ものづくり経営研究センター)
「パナソニックにおける CCM の動向」平岡秀福 (創価大学)
「特性要因図を活用した戦略のカスケードと方針展開—医療機関の事例から—」 関谷浩行 (城西国際大学)
「福岡県の医療における組織の変遷」浅川哲郎 (九州産業大学)
「中期経営計画と事業計画に関する研究」奥 倫陽 (東京国際大学)
「高不確実性下における予算管理実践」

吉川晃史 (熊本学園大学会計専門職大学院)・浅田拓史 (大阪経済大学)
「環境配慮型 SCM におけるマネジメント・コントロールの機能とパフォーマンスの関係」 山根里香 (東京理科大学)
「企業の環境関連情報と企業価値の関係についての一考察」 青木雅明 (東北大学会計大学院)・間普 崇 (関東学園大学)
「報酬契約の開示による経済的影響—エージェンシー理論を用いた分析—」 呉 重和 (大阪大学大学院特別研究員)・椎葉 淳 (大阪大学大学院)
「ブランドの企業業績におよぼす影響」 福田正彦 (筑波大学院生)
「レピュテーションリスク・マネジメント」 竹迫秀俊 (城西国際大学院生)
「顧客企業の価値向上のために共創を実践する～顧客企業の経営への企業の関与とその適用について～」 伊藤武志 (城西国際大学院生・価値共創)
「従業員満足度、顧客満足度、財務業績の関係にかかわる研究」 鈴木研一 (明治大学)・松岡孝介 (東北学院大学)・細田雅洋 (明治大学院生)・富田大資 (明治大学院生)・榊 美菜 (明治大学院生)

2013年度全国大会			
会 場	立命館大学	開催日	9月13日(金)～15日(日)
統一論題：管理会計における産学連携とアクションリサーチ			
「管理会計研究におけるアクションリサーチの方法的論意義と課題」松尾貴巳 (神戸大学大学院)			
「管理会計研究によるサービス開発からの教訓」岡田幸彦 (筑波大学大学院)			
「理論研究と実践を通じた環境管理会計手法 MFCA の進化」下垣 彰 (FMIC)			
特別講演：			
“There and back again: Interventionist research in management accounting” Kari Lukka (Turku School of Economics)			
自由論題報告 33 件			
「我が国のマネジメント・コントロール・システム導入企業の特徴の明確化—バランスト・スコアカードを例とした考察—」 絹村信俊 (東北大学院生)			
「明星大学における Balanced Scorecard の活用について—4 年目を迎えての見直しに向けて—」 中嶋教夫 (明星大学)			
「経営者のリスク選好を反映した短期利益計画に関する考察」 佐藤清和 (金沢大学)			
「EVM における ABC を用いた差異分析・コストコントロールの適用と ABB への展開」 齋藤 毅 (明治大学院生)・小村亜唯子 (明治大学院生)・鈴木研一 (明治大学)			
「プロジェクトマネジメントにおける管理会計の役割について～海外建設プロジェクトにおける考察を通して～」 坂手啓介 (大阪商業大学)			
「プロジェクトとプログラムについて、マネジメント・コントロールのフレームワークとアクションリサーチ」 中村正伸 (アビームコンサルティング(株))・鈴木研一 (明治大学)			

「Du Pont 社における投資利益率式の変遷とその機能」麻場勇佑（日本大学院生）
「戦略創発・発見やマネジメントコントロール機能を探るわが国での薬種商から医薬品企業への飛躍に至る歴史的研究」石川 潔（小野薬品工業(株)）
「マッキンゼー『管理会計』における control—『予算統制』からの視座」北村浩一（鹿児島大学）
「伝統的な原価計算における廃棄物の識別と認識および測定」向田 靖（目白大学）
「工程別計算における累加法・先入先出法の検討」平井裕久（高崎経済大学）・片岡洋人（明治大学）
「開発設計段階の見積原価計算における加工費の測定と原価低減」 眞田 崇（あらた監査法人）・田中雅康（広島都市学園大学）
「中国企業の資本構造におけるリスクマネジメントと関連取引—FSI 社の事例研究」 仲 伯維（亜細亜大学院生）
「日本企業のタックス・マネジメントの現状と問題点」 山田有人（大原大学院大学）・江頭幸代（大原大学院大学）
「『場』の概念に基づく MCS の有効性評価の可能性の検討」榎 美菜（明治大学院生）・松岡孝介（東北学院大学）・鈴木研一（明治大学）・井上賢治（明治大学院生）
「医療機関における管理会計とミドルマネージャーの役割」井上秀一（京都大学院生）
「効率性と柔軟性を両立するためのマネジメント・コントロール・システム」李 燕（明海大学）
「組織管理,特に組織内の社会関係資本に対する管理会計の貢献について—S 県庁の組織再編に関する調査から—」松本有二（静岡産業大学）・堀川知廣（静岡産業大学）
「経済効果予測の「浮世離れ」克服による「脱 問題先送り」への活用—ケーススタディー」 坂戸英樹（愛媛大学院生）
「山形県における地域産学官金連携実践スキームと、地域企業における原価管理体制構築アクション・リサーチ報告」柘 柴乃（山形大学）
「報酬決定における順序効果：実験室実験」 新井康平（群馬大学）・福島一矩（西南学院大学）・妹尾剛好（和歌山大学）
「製品企画・開発段階における価格戦略」 福岡宣行（目白大学院生）・田中雅康（広島都市学園大学）・原田 昇（目白大学）
「通信販売業での固定収益会計の適用事例研究」川田修平（明治大学院生）・鈴木研一（明治大学）
「ブライダル産業における収益管理に関する一考察」吉岡 勉（産業能率大学）
「製造業における管理会計機能の再考～「財務会計と管理会計」の分離／一致における有用点と問題点」北山一真（プリベクト）
「環境問題に関する社会的責任業績と無形資産の関係—質問票調査に向けて—」 北田真紀（大阪大学院生）
「統合報告における環境管理会計からのアプローチ」筑波由美子（亜細亜大学院生）
「企業の環境関連情報による研究開発活動についての一考察」 青木雅明（東北大学大学院）・間普 崇（関東学園大学）

「環境経営におけるマネジメント・コントロールへの MFCA 情報の有用性について」 中 道 靖 (関西大学)・岡 照 二 (関西大学)
「報酬契約におけるパフォーマンス指標の精確度と感応度」 QIAN QIAN (慶應義塾大学院生)
「利益調整行動を考慮した倒産予測モデルの検討」 石井直也 (東京理科大学院生)・馮 玲 (東京理科大学)
「経営者予想の予測精度と価値関連性の関連」 川崎徳昭 (青山学院大学院生)
「利益の質と保守主義との関連性」 大沼 宏 (東京理科大学)・安藤博昭 (東京理科大学院生)

2014年度全国大会			
会 場	青山学院大学	開催日	9月11日(木)～13日(土)
統一論題：環境、社会およびガバナンスに対して管理会計はどう向き合うか？			
	「地域造船企業における戦略的原価管理による採算性改善・競争優位に関する研究—国内 A 社造船所の実践と日本・韓国造船業の動向の視点から—」 宮地晃輔 (長崎県立大学)		
	「「デュアル・モード管理会計」と資本市場—利益管理の「短期化」に関する—考察—」 今井範行 (名城大学)		
	「企業の社会性・人間性と企業価値—統合報告と管理会計の役割—」 内山哲彦 (千葉大学)		
特別講演：			
	「伝統とは革新の連続～変わらないために変わり続ける～」 玉川基行 ((株)玉川堂 代表取締役社長)		
スタディ・グループ中間報告：			
	「企業価値創造に向けてのインタンジブルズの複合的活用」 研究代表者 内山哲彦 (千葉大学)		
産学共同研究グループ中間報告：			
	「次世代マネジメント・コントロールのためのメゾスコピック・モデルに関するアクション研究」 研究代表者 長坂悦敬 (甲南大学)		
自由論題報告 41 件			
	「ソフトウェア受託開発における管理会計の役割」 篠原巨司馬 (福岡大学)		
	「戦略的固定費論～原価企画と顧客価値会計による固定費の考察～」 北山一真 (プリベクト)		
	「メタ組織におけるマネジメント・コントロール—京都試作ネットのケース—」 山口直也 (青山学院大学)		
	「マテリアルフローコスト会計 (MFCA) におけるエネルギー分析に関して」 中 道 靖 (関西大学)		
	「指定管理者制度の現状と課題～横浜市の事例分析を中心に～」 藤崎晴彦 (横浜市立大学)		
	「医療の業務効率化を支援するマネジメント・コントロール・システム」 島 吉 伸 (近畿大学)・栗栖千幸 (亀田医療大学)・真田正博 (医療法人鉄蕉会)		
	「日本の予算管理における予算スラック軽減のメカニズム」 福田直樹 (兵庫県立大学)・松木智子 (帝塚山大学)・李 建 (追手門学院大学)		
	「WS (ワークサンプリング) による生産性の把握事例」 木谷 弘 (合同会社 V.T.G.)		

「財務報告におけるマネジメント・アプローチの展開—会計変化の今日の特徴と方向—」 島田美智子（下関市立大学）
「リアル・オプション・アプローチによる企業価値評価法」佐藤清和（金沢大学）
「日本の地方自治体運営の現状分析—マネジメント・コントロールに着眼した質問票調査による分析—」佐藤 幹（保健医療経営大学）
「バランス・スコアカードの導入における普及者の役割」 井上康秀（(株)TOPWELL）・青木秀彰（小山(株)）・大浦啓輔（滋賀大学）
「強制開示情報と自発的開示情報の関係についての理論分析」石川 徹（大阪大学院生）
「株主構成と資本コストに関する実務的な検証」新谷 理（早稲田大学院生）
「日本企業におけるコスト・ビヘイビアの非対称性—Banker et al.(2014)の追試—」 北田智久（神戸大学院生）
「財務スラックがコストの下方硬直性に与える影響」 安元雅彦（一橋大学院生）・蜂谷豊彦（一橋大学）
「国際移転価格を用いた在外子会社の管理」濱村純平（神戸大学院生）
「ビジネスユニットのマネジャーの利益調整行動に関する実証研究」 佐久間智広（神戸大学院生）・安酸建二（近畿大学）・三矢 裕（神戸大学）
「バランスト・スコアカード導入企業と未導入企業の比較による企業文化的特徴の明確化」 絹村信俊（東北大学院生）
「職場におけるコミュニケーションとマネジメント・コントロール・システムの関係」 榎 美菜（明治大学院生）・松岡孝介（東北学院大学）・鈴木研一（明治大学）
「品質原価計算の組織間における適用可能性の探究」関 洋平（早稲田大学院生）
「製品企画段階における価格と購入意欲の関係分析」 福岡宣行（目白大学院生）・田中雅康（広島都市学園大学）
「マネジメント・コントロールによるイノベーションの創発可能性」福島一矩（西南学院大学）
「組織学習とマネジメント・コントロール・システム」福田淳児（法政大学）
「バランスト・スコアカードの活用を変化させる要因の探究：事例に基づく検討」 横田絵理（慶應義塾大学）・妹尾剛好（和歌山大学）
「戦略策定と戦略実行の連動に関する考察」南雲岳彦（(株)三菱 UFJ フィナンシャル・グループ）
「開発設計段階の見積原価計算における加工費測定的前提」眞田 崇（あらた監査法人）
「グローバル化に対応するための原価企画：コストテーブルの基本と応用」 吉田栄介（慶應義塾大学）・山本秀幸（イーグル工業(株)）
「固定収益会計における差異分析の有効性—A 社アクションリサーチをとおして—」 富田大資（公認会計士）・松岡孝介（東北学院大学）・鈴木研一（明治大学）
「リーン生産方式における実績の会計的測定」王 志（名古屋商科大学）・門田安弘（筑波大学）
「経営者予想精度と価値関連性の因果関係—タイムラグを伴う予想精度の影響を考察した検証—」

川崎徳昭（青山学院大学院生）
「繰延税金資産の回収可能性に関する考察—法人税制改正が評価性引当率に及ぼす影響—」 堀 好一（早稲田大学院生）
「ストック・オプション付与のタイミングと経営者の機会主義的行動」 遠谷貴裕（明星大学）
「企業の温室効果ガス排出量と企業価値の不確実性に関する一考察」 間普 崇（関東学園大学）・青木雅明（東北大学）
「広告宣伝費がブランド価値に与える影響についての実証研究」 福田正彦（筑波大学院生）
「ブランド戦略経営における競争優位性構成要素分析」 山田慎一郎（東京理科大学大学院生）・馮 玲（東京理科大学）・中塚翔大（東京理科大学大学院生）
「エイジェントの信奉度が業績評価に及ぼす影響の考察」 若林利明（早稲田大学）
「工事契約における成果の確実性の獲得と工事原価回収基準の適用—合意に至らない追加作業に対する収益認識の可能性—」 神山直規（早稲田大学院生）
「両利きの経営」を実現するマネジメント・コントロール・システムに関する考察」 市原勇一（京都大学院生）
「連続増益企業の利益平準化行動」 高原康太郎（早稲田大学）
「賃貸等不動産保有割合とその時価が企業業績にもたらす影響についての考察」 須藤時男（早稲田大学院生）

2015年度全国大会			
会 場	近畿大学	開催日	8月28日（金）～30日（日）
統一論題：コスト・ビヘイビアと原価計算			
	「コスト構造と企業リスク：近年の理論・実証研究からの示唆」 椎葉 淳（大阪大学大学院）		
	「コストマネジメント行動とコストビヘイビア：コストビヘイビアの裏側に迫る」 梶原武久（神戸大学大学院）		
	「階層線形回帰モデルが経営分析に与えるインパクト」 新井康平（群馬大学）		
スタディ・グループ中間報告：			
	「中小企業における管理会計の総合的研究」 研究代表者 水野一郎（関西大学）		
スタディ・グループ最終報告：			
	「企業価値創造に向けてのインタangibleの複合的活用」 研究代表者 内山哲彦（千葉大学）		
産学共同研究グループ最終報告：			
	「次世代マネジメント・コントロールのためのメゾスコピック・モデルに関するアクション研究」 研究代表者 長坂悦敬（甲南大学）		
自由論題報告 32件			
	「製品企画段階における価格戦略—顧客の欲求別分析による売価設定—」 福岡宣行（目白大学院生）・田中雅康（広島都市学園大学）		

「原価企画活動の評価—目標原価の達成度評価を中心に—」 真田 崇（あずさ監査法人）・田中雅康（広島都市学園大学）
「原価企画に必要な不可欠な開発購買機能」田中雅康（広島都市学園大学）
「VA/VE の製品価値概念の検討」菅森 聡（日本大学院生）
「半導体企業の設備投資に関する実証研究」東 壯一郎（関西学院大学院生）
「多角化戦略、企業のガバナンス構造及び企業パフォーマンスの関係性」入江将弘（東京理科大学 院生）・榎本拓磨（東京理科大学院生）・馮 玲（東京理科大学）
「コーポレート・レピュテーションに関する実態調査報告—一般消費者に対する質問票調査の分析 に基づいて—」岩田弘尚（専修大学）
「日本企業における環境経営の意義と課題：東芝へのインタビューを通して」 中嶋道靖（関西大学）・木村麻子（関西大学）・岡 照二（関西大学）
「財務・非財務指標による研究開発活動と利益変動の関係についての一考察」 間普 崇（関東学園大学）・青木雅明（東北大学大学院）
「その他有価証券のリサイクルによる利益調整に関する実証研究」 大沼 宏（東京理科大学）・吉田 契（東京理科大学大学院生）
「経営者業績予想におけるコスト差異分析：コスト・ビヘイビアの観点から」濱村純平（神戸大学 院生）・北田智久（神戸大学院生）・福嶋誠宣（神戸大学院生）・安酸建二（近畿大学）
「経営者予想利益のラチェット効果の検証」矢内一利（青山学院大学）
「従業員の自律的行動と管理会計一場のマネジメントの観点から—」 井上賢司（明治大学院生）・鈴木研一（明治大学）
“Management Control of Time and Space: (Re) framing the Transacting Context” Stephen Jollands (University of Exeter)・Chris Akroyd (Oregon State University)・Norio Sawabe (京都大学大学院)
「小松製作所の予算管理実践」 吉川晃史（熊本学園大学）・浅田拓史（大阪経済大学）・上總康行（京都大学名誉教授）
「参加型予算の役割に関する考察」佐々木多恵（神戸大学院生）
「海外子会社管理のためのコントロール・パッケージの分析枠組みの提示」 松木智子（帝塚山大学）・近藤隆史（京都産業大学）・島 吉伸（近畿大学）
「マテリアルフローコスト会計（MFCA）の自動車リサイクルへの応用」木村眞実（沖縄国際大学）
「監査の質が資本コストに与える影響」高原康太郎（早稲田大学）
『原価計算基準（仮案）』に見る中西寅雄の原価計算思想」 山本宣明（LEC 東京リーガルマインド大学院大学）
「M&A 実施企業の財務特性に関する研究」村上暢子（筑波大学院生）・山田雄二（筑波大学）
「企業買収と海外事業展開—事例研究」金田直之（学習院大学）
「日本企業における販売費及び一般管理費の動向」小笠原 亨（神戸大学院生）・佐久間智広（松山

大学)・新井康平(群馬大学)・安酸建二(近畿大学)
「リアルオプション・アプローチによる CVP 分析の理論的拡張」佐藤清和(金沢大学)
「マザーリングマネジメントによるマネジメント・コントロールについての理論的考察」 吉岡 勉(産業能率大学)
「日本のヒューマン・サービス業におけるバーンアウトとその関連要因—製造業におけるバーンアウト研究への示唆—」王 志(名古屋商科大学)・椿田貴史(名古屋商科大学)・関口了祐(名古屋商科大学)
「Resource Consumption Accounting がもたらすコスト情報の有用性」目時壮浩(武蔵大学)
「製造業における管理会計的固定費論—財管一致の問題点と原価企画機能からの考察—」 北山一真((株)プリベクト)
「所在地別セグメント情報を用いたコストの下方硬直性の検証」高橋克幸(早稲田大学院生)
「費用収益対応の原則とコスト行動」安元雅彦(一橋大学院生)
「インタンジブルズの負の側面の影響と管理」梅田 宙(専修大学院生)
「CSR 経営の実践におけるテンションの管理」金 宰弘(神戸大学院生)

2016年度全国大会			
会 場	明治大学	開催日	8月31日(水)～9月2日(金)
統一論題：管理会計の新展開			
	「サービス組織におけるマネジメント・コントロールの新展開」青木章通(専修大学)		
	「管理会計の常識的知識への接近」堀井悟志(立命館大学)		
	「管理会計におけるマイクロ・マクロ・ループの意義と課題」前田 陽(明治大学)		
特別講演：			
	「日立の業績管理の変遷」今給黎真一((株)日立製作所)		
	「戦略的管理会計研究の視点」小林哲夫(神戸大学名誉教授)		
スタディ・グループ中間報告：			
	「コスト変動の把握と変動の原因解明に向けた実証的研究」研究代表者 安酸建二(近畿大学)		
スタディ・グループ最終報告：			
	「中小企業における管理会計の総合的研究」研究代表者 水野一郎(関西大学)		
産学共同研究グループ中間報告：			
	「KPI と予算の設定及び業績予想に関する研究」研究代表者 清水信匡(早稲田大学大学院)		
自由論題報告 38件			
	「欠損金の繰戻し還付と繰越控除についての企業選択の分析」成川亘人(横浜市立大学院生)		
	「小規模企業における原価管理システムの理論と実装」終 紫乃(山形大学)		
	「わが国地方自治体におけるライフサイクル・コストの算定および活用状況—544自治体のアンケート調査結果に基づいて—」中島洋行(明星大学)		

「OECDのBEPSプロジェクトによる移転価格の検討～我が国実態との関連において～」 大石和礼（大石税務会計事務所）
「テンション・マネジメントとしての原価企画に関する実証研究」 吉田栄介（慶應義塾大学）・榎谷奎太（慶應義塾大学院生）
「非財務指標としての温室効果ガス排出量についての一考察」 青木雅明（東北大学大学院）・間普 崇（関東学園大学）
「コーポレート・ガバナンスが倒産企業の経営者予想精度に与える影響」 榎本拓馬（東京理科大学院生）
「日本の主要企業におけるコストテーブルとそれに要請される機能」 田中雅康（広島都市学園大学）・眞田 崇（PwCあらた監査法人）
「明星大学におけるBSCの活用—新たな転機に向けて—」中嶋教夫（明星大学）
「経営者報酬と利益ベンチマークとの関係の検証」矢内一利（青山学院大学）
「BSCの将来財務業績への影響」西居 豪（専修大学）・新井康平（群馬大学）
「日本企業における利益調整行動の実態に関する実証研究—業績連動型報酬制度と会計的・実態的 利益調整行動の代替的な関係の解明—」大沼 宏（東京理科大学）・謝 遠治（東京理科大学院生）
「戦略変更時に予算管理の果たす役割—医薬品開発を事例とするプログラム・プロジェクトベース での予算管理の意義と課題—」中村正伸（香川大学大学院）・鈴木研一（明治大学）
「減損損失にみる経営者の裁量行動」渡辺智信（立教大学院生）
「事業評価の観点におけるプロジェクト会計の有効性について～自動車部品メーカーの実例からの 考察～」北山一真（(株)プリベクト）
「マルチセグメント企業の投資情報の開示」 呉 重和（名古屋商科大学）・石枕義和（神戸市外国語大学）
「半導体製造装置企業における設備投資に関する実証研究」東 壯一郎（関西学院大学院生）
「ソニーグループの経営戦略と財務情報分析」平岡秀福（創価大学）
「新しい資源消費モデルと販管費の実証的探索の意義」 北田智久（神戸大学院生）・濱村純平（神戸大学院生）
「業務改善を促進するインタラクティブ・コントロール・システムへのリーダーシップの影響—ホ テル業A社での事例—」齊藤 毅（明治大学院生）・三谷華代（明治大学院生）・眞嶋洋平（明治 大学院生）
「費用構成が利益変動に与える影響—国内ホテル業における事例研究—」 小村亜唯子（明治大学院生）・鈴木研一（明治大学）
「販管費変動の決定要因の探求：利益達成インセンティブとインタンジブルズに着目して」劉 美 玲（神戸大学院生）・佐々木多恵（神戸大学院生）・北田智久（神戸大学院生）・小笠原 亨（神戸 大学院生）
「グローバルゼーションにおける組織文化統合とマネジメントコントロール」

浅田孝幸（立命館大学）・塘 誠（成城大学）・金 宰煜（広島大学）
「収益予測のための顧客分析に関する研究—予防医学事業を対象として—」 手嶋竜二（九州産業大学）
「販管費の変動と将来業績の関係」佐久間智広（松山大学）・福嶋誠宣（神戸大学院生）
「ホスピタリティ産業における水平的調整」豊崎仁美（明治大学院生）・鈴木研一（明治大学）
「顧客の CSR への認知が財務業績に及ぼす影響」細田雅洋（作新学院大学）・小村亜唯子（明治大学院生）・三谷華代（明治大学院生）・山脇香織（明治大学院生）
「会計研究における実証的なアプローチ：「R」による分析のチュートリアル」小笠原 亨（神戸大学院生）・井上謙仁（大阪市立大学院生）・北田智久（神戸大学院生）・福嶋誠宣（神戸大学院生）・新井康平（群馬大学）
「職場におけるマネジメント・コントロールと信頼の関係—宿泊業 A 社の事例研究—」 日浅 優（明治大学院生）・鈴木研一（明治大学）
「介護事業経営に有用な管理会計手法の考察」秋山 盛（早稲田大学院生）
「多角化研究における企業価値評価方法に関するサーベイ研究」 坪内龍太（東京理科大学大学院生）・馮 玲（東京理科大学）
「コストの慣性に関する実証研究」安元雅彦（一橋大学院生）
「財務業績と達成しようとする経営者意思の関係に対する考察」町田遼太（早稲田大学院生）
「財管一致に関するアンケート調査」清松敏雄（多摩大学）
「戦略修正における撤退基準の役割」奥 倫陽（東京国際大学）
「日本企業における予算の修正に関する考察」妹尾剛好（和歌山大学）
「中長期経営計画における戦略と管理会計の関係に関する定性的研究」篠原巨司馬（福岡大学）
「予算バイアスの順機能性に関する一考察」今井範行（名城大学）

2017年度全国大会			
会 場	福岡大学	開催日	8月27日（日）～29日（火）
統一論題：管理会計の拡張と実務適用の課題			
	「社会に貢献する企業の経営管理—オムロンの事例研究を中心として—」 伊藤武志（株式会社価値共創・専修大学大学院）		
	「マーケティング管理会計の展開：顧客動向の追跡と動線設計」伊藤克容（成蹊大学）		
	「管理会計研究・実践と人的要素の管理—統合報告を中心に—」内山哲彦（千葉大学）		
	「資本予算実務の課題」篠田朝也（北海道大学）		
特別講演：			
	「契約価格，原価，利益の研究—研究アプローチの変遷と防衛省の『訓令』の批判的検討—」 櫻井通晴（専修大学名誉教授）		
スタディ・グループ中間報告：			

	「サービス業における顧客マネジメント」研究代表者 青木章通（専修大学）
	「地域中小製造企業の管理会計・原価計算活用実態解明と経営改善への接続に関する研究」 研究代表者 宮地晃輔（長崎県立大学）
スタディ・グループ最終報告：	
	「コスト変動の把握と変動の原因解明に向けた実証的研究」研究代表者 安酸建二（近畿大学）
産学共同研究グループ最終報告：	
	「KPI と予算の設定及び業績予想に関する研究」研究代表者 清水信匡（早稲田大学）
自由論題報告 40 件	
	「管理会計が医療・介護連携に与える影響—地域包括ケアシステムの構築に向けて」 岡田華奈（新潟産業大学）・尻無濱芳崇（山形大学）・黒木 淳（横浜市立大学）
	「取引相手の選択と探索コストとの関連性」坂口順也（名古屋大学）
	「MFCA の継続的導入による進化」関 利恵子（信州大学）
	「MFCA と組織間管理会計：サプライチェーンにおける MFCA 情報の共有」 関 洋平（早稲田大学）
	「経験を活かす管理会計の利用と効果：質問票調査に基づく考察」福島一矩（中央大学）
	「Customer Concentration, Corporate Equity Ownership, and Firm Performance」 佐々木郁子（東北学院大学）・椎葉 淳（大阪大学大学院）・高橋邦丸（青山学院大学）
	「半導体製造装置企業における設備投資意思決定の現状—A 社の事例を中心に—」 東 壯一郎（関西学院大学研究員）
	「『財管一致』の会計情報システムの進化形—経営情報システムの導入事例研究—」 中野晴之（三和化学研究所）
	「ASEAN 進出企業における原価企画活動の現地化の促進要因—現地化コンテキストの比較分析—」 小酒井正和（玉川大学）・田坂 公（福岡大学）
	「原価企画における VE の果たすべき役割」 田中雅康（広島都市学園大学）・福岡宣行（産業能率大学総合研究所）
	「イノベーションと管理会計研究の今後の方向性についての—考察—Robert Simons の貢献と限界 の考察を足掛かりとして—」天王寺谷達将（広島経済大学）
	「マネジメント・コントロール・システムにおける撤退基準の役割」奥 倫陽（東京国際大学）
	「コマツのコントロール・システム—自律創造型コントロールの視点から」 浅田拓史（大阪経済大学）・吉川晃史（熊本学園大学）・上總康行（京都大学名誉教授）
	「ボトルネック解消プロセスの考察—ボトルネック管理の特徴に着目して—」 佐藤正隆（慶應義塾大学院生）
	「地方公共団体における会計情報の有用性について」 松村俊英（首都大学東京）・細海昌一郎（首都大学東京）
	「非営利組織におけるゼロ利益制約下の予算設定：私立大学を対象とした実証分析」

黒木 淳 (横浜市立大学)
「行政組織の管理会計能力に関わる現状と課題：民間企業との比較を通じて」 目時壮浩 (武蔵大学)・福島一矩 (中央大学)
「中小企業の管理会計と税理士の関係に関する探索的研究」 山本宣明 (LEC 東京リーガルマインド大学院)
「中小企業における管理会計の導入と実践—北海道苫小牧市を事例として—」 川島和浩 (苫小牧駒澤大学)
「管理会計を行政に拡張する場合の課題」 大西淳也 (財務省財務総合政策研究所客員研究員・総務省大臣官房審議官〔公営企業担当〕)
「振替価格による権限委譲・相互依存性の調整メカニズムの検討」町田遼太 (早稲田大学院生)
「在日子会社トップ・マネジメントの意思決定に対する本社による業績管理の影響」 鬼塚雄大 (慶應義塾大学院生)
「業績評価の主観性、業績指標の多様性、環境不確実性の相互作用が財務業績におよぼす影響」 榊谷奎太 (慶應義塾大学院生)・吉田栄介 (慶應義塾大学)
「革新能力と成果の構築における組織文化とサステナビリティ・マネジメント・コントロール・システムの役割」陸 根孝 (釜山外語大学)
「原価概念の考察—その多様な在り方の比較検討を中心として—」矢澤信雄 (別府大学)
「Risk-based view of the firm 論の試み」長谷川泰隆 (麗澤大学)
「銀行アカウントフィーに関する管理会計研究—サブスクリプションモデルの適応可能性」 谷守正行 (専修大学)
「ホテル業における稼働の不確実性を考慮した予算達成確率の算出」小村亜唯子 (明治大学院生)・ 山脇香織 (明治大学院生)・三谷華代 (明治大学院生)・鈴木研一 (明治大学)
「マネジメント・コントロール・システムが整合的行動を促すプロセス—場の理論を構成概念として用いて—」豊崎仁美 (明治大学院生)・児玉麻衣子 (明治大学院生)・日浅 優 (明治大学院生)・ 鈴木研一 (明治大学)
「予算・方針管理が職場メンバーの関係に与える影響—A 社の事例を用いて—」日浅 優 (明治大学院生)・豊崎仁美 (明治大学院生)・児玉麻衣子 (明治大学院生)・鈴木研一 (明治大学)
「非財務指標への差異分析の適用」山脇香織 (明治大学院生)・三谷華代 (明治大学院生)・小村亜唯子 (明治大学院生)・鈴木研一 (明治大学)
「顧客志向による有機的コントロール—場の理論を構成概念として用いた実証的研究—」児玉麻衣子 (明治大学院生)・豊崎仁美 (明治大学院生)・日浅 優 (明治大学院生)・鈴木研一 (明治大学)
「マネジメント目的でのコーポレート・レピュテーションの測定」梅田 充 (専修大学院生)
「管理会計と組織文化の相乗効果に関する研究—質問紙調査に基づく分析」 棚橋慶太 (青山学院大学院生)
「事業譲渡を用いた多角化戦略と収益性・リスクの関係」

坪内龍太（東京理科大学院生）・馮 玲（東京理科大学）
「中小企業 M&A における企業特性からの売却価格影響要因分析」 荻 百花（東京理科大学院生）・馮 玲（東京理科大学）
「金融オペレーションにおけるスループット会計の導入可能性」秋山 盛（早稲田大学院生）
「利益ベンチマーク達成に向けた利益調整行動に関する分析」 秋葉良樹（東京理科大学院生）・馮 玲（東京理科大学）
「研究開発投資を資産化する企業の特徴に関する一考察」吉井貴充（筑波大学院生）
「信頼とコミットメントを用いた非財務尺度と財務業績の関係」三谷華代（明治大学院生）・小村亜唯子（明治大学院生）・山脇香織（明治大学院生）・鈴木研一（明治大学）

2018年度全国大会			
会 場	慶應義塾大学	開催日	8月27日（月）～29日（水）
統一論題：企業グループの管理会計			
	「異文化マネジメントと管理会計上の課題—純粋持株会社，日系海外子会社の事例研究から—」 塘 誠（成城大学）		
	「事業会社間の横断的な関係を促進するメカニズム」福田淳児（法政大学）		
	「気候変動に伴う企業グループの環境管理会計の展望」岡 照二（関西大学）		
	「グループ企業マネジメント—海外子会社のマネジメント手法の事例から—」 宮元万菜美（(株)情報通信総合研究所）		
特別講演：			
	「グラウンデッド・セオリーと QCA に基づいた製造業の価値共創と業績評価についての研究—ハイアールを事例として—」朱 衛東（中国安徽省合肥工業大学）		
スタディ・グループ中間報告：			
	「医療機関におけるマネジメント・システムの導入とその成果に関する研究」 研究代表者 伊藤和憲（専修大学）		
スタディ・グループ最終報告：			
	「サービス業における顧客マネジメント」研究代表者 青木章通（専修大学）		
	「地域中小製造企業の管理会計・原価計算活用実態解明と経営改善への接続に関する研究」 研究代表者 宮地晃輔（長崎県立大学）		
産学共同研究グループ中間報告：			
	「グローバル管理会計原則の可能性と展望に関する研究」研究代表者 浅田孝幸（立命館大学）		
シェアードサービスのセッション：			
	後藤アキ子（サントリービジネスシステム(株)）		
	牧 重徳（(株)セキスイビジネスアソシエイツ）		
	赤尾法彦（日本郵政スタッフ(株)）		

自由論題報告 36件

「アンバンドリングを通じた銀行業務集約化の方向性」 秋山 盛（早稲田大学院生）
「ROE は大きいほど良いのか？—立体ベクトル空間における利益変動モデルによる検討—」 佐藤清和（金沢大学）
「国の地方局 A における管理会計実践—人日管理（事務量マネジメント）の導入と職員の主観や認識を巡る観点から」 竹本隆亮（経営管理コンサルタント）
「地方公営企業のコスト・マネジメントに関する研究—公的組織の合併によるコスト・ビヘイビアの検証—」 細海昌一郎（首都大学東京）・長澤昇平（首都大学東京院生）
「監査の実務からみた不正のインセンティブ—経済学的アプローチによる—考察—」 小嶋甲子雄（(株)東京自働機械製作所）
「関係会社における不適切会計とガバナンス上の課題」 藤井敏央（青山学院大学院生）
「直販を利用する企業における全部原価計算と直接原価計算の最適性」 濱村純平（桃山学院大学）
「半導体製造装置企業における直接原価計算の有用性」 東壯一郎（関西学院大学研究員）
「同産業他社の利益目標が、企業における利益目標の設定に与える影響：経営者利益予想を用いた実証研究」 早川 翔（神戸大学院生）
「企業の決算月の相違がサンプリングされた財務データの同質性に与える影響」 福嶋誠宣（神戸大学院生・京阪アセットマネジメント(株)）
「利益調整の補足方法」 高橋良太（東京理科大学院生）・馮 玲（東京理科大学）
「企業のリスク情報の開示が将来業績へ与える影響」 吉田政之（神戸大学院生）
「長期的インセンティブにおける主観評価の役割」 小笠原亨（熊本学園大学）
「マネジャーに対する業績管理システムの影響：業績管理システムの運用方法，マネジャーの心理的エンパワメントに着目して」 鬼塚雄大（慶應義塾大学大学院）
「製造・流通事業における在庫目標設定 5 つの経営指標」 光國光七郎（早稲田大学）
「原価企画活動の総合評価」 田中雅康（広島都市学園大学）・福岡宣行（産業能率大学）
「ジャストインタイム生産方式の導入に伴うミニ・プロフィットセンター制の変化：X 社の事例に基づく考察」 岩澤佳太（慶應義塾大学院生）
「リーン会計の適用可能性に関する考察」 上田 巧（早稲田大学院生）
「ネットワーク工程表を用いた工事実行予算管理の研究」 菅本栄造（青山学院大学）
「非対称なコスト変動の発生要因：販管費明細をもちいた探索的分析」 佐久間智広（松山大学）・小笠原 亨（熊本学園大学）・早川 翔（神戸大学院生）
「企業の過剰生産が将来業績に対して与える影響」 早川 翔（神戸大学院生）・吉田政之（神戸大学院生）・小山真実（神戸大学院生）・安酸建二（近畿大学）
「企業戦略のタイプとコスト構造」 北田智久（近畿大学）・濱村純平（桃山学院大学）・新井康平（群馬大学）・安酸建二（近畿大学）
「IFRS 適用が販売費及び一般管理費の変動に与える影響」 井上謙仁（大阪市立大学）

「ISO26000 と GRI ガイドラインから捉える CSR と企業価値の関連性」 夏目翔平（東京理科大学院生）・馮 玲（東京理科大学）
「感情と会計—環境会計への拡張—」岡田華奈（新潟産業大学）
「マテリアルフローコスト会計（MFCA）の継続的適用を促進する取り組みにおける考察」 王 博（京都大学院生）
「SDGs を巡るマネジメントと統合報告」内山哲彦（千葉大学）
「中小企業のマネジメント・コントロール・システムの採用」牧野功樹（群馬大学院生）
「中小企業の管理会計を支援する会計事務所の月次決算サービス フィードフォワード主体の経営相談の可能性」山本宣明（LEC 東京リーガルマインド大学院大学）・横井隆志（LEC 東京リーガルマインド大学院大学）
「顧客志向の組織文化とマネジメント・コントロール—信条システムとインタラクティブ・コントロール・システムの関係性に着目して—」児玉麻衣子（明治大学院生）
「組織の構造的慣性をもたらす「マネジメント・コントロールの罣」についての探索的研究」 新改敬英（九州大学院生）
「日系海外子会社におけるコントロール・パッケージの分析」 松木智子（帝塚山大学）・島 吉伸（近畿大学）
「予算管理における管理可能性の認知と行動」町田遼太（早稲田大学院生）
「予算管理と方針管理の相互補完関係」桔梗美彩（明治大学院生）・豊崎仁美（日本学術振興会特別研究員・明治大学院生）
「部門別利益情報と非財務情報が予算設定に与える影響—公的病院事務長を対象とした質問紙実験—」黒木 淳（横浜市立大学）
「自治体病院経営者の自由裁量と管理会計の活用に関するインタビュー調査」 尻無濱芳崇（山形大学）

2019年度全国大会			
会 場	専修大学	開催日	8月27日（火）～29日（木）
統一論題：マネジメント・コントロールの展開と今日的課題			
	「製造業における管理会計実践と自律創造型コントロール」浅田拓史（大阪経済大学）		
	「サービス組織における価値共創プロセスとマネジメント・コントロール・システム」 青木章通（専修大学）		
	「「両利き経営」を実現するマネジメント・コントロールの要件」伊藤克容（成蹊大学）		
基調講演：			
	「コーポレートガバナンス・コードの制定とROE活用の是非」櫻井通晴（専修大学名誉教授）		
特別講演：			
	“Big data and Management Control” Chris Chapman (University of Bristol)		

スタディ・グループ中間報告：	
	「日本における管理会計技法・情報利用の変容に関する研究」 研究代表者 吉田栄介（慶應義塾大学）
スタディ・グループ最終報告：	
	「医療機関におけるマネジメント・システムの導入とその成果に関する研究」 研究代表者 伊藤和憲（専修大学）
産学共同研究グループ最終報告：	
	「グローバル管理会計原則の可能性と展望に関する研究」研究代表者 浅田孝幸（立命館大学）
自由論題報告 40件	
	「中小企業における管理会計の導入研究—アクション・リサーチの観点から—」 岩田弘尚（専修大学）
	「インタangibleズが企業価値に及ぼす影響—戦略とマネジメント・コントロールシステムに焦点を当てて—」梅田 充（専修大学）・関谷浩行（北海学園大学）・伊藤和憲（専修大学）
	「経営者の関与に着目したマネジメント・コントロール・システムの効果」 奥 倫陽（東京国際大学）
	「選定療養費の導入における患者受療動向の変化と病院経営への影響に関する一考察」 細海昌一郎（首都大学東京）・長澤瑞枝（首都大学東京院生）
	「バランスト・スコアカード導入の効果と課題：農業生産法人におけるケース・スタディー」 加藤惠吉（弘前大学）・小杉雅俊（弘前大学）
	「外部環境マネジメント・コントロール・システムの理論」安藤 崇（千葉商科大学）
	「社会的イノベーションにおける公式的コントロールツールの役割に関する事例研究」 李 燕（拓殖大学）・潜道文子（拓殖大学）
	「消費財製造事業会社における、意思決定のための製品別原価計算の実務利用について」 池側千絵（青山学院大学院生）
	「サブスクリプションによる顧客価値と企業収益性の共創的關係性」谷守正行（専修大学）
	「「システム」としてのマネジメント・コントロールに関する実証研究：予算管理システムの整合性の分析」妹尾剛好（中央大学）
	「プロフェッショナル組織のMCS」島 吉伸（近畿大学）
	「日本の中手造船企業による組織間管理会計の将来展開」宮地晃輔（長崎県立大学）
	「中小企業管理会計の発展段階モデル」本橋正美（明治大学）
	「予算制度の利用スタイルとその効果」榎谷奎太（高千穂大学）
	「相対評価における追加的なモニタリング」 小笠原 亨（熊本学園大学）・早川 翔（流通科学大学）・吉田政之（神戸大学院生）
	「補完生産者における管理会計の役割—ケース・スタディによる顧客価値提案の視点からの分析—」 田坂 公（福岡大学）・梅田 充（専修大学）

「日本の原価企画における見積原価計算システムの現状と課題」 田中雅康（広島都市学園大学）・福岡宣行（産業能率大学総合研究所）
「リスク情報開示における文書属性とリスク認識の決定要因」吉田政之（神戸大学院生）
「内部統制の制度的展開とコントロール論との相互浸透—歴史と比較の視点から—」 黒岩美翔（長崎県立大学）
「残余利益モデルの理論的拡張」佐藤清和（金沢大学）
「併用方式による企業価値評価の実証的検証」平井裕久（神奈川大学）・椎葉 淳（大阪大学）
「Tableau による財務分析ダッシュボードの構築」山本宣明（LEC 東京リーガルマインド大学）・横 井隆志（LEC 東京リーガルマインド大学）
「顧客関係の拡張とマネジメント・コントロール」井上慶太（成蹊大学）
「レベニューマネジメントによるホテル産業の生産性向上に関する一考察」吉岡 勉（東洋大学）
「管理会計システムの利用が企業の財務業績に与える影響」棚橋慶太（青山学院大学院生）
「製造業における管理会計・原価計算のコンフィギュレーション」町田遼太（早稲田大学）・上田 巧 （早稲田大学院生）・牧野功樹（大阪府立大学院生）・妹尾剛好（中央大学）・新井康平（大阪府立 大学）
「連結納税制度適用による利益調整の実証分析」 堀 好一（堀好一税理士・不動産鑑定士事務所）・辻 正雄（名古屋商科大学）
「金融資産の保有が資本収益性に及ぼす影響の分析」 辻 正雄（名古屋商科大学）・須藤時男（早稲田大学招聘研究員）
「国税庁広島国税局における管理会計実践について」竹本隆亮（税理士）・小林重道（税理士）・奥 迫仁則（税理士）・大西淳也（財務総研客員研究員）
「建設会社におけるオープンブック・マネジメント・システム：三和建設(株)の事例に基づいたモデ ルケースの研究」菅本栄造（青山学院大学）
「現場改善効果の類型化：会計的視点からの考察」 柘 紫乃（愛知工業大学）・上總康行（京都大学名誉教授）
「製品開発プロジェクトの実行段階での予算管理」中村正伸（香川大学）
「我が国における戦略管理会計の研究動向」根本萌希（日本大学大学院生）
「マネジメント・コントロール研究における時間概念への着目」 新江 孝（日本大学）・伊藤克容（成蹊大学）
「水道事業コンセッションの問題」梅田 宙（高崎経済大学）
「ビジネスシステムとしての管理会計—管理会計実務の光と陰」加登 豊（同志社大学）
「中国の自然資本会計導入に伴い真の経済付加価値（TRUEVA）への期待と展望」 仲 伯維（明治大学会計専門職研究科）
「日本と台湾における不正会計に対する株式市場の反応」 海老原佑（東京理科大学院生）・馮 玲（東京理科大学）

「日本と南アフリカ共和国における統合報告書の現状と課題」 関口将広（東京理科大学院生）・馮 玲（東京理科大学）
「報告論題：統合報告書の管理会計的側面についての考察—メガバンクでの取り組みからみた組織内効果—」秋山 盛（東京経営短期大学）

2020年度全国大会			
会 場	名古屋商科大学大学院	開催日	8月27日（木）～29日（土）
統一論題：エビデンス・ベースト（Evidence based）管理会計研究を目指して			
	「管理会計研究のエビデンス・レベル（evidence level）」新井康平（大阪府立大学）		
	「エビデンス・ベーストな研究と理論による予測」濱村純平（桃山学院大学）		
	「エビデンス・ベーストな研究の実務に対する有用性」 福嶋誠宣（京阪アセットマネジメント株式会社）		
基調講演：			
	“Causality in Management Accounting Research” Jason D. Schloetzer (William and Karen Sonneborn Term Associate Professorships, Georgetown University)		
スタディ・グループ中間報告：			
	「原価企画の今日的課題と対応に関する研究」研究代表者 諸藤裕美（立教大学）		
スタディ・グループ最終報告：			
	「日本における管理会計技法・情報利用の変容に関する研究」 研究代表者 吉田栄介（慶應義塾大学）		
特別企画：企業のオペレーションにおける黄色信号			
	講演者： 荻野好正（XIB キャピタルパートナーズ(株)シニアアドバイザー・曙ブレーキ工業(株)前副社長）		
	討議者 伊藤和憲（専修大学）		
	討議者 加登 豊（同志社大学）		
自由論題報告 40件			
	「原価企画におけるライフサイクル直接原価の計算の必要性について」 中島道靖（関西大学）・田中雅康（東京理科大学）		
	「原価企画目標の達成度の測定・評価～日本の主要企業の現状と課題～」 田中雅康（東京理科大学）・福岡宣行（産業能率大学）		
	「製作委員会方式における原価管理—日本のアニメーション制作の事例—」 吉見明希（北海道情報大学）		
	「標準原価計算の原価管理への現代的意義—YKKの事例研究—」 田坂 公（福岡大学）・李 会爽（福岡大学）		

「イノベーション戦略とマネジメント・コントロールの有効性」 窪田祐一（南山大学）・劉 美玲（鹿児島大学）・三矢 裕（神戸大学）
「DDPによる経営実践：仮説志向のマネジメント・コントロール」 伊藤克容（成蹊大学）・新江 孝（日本大学）
「マーケティング変数と財務業績の関係」松岡孝介（東北学院大学）・石井宏宗（(株)エスシーツー）・川口あすみ（(株)エスシーツー）
「顧客関係性に基づく収益管理の事例研究」 白須 彬（キッコーマン(株)）・坂上 学（法政大学）・平井裕久（神奈川大学）
「地方政府における予算調整とその要因に関する実証分析」黒木 淳（横浜市立大学）
「EBPMと行政管会計との接続についての考察」大西淳也（財務省財務総合政策研究所）
「公共サービスにおける原価企画活用領域の考察」関 洋平（亜細亜大学）
「サービタイゼーションにおけるサービス・パラドックス問題に関する検討」浅石梨沙（一橋大学）
「日本企業の管会計担当者の現状と課題～外資系企業子会社のFP&Aとの比較を通して～」池側千絵（青山学院大学院生）
「組織間管会計における知識の獲得と活用」井上慶太（成蹊大学）
「買収におけるのれんとシナジーの関係」島崎杉雄（国士舘大学）
「買収実施企業の資金調達能力と財務戦略が買収成果に与える影響」 村上暢子（PwCコンサルティング合同会社）・山田雄二（筑波大学）
「不確実性の高いプロジェクトにおける管会計の役割について—アジャイル方式のゲーム開発プロジェクトにおける考察を通して—」坂手啓介（大阪商業大学）
「借入依存度からみた経済性評価技法の多様性」清水信匡（早稲田大学）
「J-REIT（不動産投資信託）の事業特性とコストコントロール」棚橋慶太（青山学院大学）
「わが国企業のABC/ABM導入の実態と展望～他の管会計手法との関係を中心に～」 上東正和（富山大学）
「隠れたリアル・オプションの研究—文献レビューによる統合の試み—」小菅貴行（大阪府立大学）
「BSCと他のMASとの連携—株式会社亀山電機の事例から—」商 哲（一橋大学）
「管会計技法としてのBSCの生成発展と今日的課題—企業を取り巻く環境の変化とそれに相応する管会計の視点から—」中村雄貴（大東文化大学）・松尾敏充（大東文化大学）
「予算参加と業績報告行動：心理要因に焦点を当てたオンライン実験研究」 澤田雄介（同志社大学）・田口聡志（同志社大学）
「CSR経営におけるステイクホルダー・エンゲージメントの事例研究」楚 雪（名城大学）
「責任会計における管理可能性原則とその適用—文献レビューによる検討—」 町田遼太（早稲田大学）
「管会計のレゾンデートル」加登 豊（同志社大学）
「親子間事業承継における後継者の能力蓄積に管会計が与える影響」

浅石梨沙（一橋大学）・近藤大輔（立正大学）・黒木 淳（横浜市立大学）
「事業承継と管理会計の研究～六甲バター株式会社の事業承継におけるアメーバ経営～」 近藤大輔（立正大学）・浅石梨沙（一橋大学）・黒木 淳（横浜市立大学）
「サーベイを用いた日本の管理会計研究の実態—2005-2019 の文献分析—」三浦紘嵩（早稲田大学）・ 荻原啓佑（早稲田大学）・大西智之（早稲田大学）・町田遼太（早稲田大学）・清水 孝（早稲田大 学）
“Detecting Inappropriate Accounting: Evidence from Japan” 安 珠希（九州産業大学）
“Does debt intensity have an impact on cost behavior? Evidence from Japan” 加藤大智（神戸大 学）・早川 翔（流通科学大学）・濱村純平（桃山学院大学）
“Optimal Contracts with Earnings Management and Internal Control” 安 珠希（九州産業大学）
「日本企業におけるコストマネジメントの変容：過去 10 年間の経時的調査に基づく考察」 岩澤佳太（慶應義塾大学）・榎谷奎太（高千穂大学）・吉田栄介（慶應義塾大学）
「中小企業における管理会計および投資意思決定システムの実態調査」 牧野功樹（大阪府立大学）
「高額所得者の危険選好に関する研究～プライベートバンクにおける危険資産比率とリスク許容度 についての実証分析」 藤井正敏（三菱 UFJ モルガン・スタンレーPB 証券(株)）・細海昌一郎（東京都立大学）
「R&D におけるコストの下方硬直性が企業業績に与える影響」 戈 功業（東京都立大学）・細海昌一郎（東京都立大学）
「日本における原価企画研究の文献分析」 荻原啓佑（早稲田大学）
「情報の表現方法が、意思決定に与える影響～認知適合理論を中心とした文献レビュー～」 榎下伸一郎（大阪府立大学）
「連結納税制度改正が企業の利益調整行動に与える影響」 堀 好一（堀好一税理士・不動産鑑定士事務所）・辻 正雄（名古屋商科大学）



2011 年度全国大会の様子（関西大学）



2011 年度全国大会の様子（関西大学）



2012 年度全国大会の様子（国士館大学）



2014 年度全国大会の様子（青山学院大学）



2016 年度全国大会の様子（明治大学）



2017 年度全国大会の様子（福岡大学）



2019 年度全国大会の様子（専修大学）

3 学会誌

学会誌『管理会計学』は、全国大会とならぶ日本管理会計学会（以後、JAMA と略称）の主要活動である。『管理会計学』は、管理会計およびその関連領域における理論ならびに方法の発展・普及のために、会員の独創的な研究ならびに実践の場における技術成果を公表するものである。1992年に発行された第1巻第1号から数えて、現在までに56冊が公開されている（supplement 2冊を含む）。

『管理会計学』は、当初から二重匿名査読制を採用し、以後の会計学領域における各学会における査読制の導入に大きな影響を与えるとともに、管理会計領域における査読付き学会誌として高い評価を受けている。

以前、『管理会計学』は実証研究の論文に偏っていた時代があったが、近年は、仮説検証型の実証研究だけでなく、ケース研究や理論研究を含め、多様な研究アプローチに基づく論文が査読を経て受理され、掲載されている。

1992年 第1巻 第1号	
論文：	
	Susumu Sato, "Manufacturing Cost System in Computerizational Society"
	金川一夫・羽藤憲一・管 錦吾「コンピュータによる経営診断システムの設計—エキスパート・システムのプロトタイプの開発—」
	Takeo Yoshikawa, John Innes and Falconer Mitchell, "Activity Based Cost Information: Its Role in Cost Management"
	田中雅康「原価企画における原価目標の設定と細分化」
事例研究：	
	谷 和久・三重野浩「キリンビールにおける責任会計システムの展開—MRSの導入について—」
	浮田萌男「建設業におけるコンピュータ管理会計システム—個別工事情報システムを中心に—」

1993年 第2巻 第1号	
論文：	
	枇々木規雄・福川忠昭「多期間 ALM モデルによる銀行のリスク管理」
	門田安弘・星 法子「新規事業進出に関する意思決定支援会計システム」
	伏見多美雄・野々村智範 「各期の稼得収益が均等でない戦略的投資計画の感度分析—グラフによる分析を中心に—」
研究ノート：	
	枇々木規雄・福川忠昭「多期間 ALM モデルの数値実験による考察」

三川洋幸「セールス・マネジメントのための情報戦略」
特集：
松川修一「グローバル企業に耐えるための基本的管理思考」
大川邦彦「海外進出企業の現在直面する税務上の問題」
芝 章「海外企業進出と管理会計—実践的アプローチ—」

1993年 第2巻 第2号
論文：
浜田和樹「不確実性下の利益計画モデルとC-V-P分析—確率制約条件計画法の利用—」
伏見多美雄・横田絵理「事業部制マネジメント・コントロールにおける日本の特質—フィールド・スタディを基礎にして—」
枇々木規雄・福川忠昭「銀行のリスク管理のための多目標単純リコース確率計画ALMモデル」
佃 純誠・阿部雅之・福川忠昭「設備と人員とに関する方策と設備投資の経済成果」
研究ノート：
枇々木規雄・福川忠昭「多目標単純リコース確率計画ALMモデルの数値実験による考察」
事例研究：
伏見多美雄・横田絵理「S化学の事業部制マネジメント・コントロールと管理会計」
研究資料：
金川一夫・羽藤憲一・菅 錦吾「コンピュータによる経営診断システムの設計—改善点表示の方法について—」

1994年 第3巻 第1号
論壇：
西澤 脩「リストラ時代の物流コストの管理」
論文：
John Innes and Pierre Mévellec, "ABC: A Franco-British Intra-Group Comparison"
羽藤憲一・金川一夫・弘津真澄「企業組織の業績評価における階層的意思決定法の有効性に関する研究」
事例研究：
渡辺康夫「NTTの事業部制マネジメント・コントロール・システム」
特別記事：
(CIMA 会長記念講演) Douglas McRac, "The Nature and Development of the Chartered Institute of Management Accountants (UK): The Birth and Growth of a Professional Institute"
吉川武男「記念講演抄訳：英国管理会計士協会の特徴と発展—職業管理会計士協会としての系譜

一]

1995年 第3巻 第2号

論文：	
	金澤雄一郎・門田安弘「原価企画における目標販売価格の決定方法」
	山下裕企「全部原価計算の下での損益分岐分析への租税関数と目標達成領域分析の導入」
	西澤 茂「オプション取引の測定と管理」
	佐藤紘光・齋藤正章「情報非対称と情報伝達の価値」

1996年 第4巻 第1号

論文：	
	丸山義博「経済性の観点からみた君子蘭の生産計画について」
	今林正明「補助部門で相互に用役授受が無い場合の変動製造間接費差異分析について」
事例研究：	
	伏見多美雄・末松栄一郎「高シェア・高収益戦略とコスト・マネジメント—S社のフィールド・スタディー」
	金 舜基・李 健泳・金 達坤「韓国企業の部門別活動基準原価計算の導入事例：亜南産業(株)」
経営フォーラム：	
	林 逸子「航空会社の事業環境と収益構造の変化」

1996年 第4巻 第2号

論文：	
	Masaaki Aoki, "Common Cost Allocations and Game Theory : A New Approach"
	村田真理「総合原価計算における非度外視法の研究—仕損じおよび減損が一定点で発生する場合—」
経営フォーラム：	
	西澤 脩「実態調査から見た管理会計理論と実務の乖離」
	井原豊昭「事業のグローバル化と事業部業績評価制度」

1997年 第5巻 第1号

論壇：	
	伏見多美雄「事業部制マネジメント・コントロールにおける”日本型”の研究—マネジメント・コントロールの理論仮説を整理するためのノート—」
論文：	
	山下裕企「設備投資案評価のための実効税率に関する研究」
	丸山義博「植物を生産品目とした最適生産計画—鉢花の生産について—」

研究ノート：	
	三田洋幸「被買収企業の存続期間を考慮した買収価値の評価」

1997年 第5巻 第2号	
論文：	
	伏見多美雄「<特集>業績評価”について：編集委員長あいさつ」
	Lin Fitzgerald and Philip Moon, “The Influence of Service Process on Performance Measurement”
	Nathalie Halgand, “Performance Measurement in the French Public Services: New Public Management and Republican Centralism”
	Takeo Yoshikawa, John Innes and Falconer Mitchell, “Performance Measurement for Cost Management: The Nature and Role of Kousuu”
事例研究：	
	長坂悦敬「ITによる製造間接部門のコスト低減活動：産業機械メーカー「コマツ」の事例」

1998年 第6巻 第1号	
論壇：	
	西澤 脩「私の学際的管理会計研究」
論文：	
	三田洋幸「半導体ビジネスの収益構造と採算管理システム—DRAMなどの半導体汎用製品を中心として—」
事例研究：	
	竹内祐二「大手スーパーの構造変革とマネジメント・システムの再構築」
	丸山義博「鉢花生産における棚面積と灌水作業の省力化を考慮した最適な温室サイズの決定に関する一考察」

1998年 第6巻 第2号	
論文：	
	佐藤康男・森 淳「管理会計情報システムにおけるデータウェアハウスの適用可能性—予算管理情報システムの問題と可能性—」
	Yasuo Kusaka, “Product Development Using Cost-Performance Curve”
	片岡洋一・片岡洋人「個別原価計算への非度外視法の適用」
	佐山展生・長島輝幸「店頭公開が企業の収益性におよぼす影響の分析」
	李 健泳「新しい製造環境における標準原価管理の実証分析」

1999年 第7巻 第1・2号

論文：

- 樫尾 博・小倉 昇「公益事業の負荷平準化による利益管理—規制緩和後の電力産業への非協カゲームの適用—」
- 山川恵一「レバレッジド・リース取引の測定方法について—FASB No.13の4方法に関連して—」
- 後藤晃範「損益分岐分析の離散型動的モデルへの拡張」
- 鈴木浩三「日本における企業間関係の構築によるコスト低減戦略」
- 三田洋幸「取引業者の最適所要量管理とサプライチェーンの全体最適に関する一考察」
- 後藤晃範「在庫問題を考慮した多重単位期間最適製品ミックス決定による短期予算設定」

総合報告：

- 木村幾也「グループ企業における経営組織と管理会計情報—事業部制企業からグループ企業へ—」

2000年 第8巻 第1・2号

論文：

- 秋庭雅夫「生産性測定に関する一考察」
- 佐藤紘光「企業の投資行動と業績評価」
- 浜田和樹「非財務的尺度と財務的尺度の総合—総合的マネジメントと管理会計—」
- 横田絵理「業績測定・評価と報酬システム—日本企業における成果主義への動きについての—一考察—」
- 挽 文子「グループ経営と管理会計：欧米企業の事例を中心として」
- 徐 賢珍「韓国企業における物流費管理の実態」
- 山川恵一「わが国法人中小企業の会計情報システムに関する実証的研究」
- 李 超雄・門田安弘「原価企画におけるサプライヤー関係が原価低減に及ぼす効果に関する実証的研究」
- 鈴木孝則「モニタリングによる動機付け」

総合報告：

- 八重倉孝「業績指標と株価—キャッシュ・フロー，EVA™，および Ohlson モデル—」
- 池川和明「キャッシュフロー重視の経営」

2000年 第9巻 第1号

論文：

- 三田洋幸「カテゴリー・マネジメントの収益性管理—小売店における陳列在庫管理を支援する収益性管理モデルの構築—」
- 朴 元熙・伊藤和憲「原価企画活動を支援する管理工学ツールの有効性」
- 浦田隆広「アメリカ複写機巨大企業における品質原価計算の展開」

鈴木孝則「動機付けにおけるモニタリング技術の意義」
安藤武真「複合型情報システムにおける情報システム・コストの管理」
鈴木浩三「アライアンス戦略が財務業績に及ぼす効果についての研究—アライアンス・コスト低減・市場環境・財務状況の相互関係—」
力石雅樹「売上高差異を数理的に二分する方法」

2001年 第9巻 第2号

論文：	
星 法子「事業部長の利益業績評価指標と企業の資本利用効率との関係」	
持本志行「原価企画と品質展開の理論」	
原田雅顕，田中雅康，小林功二「顧客評価に基づく新製品の需要関数の推定法」	
山田恵一「セール・アンド・リースバック取引の測定方法について」	
研究ノート：	
山北晴雄「継続的改善とキャパシティ・マネジメント—Maguire and Heath による最適なキャパシティの利用について—」	
経営フォーラム：	
門田安弘「パリ第9大学ブッカン教授と日仏米の管理会計を論ずる—管理会計の国際比較の一駒—」	

2001年 第10巻 第1号

論壇：	
古田 寛「市場環境対応型会計モデルの形成」	
論文：	
Masaaki Harada and Masayasu Tanaka, "A Study on Customer-Oriented Strategic Pricing By Utilizing Compound Effect of Functions"	
片岡洋人「製造間接費研究の動向」	
吉田栄介「原価企画活動を支援する組織能力—質問票調査による基礎分析—」	
塘 誠・浅田孝幸「財務管理の集中化と責任会計—日本の多国籍企業に対するアンケート調査を中心として—」	
総合報告：	
Naoyuki Kaneda, "Properties of Research and Development Costing under GAAP and International Accounting Standards"	

2001年 第10巻 第2号

論壇：	
Stephan H. Penman, "Tying Valuation to Performance with Financial Analysis"	

論文：	
	水島多美也「タイムコスト概念の定義と測定」
	山川恵一「レバレッジド・リース取引測定フレームワーク」
	山下裕企「投資案評価のための実効税率と外国税額控除」

2003年 第11巻 第1号	
論文：	
	陸 根孝「集団成熟度と組織能力が原価企画成果に及ぼす影響についての実証研究」
	高見茂雄「投資意思決定におけるリスク把握と測定方法」
	Masayuki Ueeda and Hiroji Takao, "Voluntary Disclosure with or without an Antifraud Rule : An Experimental Study"
	木村史彦「経営者の近視眼的投資行動と企業のガバナンス構造—研究開発投資水準の決定をめぐって—」
	椎葉 淳「費用削減投資と指令振替価格」

2003年 第11巻 第2号	
論壇：	
	岡田依里「知的資産と企業の内部改革」
	猿山義広「ブランド価値に基づく広告費予算の設定」
	佐山展生「M&A（企業買収・合併）と企業価値—企業とインタンジブルズ価値の評価—」
	西村優子「研究開発投資と企業価値—コスト・ベネフィット分析の視点から—」
論文：	
	堀井悟志「マネジメント・コントロール論の変化と戦略管理会計論」

2003年 第12巻 第1号	
論文：	
	井尻雄士・金田直之「収益会計の拡張：マルコフ過程と動的計画法の応用」
	朴 景淑・浅田孝幸「企業規模と予算管理システムとの関連性に関する研究—2001年の日本企業におけるアンケート調査結果に基づいて—」
論壇：	
	田中雅康「社債格付けの決定要因に関する研究」
	上總康行「資本コストを考慮した回収期間法：割引回収期間法と割増回収期間法」
研究ノート：	
	竹内祐二「CVSチェーンの収益構造とマネジメント・システム—シュミレーションモデルによる分析—」

2004年 第12巻 第2号

論壇：

廣本敏郎「戦略的管理会計論—伝統的管理会計論との対比—」

丸田起大「戦略経営と管理会計—フィードフォワード・コントロールの視点から—」

加登 豊「管理会計による競争優位性の獲得と維持」

浜田和樹「企業価値モデルと目標・施策展開—特にステークホルダー間の利害調整を重視した適用について—」

論文：

片岡洋人「ABCの基礎的構造と意思決定」

2004年 第13巻 第1・2号

論文：

Vitoon Puripunyanich, Satoshi Myojo and Yuichiro Kanazawa, “Estimating the maintenance and repair cost in Life Cycle Cost calculation—A case of automobile ownership in the U.S.—”

緒方 勇「株価を基礎としたブランド価値評価モデルの実証研究」

大鹿智基「新規公開株式の株価と企業価値—IPO バブルと初値の妥当性—」

論壇：

横田絵理「日本企業の業績評価システムに影響を与えるコンテキストについての一考察」

星野優太「日本企業における業績評価と報酬制度—成果主義の検証—」

梶原武久「日本企業における主観的業績評価の役割と特質」

特別講演録：

陳 信元「中国証券市場の発展および会計制度の改革」

2005年 第14巻 第1号

論壇：

小泉友香「工程にわたって減損が生じるケースの総合原価計算モデル」

安酸建二「Value-Based Management の観点からの業績指標の考察—実証研究のレビュー—」

緒方 勇「日本の製造業企業の広告宣伝投資と研究開発投資が無形資産形成に与える効果の時系列分析」

事例研究：

井尾里香・浅田孝幸「環境配慮型製品開発を促進させる戦略的マネジメント・コントロールに関する研究」

Supplement 1 (2006)	
Invited Articles :	
	James A. Ohlson, "Accounting Based Valuation Formulae"
Articles :	
	Masao Okuhara, Masayasu Tanaka and Hirao Hirose, "A New Evaluation Method of Interaction Effects Using Compound Added Functions and the Analysis on its Relationship to the Attributes of Potential Customers"
	Toyohiko Hachiya and Pablo Gonzalo Ramirez, "Integrated Management Control System for Small and Medium Sized Enterprises"
	Isamu Ogata and Yoshihiko Tsukuda, "Effects of Advertising and R&D on the Intangible Assets for the Japanese Manufacturing Firms: A Panel Data Analysis"
	Gilles Hilary and Tomoki Oshika, "Shareholder Activism with Weak Corporate Governance: Social Pressure, Private Cost and Organized Crime"
	Chien-min Kevin Pan, "Operating Performance of Japanese Firms with Large Cash Holdings during the Bubble Economy"

2006年 第14巻 第2号	
論文 :	
	高見茂雄「財務内容の改善が設備投資行動に与える影響」
	平井裕久・椎葉 淳「販売費および一般管理費のコスト・ビヘイビア」
論壇 :	
	伊藤克容「戦略実行のマネジメント・システムとしての管理会計の再検討—経営戦略論の多様化にともなう管理会計研究の深化と拡張—」
	南雲岳彦「戦略管理とエンタープライズ・リスク管理の統合アプローチ—BSC と COSOERM の統合フレームワークの検討—」
	林 昌芳「シャープグループの戦略実行と戦略目標のカスケード」
	伊藤嘉博「戦略マネジメントシステムとしてのバランスト・スコアカードの現状と展望」

2006年 第15巻 第1号	
論文 :	
	朴 元熙「原価企画活動を支援するデータベースに関する研究」
	海老原崇「利益の質と発生項目アノマリー」
	河路武志「個人情報漏洩事件に対する株式市場の反応」
	野坂和夫「退職給付会計における割引率の会計方針選択行動—裁量的選択行動, 横並び選択行動および水準適正化選択行動—」

2007年 第15巻 第2号

論壇：

上總康行「京セラの大家族主義経営と管理会計—アメーバ経営と時間当たり採算—」

浅田孝幸「日本型ホールディングス（純粹持株会社制）への管理会計の貢献可能性—わが国管理会計研究の研究方向—」

論文：

榎本正博「減損会計基準の適用における利益マネジメント—早期適用企業を用いた実証分析—」

鈴木孝則「動機付けにおける自己申告の意義」

鈴木浩三・小倉 昇「M&Aと提携が財務業績に及ぼす影響—コスト低減の視点を交えた企業間関係の効果測定—」

衣笠陽子「医療機関の赤字経営とその意味—独立行政法人国立病院機構の分析を通して—」

山本宜明「我が国大規模病院の業績評価システムと自律性に関する実証分析」

2008年 第16巻 第1号

論文：

加登 豊・大浦啓輔・新井康平「わが国管理会計研究におけるサーベイ研究の特徴と諸問題」

安酸建二「経済的利益の経営管理上の有用性—価値創造額の測定をめぐる考察—」

Hiroki Yamashita and Kazuhisa Otagawa, "Do Japanese Firms Manage Earnings in Response to Tax Rate Reductions in the Late 1990s?"

荒井 耕「現行診療報酬制度における検査種類区分の妥当性の検証—検査サービス単位の同質性確保の必要性—」

2008年 第16巻 第2号

論文：

松尾貴巳・大浦啓輔・新井康平「管理会計システムの導入がもたらす組織変革プロセスの研究—（株）飯田におけるABC導入の質的研究—」

尾崎昭雄・斎 寿明「日本企業のマネジメント・コントロールにおける心理的契約の役割—経験的研究—」

論壇：

尾崎昭雄・斎 寿明「多様性を活かすマネジメントスタイル—第一三共の経営統合を事例として—」

高橋邦丸「買収対価の支払手段と利益調整」

蜂谷豊彦・山本 修「買収防衛策とコーポレート・ガバナンス—M&Aのもうひとつの役割—」

2008年 第17巻 第1号

論文：

潘 健民「日本企業の実質活動による報告利益管理」

荒井 耕「実際消費資源額と技術力評価額の一致度と政府による価格設定—経済合理思考と専門職評価思考のバランス—」

丹生谷晋「分権型組織における業績評価システムに関する実証研究」

小泉友香「顧客別収益性測定モデル—活動基準原価計算アプローチ—」

2009年 第17巻 第2号

論文：

山本達司「株式所有構造と利益マネジメント」

論壇：

原田 昇「インタンジブルズ(intangibles)と管理会計」

青木茂男「企業価値が意味するもの」

山本達司「市場の非効率性と TOB 戦略—日本における理論とケース—」

古賀健太郎「無形資産に関する米国の視点と日本での応用可能性」

2009年 第18巻 第1号

論文：

安酸建二「コスト変動を通じて利益変動に影響を与える要因としての売上高予測の重要性に関する実証研究—コストの下方硬直性がもたらす利益への影響—」

大沼宏・鈴木健嗣・山下裕企「会計利益と課税所得の情報内容の変化」

山田方敏・蜂谷豊彦「内部資本市場の効率性から見た M&A のパフォーマンス」

新井康平・加登 豊・坂口順也・田中政旭「製品原価計算の設計原理：探索的研究」

浅田拓史「管理会計の変化と進化的アプローチ—株式会社村田製作所における管理会計技法の進化—」

2010年 第18巻 第2号

論文：

稲葉喜子「ゴーイング・コンサーン情報と企業の再生行動」

市川朋治・蜂谷豊彦「裁量的投資の企業競争優位に与える影響」

論壇：

櫻井通晴「インタンジブルズとレピュテーション・マネジメント」

伊藤嘉博「CSR 活動の経済性評価—マテリアルフローコスト会計革新の可能性—」

岩田弘尚「コーポレート・レピュテーションの測定とマネジメント」

馬渡一浩「ブランド・マネジメント—レピュテーション・マネジメントとの関係において—」
--

2011年 第19巻 第1号

論文：	
	中井誠司「経営者予想がアナリスト予想に与える影響」
	丹生谷晋「グループ本社の役割・機能とマネジメント能力」
	呉 重和「報酬契約における非財務指標の役割」
	山口朋泰「実体的裁量行動の要因に関する実証分析」

2011年 第19巻 第2号

論文：	
	新井康平・大浦啓輔・岡崎路易・三矢 裕「経理シェアードサービスの導入成果—経験的な検証—」
論壇：	
	原田 昇「統一論題「コントロール機能としての管理会計」開題」
	鈴木孝則「内部統制報告制度における情報システムの意義」
	椎葉 淳「比較会計制度分析—コントロール機能の一つの分析視角—」
	関口善昭「ブッカンのコントロール論のフレームワークと最新 SAP システム」
	大下丈平「ガバナンス・コントロールの理念と方法—内部統制論議を手掛りとして—」

2012年 第20巻 第1号

論文：	
	安酸建二・緒方 勇「利益調整行動と利益目標の達成圧力—期中における利益調整手段としての R&D 費用削減に関する実証研究—」
	大越教雄「買収防衛策導入企業のガバナンスと株式市場の評価」
	福島一矩「マネジメント・コントロールによるイノベーションの創出—質問票調査に基づく探索的研究—」
	渡邊直人「バランスト・スコアカードによるコントロール機能が財務意識および非財務意識に与える効果」
研究ノート：	
	福田正彦「ブランドマネジメントについての企業意識調査」

2012年 第20巻 第2号

論文：	
	衣笠陽子「病院経営における管理会計の機能—病院予算を中軸とした総合管理—」
	山田哲弘「報告利益と課税所得の関係が利益調整行動に与える影響」

山田方敏, 蜂谷豊彦「多角化企業の投資決定と内部資本市場の効率性」
梅田浩二「日系多国籍企業の国際振替価格管理に関する実態調査」
研究ノート :
福嶋誠宣「コントロール・パッケージ概念の検討」
論壇 :
小倉 昇「管理会計研究の現状と課題」
伊藤和憲「バランスト・スコアカードの現状と課題：インタンジブルズの管理」
窪田祐一「組織間コストマネジメント研究の展開」
藤野雅史「行政経営改革は管理会計研究に何をもたらしたのか」

Supplement 2 (2013)
Articles :
Ella Mae Matsumura and Jae Yong Shin, "Relative Performance Evaluation: A Review of Managerial Accounting Research"
Kenji Yasukata, "Management Forecasts of Costs: Do Managers Accurately Estimate Costs?"
Takashi Ebihara and Ahamed Roshan Ajward, "Do Outside Directors and Their Financial Expertise Matter in Earnings Quality?"
Michiko Ogaku, "Would Shareholders in Firms with Japanese Governance Mechanisms Benefit from the Use of Annual Incentive Plans?"
Tomoki Oshika, Shoji Oka and Chika Saka, "Connecting the Environmental Activities of Firms with the Return on Carbon(ROC): Mapping and Empirically Testing a Carbon Sustainability Balanced Scorecard(SBSC)"
Kentaro Koga, Linda A. Myers, and Thomas C. Omer, "Bank-Firm Relationships and Accounting Conservatism: Evidence from Japan"
Yuta Hoshino, "Strategy Goals, Financial and Nonfinancial Measures, and Performance Evaluation in Japanese Manufacturing Companies"
Hideki Okumoto, "Characteristics of Industry Structure and Problems with the Bidding and Contracting System in Japan's Rural Construction Industry Companies"

2013年 第21巻 第1号
論壇 :
山本達司「管理会計研究と方法論」
渡邊章好「管理会計における分析的手法の意図と貢献」
木村史彦「管理会計研究における実証研究の特徴と課題—アーカイバルデータを用いた実証研究に焦点を当てて—」

田口聡志「管理会計における実験研究の位置付けを巡って」
木村彰吾「管理会計研究における質的研究方法論の意義」

2013年 第21巻 第2号

論文：
福嶋誠宣・米満洋己・新井康平・梶原武久「経営計画が企業業績に与える影響」
長澤賢一・伊藤彰敏「無形資産投資が企業の利益調整行動に与える影響に関する分析—研究開発投資の観点からの分析—」
浅田拓史・吉川晃史・上總康行「日本電産株式会社の経営改革と管理会計—知識創造理論の視点から—」
北尾信夫「わが国企業の投資意思決定におけるオプション価値評価行動」

2014年 第22巻 第1号

論文：
鈴木研一・松岡孝介「従業員満足度，顧客満足度，財務業績の関係—ホスピタリティ産業における検証—」
小泉友香「「期首仕掛品から減損が生じない」という仮定にもとづく総合原価計算の研究」
潘 健民「報告利益管理の観点から見る日本企業の時価会計への対応」
篠田朝也「洗練された資本予算実務と企業業績の関連性」
福田正彦「ブランドが企業業績におよぼす影響に関する実証研究」

2014年 第22巻 第2号

論壇：
澤邊紀生「「管理会計の理論」構築におけるアクション・リサーチの意義」
松尾貴巳「管理会計研究におけるアクションリサーチの意義と課題」
岡田幸彦「管理会計と「前向き」の実証研究に関する一考察」
下垣 彰「企業への適用を通じた MFCA の進化の研究」

2015年 第23巻 第1号

論文：
片岡洋人・平井裕久「先入先出法による累加法の検討」
木村史彦「事業内容と利益マネジメント—利益マネジメントの業種間比較を通じて—」
乙政佐吉・近藤隆史「顧客満足向上を通じた財務成果獲得のためのマネジメントに関する研究—星野リゾートの事例を通じて—」
堀井悟志「予算管理とイノベーションの創出」

西居 豪「内部統制が戦略的業績評価システムに及ぼす影響」

2015年 第23巻 第2号

論壇：	
	大下丈平「環境、社会およびガバナンスに対して管理会計はどう向き合うか」
	宮地晃輔「地域造船企業の再興のための原価企画の活用に関する研究—A 社造船所の事例を通じて—」
	今井範行「デュアルモード管理会計と資本市場—利益管理の短期化に関する—考察—」
	内山哲彦「企業の社会性・人間性と企業価値創造—統合報告と管理会計の役割—」

2016年 第24巻 第1号

論文：	
	安酸建二「経営者利益予想に見られるラチェット効果と予想誤差への影響—管理会計からのアプローチ—」
	佐久間智広「マネジャーの個人差が意思決定・業績に与える影響—株式会社ドンクの店舗データを用いた定量的検証—」
	北田智久「日本企業におけるコストの反下方硬直性」
	福田正彦「広告宣伝費がブランド価値に与える影響についての実証研究」

2016年 第24巻 第2号

論壇：	
	片岡洋人「コスト・ビヘイビアと原価計算」
	椎葉 淳「コスト構造と企業リスク—近年の理論・実証研究からの示唆—」
	梶原武久「コスト・ビヘイビアとコスト・マネジメント行動—コスト・マネジメント行動の概念モデル—」
	新井康平「管理会計における階層線形モデル(HLM)の有用性の探究—文献レビューによる検討—」

2017年 第25巻 第1号

論文：	
	福島一矩「管理会計による急進的イノベーションの促進—管理会計能力に基づく考察—」
	山口直也「メタ組織におけるマネジメント・コントロール—京都試作ネットの分析—」
	吉井貴充「研究開発投資の会計処理に関する—考察—」
	森 浩気「組織ライフサイクル後期の企業におけるインタラクティブ・コントロールの役割」

2017年 第25巻 第2号

論壇：

辻 正雄「管理会計における外延の拡充と内包の深化」

青木章通「サービス組織におけるマネジメント・コントロールの新展開」

堀井悟志「管理会計の常識的知識への接近」

前田 陽「管理会計における MM ループの意義と課題」

2018年 第26巻 第1号

論文：

西居 豪「距離が業績管理に及ぼす影響」

山口貴史「経営者の開示戦略が投資家の情報獲得行動および企業価値に与える影響」

天王寺谷達将「イノベーションと管理会計研究の今後の方向性—Robert Simons の理論面での貢献の考察を足掛かりとして—」

若林利明「組織コントロールにおけるインプット目標の設定と申告の意義」

谷守正行「銀行アカウントフィーに関する管理会計研究—サブスクリプションモデルの適用可能性—」

森 克平「環境管理会計における諸指標・尺度の性格—経営理念達成度の測定・評価に向けて—」

事例紹介：

大西淳也「管理会計を行政に拡張する場合の課題」

2018年 第26巻 第2号

特別講演：

櫻井通晴「研究方法の変遷と防衛装備品の価格、原価、利益に関する研究—社会への貢献を志向した管理会計研究の軌跡—」

論壇：

伊藤和憲「管理会計の拡張と実務適応の課題」

伊藤克容「マーケティング管理会計の展開—顧客動向の追跡と動線設計—」

内山哲彦「管理会計研究・実践と人的要素の管理—統合報告を中心に—」

篠田朝也「資本予算実務の課題—管理会計の拡張と資本予算実務—」

伊藤武志「社会に貢献する企業の経営管理—オムロンの事例研究を中心として—」

2019年 第27巻 第1号

論文：

東壯一郎「半導体製造装置企業における設備投資意思決定プロセスの考察」

関 洋平「サプライチェーンにおける MFCA 情報の共有—組織間管理会計研究に基づく考察—」

渡辺岳夫「アメーバ経営システムの運用の継続企業と中止企業の比較—組織成員に対する心理的な影響メカニズムの多母集団同時分析—」
榊谷奎太「主観的業績評価と組織業績との関係性—環境不確実性と業績指標の多様性の調整効果—」
坂口順也「取引相手の選択と探索コストとの関連性」
濱村純平「費用削減投資と市価基準振替価格」
鬼塚雄大「自律的な在外子会社に対する本社による業績管理の影響」

2019年 第27巻 第2号

論壇：	
中村博之「企業グループの管理会計」	
塘 誠「異文化マネジメントと管理会計上の課題—純粹持株会社，日系海外子会社の事例研究から—」	
福田淳児「純粹持株会社における全体最適と部分最適」	
岡 照二「気候変動に伴う企業グループの環境管理会計の展望」	
宮元万菜美「グローバル企業におけるグループ企業マネジメント—日系グローバル企業の事例から—」	
事例紹介：	
竹本隆亮「国の地方局 A における管理会計実践—人日管理（事務量マネジメント）導入を巡る職員の主観や認識の観点から—」	
研究ノート：	
山本 宣明・横井 隆志「中小企業の管理会計を支援する会計事務所の月次決算サービス—フィードフォワード主体の経営協議の可能性—」	

2020年 第28巻 第1号

論文：	
岡田華奈・尻無濱芳崇・黒木 淳「マネジメント・コントロール・システムが医療・介護領域における施設間連携に与える影響」	
早川 翔・妹尾剛好・安酸建二・新井康平・横田 絵理「予算文化が利益目標のラチェットリングに与える影響—経営者利益予想による実証研究—」	
岩澤佳太「ジャストインタイム生産方式の導入に伴うミニ・プロフィットセンター制の変化—水平的インタラクションに注目して—」	
近藤隆史・西居 豪「業績評価指標のインフォーマティブネスと管理可能性—エージェントの努力配分の動的過程のシミュレーション—」	
牧野功樹「中小企業の管理会計研究—システムティック・レビューによる統合の試み—」	

木村史彦「日本版不動産投資信託における利益マネジメント—減価償却費の調整に注目して—」
福嶋誠宣・濱村純平・井上謙仁「財務データのサンプリングにおける時点設定の問題」
根本萌希「我が国における戦略管理会計の研究動向—文献研究に基づいて—」

2020年 第28巻 第2号
特別講演：
櫻井通晴「コーポレートガバナンス・コードの制定とROE活用の是非」
論壇：
澤邊紀生「マネジメント・コントロールの展開と今日的課題」
浅田拓史「自律創造型コントロールと会計担当者の役割—コマツの事例から学ぶ—」
青木章通「サービス組織における価値共創プロセスとマネジメント・コントロール・システム」
伊藤克容「「両利き経営」を実現するマネジメント・コントロールの要件—マネジメント・コントロール理論の拡張・体系化の視点—」
事例紹介：
竹本隆亮・小林重道・奥迫仁則・大西淳也「国税庁広島国税局における管理会計実践について」

2021年 第29巻 第1号
論文：
井上慶太「顧客関係と管理会計—拡張的な顧客関係の捉え方をふまえて—」
小笠原亨・早川翔・吉田政之「相対評価における追加的なモニタリング」
堀 好一・辻 正雄「連結納税制度適用による利益調整の実証分析」
西居 豪・近藤隆史「業績情報に基づく模倣を通じた相互作用に関する探索的研究—コンピュータ・シミュレーションによるアプローチ—」
榎谷奎太「予算管理における診断的コントロールの質—多様な効果の発生原理の探求—」
谷守正行「サブスクリプション・モデルによる価格設定の研究—銀行アカウントフィーへの適用シミュレーション—」
Fanhong Meng, "An Empirical Study on the Relationship between the Application of MFCA, SBSC, Eco-efficiency and Financial Performance: Verification of Financial Data of Listed Manufacturing Companies in China"

2020年 第28巻 第2号
論壇：
安酸建二「エビデンス・ベーストな管理会計研究を目指して」
新井康平「エビデンス・レベルから考える経験的管理会計研究の「型」」
濱村純平「エビデンス・ベーストな管理会計研究と理論による予測」

	福嶋誠宣「管理会計研究が提供するエビデンスの実務に対する有用性」
特別講演：	
	荻野好正「企業のオペレーションにおける黄色信号」
	北口功幸「株式会社亀山電機における BSC（バランストスコアカード）の活用—導入・運用・課題の観点から考える—」

4 フォーラムのあゆみ

設立後 10 年間、日本管理会計学会（以後、JAMA と略称）には地域別の組織（いわゆる地方部会）がなかった。学会の前身である「数理会計研究会」が東京で開かれていたために、設立当初の学会員の中で、関東地区の大学の研究者の比率が圧倒的に高かったことがその一因である。年 1 回の全国大会だけではなく、年数回のミニ大会を開いて、関東エリアの会員はもちろんのこと、地方の会員が学会活動に参加できる機会を増やそうと 1994 年からフォーラムが開かれるようになった。最近では、年に 3 回のフォーラム開催という習慣が定着している。

年に複数回の機会があるので、全国大会では取り上げにくい管理会計の周辺領域のテーマを統一論題に取り上げ、財務会計や経営学、あるいはマーケティングなどの研究者・実務家を招いて、既存の研究領域を超えた議論をできるのもフォーラムのメリットであった。グループ経営、サプライ・チェーン・マネジメント、ERP など、管理会計に隣接するその時々トピックがフォーラムの統一論題には取り上げられている。また、会員による研究報告を中心にしつつも、テーマを決めてディスカッションを含む形式で開催したり、会員以外の実務家による報告を依頼したりすることもあり、開催委員長と相談のうえ内容を決め、比較的オープンな雰囲気で開催している。

さらに、年に 1 回は、九州、関西、北陸、東北などの大学の管理会計研究者の協力を得て、地方でフォーラムを開くのも JAMA の特色である。今でこそ、大会の参加費を払えば、非会員でも年次大会の報告を聴講できるのは当たり前になっているが、30 年前にはどの学会も非会員の参加に門戸を閉ざしていた。JAMA のフォーラムは、管理会計に関心を持つ研究者や実務家なら誰でも参加できるようにしたので、東京の研究者や実務家が地方の大学を訪問し、また、地方の研究者が東京で開かれるフォーラムに参加するために上京する機会を増やし、地域交流に貢献した。初代会長の片岡洋一先生や副会長の西澤脩先生、佐藤進先生など、学会役員の先生たちが、地方のフォーラムにも足を運んで、地域交流を積極的に支えていただいたことに感謝したい。

1994年度			
第1回フォーラム			
開催日	4月20日(水)	会場	中央大学(駿河台記念館)
統一論題:「新しいCVP分析の拡張」			
	「動的CVP分析の展開」片岡洋一(東京理科大学)		
	「CVP分析と租税関数」山下裕企(東京理科大学)		
	「動的収支分岐分析の展開」力石雅樹(東京理科大学)		
記念講演			

“The Nature and Development of the Chartered Institute of Management Accountants(UK) : The Birth and Growth of a Professional Institute” Douglas McRae (CIMA 会長)			
自由論題 (2件)			
第2回フォーラム			
開催日	7月2日(土)	会場	東京理科大学
自由論題 (3件)			
第3回フォーラム			
開催日	12月10日(水)	会場	筑波大学(大塚キャンパス)
統一論題:「ヘッジ会計の諸問題」			
「ヘッジ会計の基本構造とそれをめぐる諸問題」大塚宗春(早稲田大学)			
「ヘッジ会計をめぐって」伊藤 眞(監査法人トーマツ)			
自由論題 (6件)			

1995年度			
第1回フォーラム			
開催日	5月13日(土)	会場	東京経済大学
特別講演			
「原価管理の概念について」佐藤 進(中央大学)			
自由論題 (6件)			
第2回フォーラム			
開催日	12月2日(土)	会場	東京理科大学
自由論題 (8件)			

1996年度			
第2回フォーラム			
開催日	12月7日(土)	会場	大阪大学
統一論題:「数理モデルの管理会計学への適用—特にゲーム理論, 数理計画法およびエイジェンシー理論の観点から—」			
「管理会計におけるゲーム理論の展開」青木雅明(青森公立大学)			
「数理計画法の管理会計学への適用の意義」浜田和樹(西南学院大学)			
「管理会計のエイジェンシー・アプローチ」佐藤紘光(早稲田大学)			
自由論題 (6件)			

1997年度			
第1回フォーラム			
開催日	5月31日(土)	会場	青森公立大学
自由論題 (5件)			
第2回フォーラム			
開催日	10月18日(土)	会場	龍谷大学
統一論題:「管理会計学をいかに研究するか」			
「管理会計学研究の設計のフレームワーク」片岡洋一(東京理科大学)			
「米国管理会計研究にみる経験的方法の展開」上埜 進(甲南大学)			
「管理会計学の経験的研究の実践的意味」門田安弘(筑波大学)			
「管理会計の分析的研究法」原田 昇(東京理科大学)			
自由論題 (3件)			
第3回フォーラム			
開催日	11月22日(土)	会場	九州産業大学
パネル・ディスカッション:「国際化と会計情報」			
座 長: 田中隆雄(日本大学)			
パネラー:			
吉田 寛(九州産業大学), 芝 章(株NEC 東芝情報システム), 中根滋(SAP ジャパン株)			
自由論題 (8件)			

1998年度			
第1回フォーラム			
開催日	5月16日(土)	会場	明治大学
パネル・ディスカッション:「ERPの登場と現在の課題」			
パネラー: 今井二郎(高千穂商科大学), 井上裕史(SAP ジャパン株), 青柳六郎太(株NEC 総研), 曾我太郎(日本IBM株), 福田嘉一(三菱鉛筆株)			
自由論題 (2件)			
第2回フォーラム			
開催日	7月4日(土)	会場	福島大学
パネル・ディスカッション:「グローバル経営環境下での業績評価会計の課題」			
パネラー: 皆川芳輝(名古屋学院大学), 田宮治雄(東京国際大学), 星野優太(弘前大学)			

自由論題 (2件)

1999年度			
第1回フォーラム			
開催日	4月3日(土)	会場	筑波大学
統一論題:「企業業績と企業価値」			
	「株価と業績指標—EVA, Cash-flow & Ohlson Model」八重倉孝(国際大学)		
	「花王(株)におけるEVAと役員報酬」星野敏雄(花王株)		
	“EVA—Quest for Value”, Furtaw, Patrick (Stern Stewart LLC.)		
自由論題 (4件)			
第2回フォーラム			
開催日	7月17日(土)	会場	札幌学院大学
統一論題:「キャッシュフロー情報の有用性」			
	「企業価値モデルからみたキャッシュフロー情報の有用性」小倉昇(筑波大学)		
	「企業経営におけるキャッシュフロー情報」 池田和明(株プライスウォーターハウスコンサルタント)		
	「財務会計からみたキャッシュフロー経営」佐藤倫正(岡山大学)		
自由論題 (4件)			
第3回フォーラム			
開催日	11月4日(土)	会場	武蔵大学
統一論題:「サプライ・チェーン・マネジメントへの管理会計への課題」			
	「サプライ・チェーン・マネジメントアカウンティング試論」清水孝(早稲田大学)		
	「サプライ・チェーン・マネジメントの評価と会計」矢澤秀雄(専修大学)		
	「サプライチェーンマネジメント・システムとその導入」天道晴也(富士通総研株)		
	「Low Cost Supplyの実現を目指した”ライオンの物流システム”」武藤三郎(ライオン株)		
自由論題 (4件)			

2000年度			
第1回フォーラム			
開催日	5月27日(土)	会場	横浜市立大学
統一論題:「グループ経営の支援システム」			
	「グループの経営戦略とカンパニー制」田中隆雄(東北大学)		
	「IBMのメジャメントを支える会計の仕組みと機能」志賀睦(日本IBM株)		

「オムロンにおける本社機能部門のグループ内サービス化，事業化」 鈴木吉宜（オムロン㈱）			
自由論題			
「相対株価から絶対株価への転換：公開株式価値の大転換記におけるグループ企業価値とM&A」 佐藤展生（ユニゾン・キャピタル㈱）			
「バリューチェーンの再構築が会計情報に及ぼす影響」 渡邊 衛（横浜国立大学院生）			
「カテゴリーマネジメントの収益性管理－小売店の陳列スペース管理と補充発注サイクルにおける棚在庫管理との融合－」 三田洋幸（PWC コンサルタント㈱）			
「リース取引測定フレームワーク」 山田恵一（東京理科大学院生）			
「補修および検査点を導入した総合原価計算モデル」 小泉有香（東京理科大学院生）・片岡洋一（東京理科大学）			
「モニタリングと不正」 鈴木孝則（早稲田大学院生）			
第2回フォーラム			
開催日	7月22日（土）	会場	大阪大学
統一論題：「E-commerceと管理会計」			
報告者：塘 誠（福山平成大学），石山泰男（三和総合研究所），歌代 豊（三菱総合研究所）			
自由論題			
「日本企業のガバナンス構造と研究開発投資」 木村史彦（名古屋商科大学）			
「事業部長の利益業績評価と企業の資本利用効率との関係」 星 法子（白鷗大学）			
「電子カルテと今後の病院管理システムの可能性」 宇田淳・鈴木研一（広島国際大学）			
「原価企画における市場環境，製品開発組織および業績評価の関係についての研究」 李 超雄（筑波大学院生）			
「ノンパラメトリック統計検定のDEAダイナミクスへの適用」 青木真吾（東京理科大学院生），末吉俊幸（東京理科大学）			
「疑似プロフィットセンターのエンパワメント－住友電気工業の事例を通して」 松木智子（神戸大学院生）・吉田栄介（近畿大学）			
第3回フォーラム			
開催日	11月25日（土）	会場	琉球大学
統一論題：「組織能力と管理会計」			
「知的資産管理の管理会計学的考察」 浜田和樹（西南学院大学）			
「初期段階技術の会計的評価」 小林啓孝（慶應義塾大学）			
「企業合併とその効果」 山本達司（名古屋大学）			
自由論題			
「企業・消費者間ECと関係性マーケティング－リゾートトラストの事例研究－」			

伏見有貴 (リゾートトラスト㈱), 鈴木 研一 (広島国際大学)
「収益の管理会計」 渡邊俊輔 (拓殖大学)
「直接労務費差異分析モデルの検討」 今林正明 (東京理科大学諏訪短期大学)
「製品原価計算と目的適合性 ー特に製造間接費配賦に関連してー」 宗近佑美 (東京理科大学院生) ・ 小泉有香 (東京理科大学院生) ・ 片岡洋一 (東京理科大学)

2001年度			
第1回フォーラム			
開催日	4月7日(土)	会場	SAP ジャパン㈱
統一論題: 「日本の管理会計への提言」			
	「ABMの実践を通じて」 松川孝一 (プライスウォーターハウスクーパースコンサルタント㈱)		
	「メタ・キャピタリズムと日本企業」 松永達也 (プライスウォーターハウスクーパースコンサルタント㈱)		
第2回フォーラム			
開催日	6月30日(土)	会場	立命館大学
特別講演:			
	「市場経済の進化と会計パラダイムの転換」 吉田 寛 (神戸商科大学名誉教授)		
	「組織変革と管理会計」 水野一郎 (関西大学)		
	「ライフサイクル・コスト・モデルの構築ーわが国の核燃料サイクルを中心としてー」 竹森一正 (中部大学)		
自由論題			
	「子会社方式によるシェアードサービスの導入」 園田智昭 (慶應義塾大学)		
	「ミニ・プロフィットセンター (MPC) における管理会計情報の役割」 松木智子 (神戸大学院生)		
	「日米企業における予算管理の差異分析」 朴 景淑 (大阪大学院生) ・ 浅田孝幸 (大阪大学)		
	「会計情報システムの統合化について」 坂手啓介 (関西学院大学院生)		
第3回フォーラム			
開催日	11月22日(土)	会場	九州産業大学
記録が残っていません。			

2002年度			
第1回フォーラム			
開催日	4月7日(土)	会場	明治大学

統一論題：「環境マネジメントと管理会計情報」			
	「環境管理会計の展開と国際動向」水口 剛（高崎経済大学）		
	「キャノンにおける環境への取り組み」古田清人（キャノン株）		
	「日本におけるマテリアルフローコスト会計の導入事例について」中畠道靖（関西大学）		
自由論題			
	「フランス自治体管理会計」中西 一（佐賀大学）		
	「The Transference and Adoption of Japanese Cost Management Systems」 Irfa Ampri（横浜国立大学院生）		
第2回フォーラム			
開催日	7月27日（土）	会場	亜細亜大学
自由論題			
	「ローン・ビジネスにおける審査サービスのソーシング戦略」杉本正隆（横浜国立大学）		
	「中国的管理会計の生成と発展について」大島正克（亜細亜大学）		
	「EPM～企業価値創造の新しいパラダイム」芝尾芳昭（PWC コンサルタント株）		
	「夢をプロジェクトとして起ち上げる法」川勝良昭（岐阜県理事）		
第3回フォーラム			
開催日	11月30日（土）	会場	長岡大学
統一論題：「サプライ・チェーン・マネジメントへの管理会計への課題」			
	「資本市場における情報の相互作用」北川哲雄（明治ドレズナー・アセットマネジメント株）		
	「顧客志向の管理会計」清水 隆（株高島屋）		
	「IT時代における新しい管理会計」西澤脩（日本管理会計学会前会長）		
自由論題			
	「経営重要課題と予算の適正化」安藤恵一郎（経営コンサルタント）		
	「経営レバレッジの概念拡張」鈴木研一（明治大学）、佐々木郁子（東北学院大学）		
	「権利侵害訴訟と管理会計の役割」吉田博文（公認会計士）		

2003年度			
第1回フォーラム			
開催日	4月5日（土）	会場	東京理科大学
特別講演：			
	「多角化の中、個性を競う」常磐文克（花王株）		
統一論題：「グループ経営の管理会計」			
	「グループ経営における管理会計情報の動向」木村幾也（岡山商科大学）		

「分権経営の業績管理指標」松尾貴巳（大阪府立大学）
「グループ経営におけるマネジメント・コントロール」渡辺康夫（㈱情報通信総合研究所）
「グループ経営における事業連結体制に関する考察」小松原聡（㈱三菱総合研究所）
「グループ経営の現状と課題」挽 文子（一橋大学）

第2回フォーラム

開催日	7月5日（土）	会場	関西大学
-----	---------	----	------

統一論題：「現代企業経営における環境会計の現状と展望」

「松下電器の環境経営」今井伸一（松下電器産業㈱）
「環境経営におけるマテリアルフローコスト会計の有効性」河野裕司（田辺製菓（株））
「環境会計における費用対効果の現状と課題」平井孝治（立命館大学）
「マテリアルフローと環境報告書：持続可能な環境パフォーマンス＜脱化石資源＞に向けて」 富増和彦（奈良産業大学）

自由論題

「日本企業の環境会計情報開示：経年分析と新しい動向」 梨岡英理子（地球環境戦略研究機関・関西研究センター）・國部克彦（神戸大学）
「ABCの導入事例研究」松尾貴巳（大阪府立大学）
「戦略経営に対する管理会計システムの対応—BSCによるプログラミング概念の明確化—」 堀井悟志（京都大学院生）
「知的資産と企業価値—人的資産を中心として—」唐 楽寧（関西大学院生）
「環境パフォーマンス情報の開示に関する一考察」宮武記章（関西学院大学院生）
「オートポイエシス・システム論に基づく会計研究」堀口真司（神戸大学院生）

第3回フォーラム

開催日	11月22日（土）	会場	高千穂大学
-----	-----------	----	-------

統一論題：「情報システムの進化とコストマネジメントの変化」

「情報システムの進化とビジネス・プロセスへのインパクト」櫻井康弘氏（高千穂大学）
「情報システムの進化と組織構造へのインパクト」堀内 恵氏（中央大学）
「ベンダーサイドからみた ERP 導入時の検討課題」井上裕史氏（SAP ジャパン㈱）
「ユーザーサイドからみた ERP 導入時の検討課題」木野戸裕氏（キリンビール㈱）

2004年度

第1回フォーラム

開催日	4月3日（土）	会場	明治大学
-----	---------	----	------

統一論題：「PMの管理会計—新しいフレームワークの構築」

「P2M とは何か?—その目的と意義」 小原重信 (シドニー工科大学)			
「PBSC および Pbudgeting のフレームワーク」 鈴木研一 (明治大学)			
「PM 型マネジメント・コントロールの事例と意義」 芝尾芳昭 (IBM ビジネスコンサルティングサービス(株))			
「PBSC および Pbudgeting の実務への適応可能性」 川野克典 (ベリングポイント(株))			
自由論題			
「活動基準原価企画の可能性についての研究—サービスの設計段階におけるコストマネジメントの視点」 三木僚祐 (長岡大学)			
「キャッシュフローアットリスクに基づく事業ポートフォリオマネジメント」 杉本正隆 (シグマバイキャピタル(株))			
「企業の社会的責任(CSR)に対する会計的アプローチ」 千葉貴律 (明治大学)			
第2回フォーラム			
開催日	7月23日(土)	会場	諏訪東京理科大学
特別講演:			
「セイコーエプソンの業績管理の仕組み」 久保田健二 (セイコーエプソン(株))			
自由論題			
「原価企画におけるライフサイクル・コストへの取り組み」 中島洋行 (明治大学院生)			
「韓国企業の M&A の特徴—合併公示が株主の富に及ぼす影響の考察をとおして—」 盧 貞蘭 (中央大学院生)			
「成熟製品の売上設定に関する一方法」 奥原正夫 (諏訪東京理科大学)			
「わが国製造業の業績管理会計における情報の価値」 寺戸節郎 (山梨大学)			
アカウンティングフォーラム			
開催日	11月20日(土)	会場	青山学院大学
特別講演:			
“On Accounting Based Valuation Formulae”, James Ohlson (ニューヨーク大学教授)			
統一論題:「会計利益による株式評価と企業価値経営」			
「日本の株価形成と期待リターン」 高橋文郎 (青山学院大学)			
「日本の資本市場研究と Ohlson valuation model 」 薄井 彰 (早稲田大学)			
「オリンパス(株)の業績評価システムについて」 森 久志 (オリンパス {株})			
第3回フォーラム			
開催日	3月18日(金)	会場	日本大学
自由論題			

「環境管理会計 その現状と課題」湯田雅夫（独協大学）
「環境経営の考え方と CSR」鈴木幸毅（駒澤大学）

2005年度			
第1回フォーラム			
開催日	4月1日（金）	会場	産能大学
特別講演：			
「日産リバイブルプランの成功の秘訣と今後の展望」増田譲二（日産自動車㈱）			
自由論題			
「ABCを活用した原価企画における課題と提案」田坂 公（専修大学）			
「海外進出企業の原価企画の状況」長屋信義（産能大学）			
第2回フォーラム			
開催日	6月18日（金）	会場	中部大学春日井キャンパス
特別講演：			
「アイシン精機の原価管理」水谷彰利（アイシン精機㈱）			
自由論題			
「韓国と日本の合併の特徴の比較」廬 貞蘭（中央大学）			
「ライフサイクル・コストの適用可能業種に関する一考察—建設業に焦点を当てて—」 中島洋行（明治大学）			
第3回フォーラム			
開催日	12月10日（土）	会場	大東文化大学
自由論題			
「勘定科目の分析」荒井義則（城西大学）			
「わが国の公害に関する環境管理会計的検証：水俣病のマテリアルフローコスト会計」 竹森一正（中部大学）			
「日本の主要企業における原価企画の現状」大槻晴海（明治大学）			
「サプライチェーン・マネジメントの調査研究」 矢澤秀雄（千葉商科大学）・竹本達広（専修大学）・島津 誠（専修大学）・秋川卓也（山梨学院大学）			
「TP マネジメントによる原価低減の実践記録」秋庭雅夫（東京理科大学）			

2006年度			
第1回フォーラム			
開催日	5月13日（土）	会場	慶應義塾大学

特別講演：			
「環境問題と自動車産業の進むべき方向」 稲生 武 (いすゞ自動車株)			
自由論題			
「戦略管理会計研究の論点」 伊藤克容 (成蹊大学)			
「同時手番ゲームとしての自己申告手続き」 鈴木孝則 (早稲田大学)			
「複雑で多面的な判断を支援するプラットフォーム」 外山味之 (アヴィックス株)			
第2回フォーラム			
開催日	7月29日(土)	会場	東北大学
特別講演：			
「BSC：中小企業への導入フロー」 長谷部光哉 (長谷部会計マネジメント/長谷部光哉税理士事務所長)			
自由論題			
「製造企業における研究開発投資」 間普 崇(関東学園大学)・青木雅明(東北大学)			
「セル生産による原価低減のメカニズム」 小沢 浩 (東北大学)			
「投資決定における機会費用」 青木雅明 (東北大学)			
第3回フォーラム			
開催日	1月13日(土)	会場	目白大学
特別報告：			
「最近の企業評価実務と『企業価値評価ガイドライン』作成への取り組み」 日本公認会計士協会・経営研究調査会「企業価値算定専門部会」報告			
特別講演：企業価値の評価アプローチと評価法			
「取引(トランザクション)目的における争点」 村上 勝 (公認会計士・専門部会専門委員)			
「裁判所の鑑定目的における争点」 貞廣篤典 (公認会計士・専門部会専門委員)			
自由論題			
「ABCの総合原価計算への拡張」 片岡洋一 (目白大学)			
「日系多国籍企業における意思決定権の位置関係：経験的研究」 上埜 進 (甲南大学)			

2007年度			
第1回フォーラム			
開催日	3月31日(土)	会場	麗澤大学
統一論題：「CSRと会計—両者の遠近性」			
「持続可能な社会と企業をいかに創るか」 高 巖 (麗澤大学)			
「金融機関のCSR」 金田晃一 (大和証券グループ本社)			

「CSRの動向とNECの取り組み事例」鈴木 均（日本電気㈱）			
「内部統制監査における最小サンプル数の決定」鈴木孝則（早稲田大学）			
第2回フォーラム			
開催日	6月30日（土）	会 場	法政大学
自由論題			
「会社法と株式の評価」秋坂朝則（法政大学）			
「不動産鑑定評価と企業（事業）評価」平澤春樹（日本資産評価士協会理事長）			
「DOE（純資産配当率）と管理会計」柳 良平（UBS証券(株)）			
「株主総会活性化企業に対する株式市場の反応—企業価値評価における経営者予想利益の有用性—」大鹿智基（早稲田大学）			
第3回フォーラム			
開催日	12月1日（土）	会 場	富山大学
特別講演：			
「地方金融機関の社会的貢献—リレーションシップ・バンキングを中心に—」 羽岡秀晃（(株)北陸銀行・専務取締役）			
自由論題			
「中国における環境意識と環境会計技法」高瀬智章（城西大学）・張 本越（神奈川大学）			
「アメリカ・エネルギー省のWASTLCC・TSLCCにみる管理会計情報の開示」 竹森一正（中部大学）			
「企業価値創造融資戦略—間接金融の役割」 石坂秀幸・坂本 篤（(株)北陸銀行）、鈴木基史・森口毅彦（富山大学）			

2008年度			
第1回フォーラム			
開催日	6月28日（土）	会 場	青山学院大学
特別講演：			
「企業経営における会計情報の役割」松居秀明（エーザイ㈱）			
自由論題			
「Ohlson-Juettnerモデルに基づく企業価値推定値の株価説明力と評価の正確性の検証」 矢内一利（青山学院大学）			
「顧客関係性分析が与える管理会計の今日的課題—収益管理とその実行可能性」 佐々木郁子（東北学院大学）			
「ゴーイング・コンサーン情報と再生行動」稲葉喜子（早稲田大学院生・公認会計士）			

第2回フォーラム			
開催日	12月13日(土)	会場	南山大学名古屋キャンパス
統一論題:「キャッシュ・フローの会計と管理」			
	「プロジェクトファイナンスにおけるキャッシュ・フロー分析」太田 純(㈱三井住友銀行)		
	「学校法人会計におけるキャッシュ・フロー計算書」梅田守彦(中京大学)		
	「会計発生高のキャッシュ・フローへの実現化と内部統制との関連性」中島真澄(福島学院大学)		
第3回フォーラム			
開催日	2月28日(土)	会場	関西大学
特別講演:			
	「中国進出日系企業の経営と会計」池田博義(公認会計士・税理士, ㈱マイツ代表取締役)		
	「京セラの経営に真に役立つための会計」青木昭一(京セラ㈱)		
統一論題:「管理会計の新たな展開をめざして」			
	「日本企業による資本予算の経済性評価に関する実態分析」篠田朝也(北海道大学)		
	「プログラム, 組織への収益性の管理の利用について」松本有二(静岡産業大学)		
	「企業価値評価法のVBM・部門経営との整合性の検討ー文献研究を基礎としてー」 徳崎進(関西学院大学)		
自由論題			
	「事業プログラムとプロジェクトの価値創造のためのマネジメント・コントロールのメカニズム考察」金幸煜(大阪大学院生)		
	「製品原価計算の設計原理: 探索的研究」 新井康平(神戸大学院生)・加登豊(神戸大学)・田中正旭(神戸大学院生)・坂口順也(関西大学)		

2009年度			
第1回フォーラム			
開催日	4月11日(土)	会場	早稲田大学
統一論題:			
	「原価企画研究アプローチの変遷がわが国と欧米の文献比較」田坂 公(共栄大学)		
	「原価企画におけるテンション・マネジメント」吉田栄介(慶應義塾大学)		
	「小森コーポレーションの原価企画」遠藤豊(㈱小森コーポレーション)		
	「いすゞの原価企画ー原価低減20%へのプロセスー」三枝峰夫(いすゞ自動車㈱)		
第2回フォーラム			
開催日	7月4日(土)	会場	九州大学

統一論題：「内部統制と企業経営－内部統制は企業経営にどのような影響を与えたか－」			
	「内部統制報告制度の概要と実務上の対応」 富田昭仁（監査法人トーマツ）		
	「内部統制監査をめぐる諸問題」 伊藤龍峰（西南学院大学）		
	「CEO の内部統制への取り組み」 別府正之助（㈱中日本高速道路）		
第3回フォーラム			
開催日	11月28日（土）	会場	愛知東邦大学
統一論題：「商品企画と管理会計－商品開発力強化への管理会計の貢献－」			
	「製品コンセプトづくりと管理会計」 田中雅康（目白大学）		
	「製品コンセプト・メイキングの方法－CMVE（Concept Making VE）を活用して－」 谷 彰三（シャープ㈱）		
	「生産性設計支援システム（Design For Assembly）による商品競争力比較と原価低減活動」 渡辺美稔（いすゞ自動車㈱）		

2010年度			
第1回フォーラム			
開催日	4月17日（土）	会場	横浜国立大学
統一論題：「環境マネジメントと管理会計」			
	「キヤノンの環境経営について(管理会計手法の活用)」 古田清人（キヤノン㈱）		
	「グリーン IT と環境管理会計」 竹原正篤（マイクロソフト㈱）		
	「環境マネジメントの進展と管理会計」 河野正男（横浜国立大学名誉教授）		
第2回フォーラム			
開催日	7月17日（土）	会場	大阪学院大学
特別講演：			
	「パナソニックの経営理念と経営管理制度」 上野山実（パナソニック㈱）		
統一論題：「管理と会計」			
	「専門商社の経営管理」 北田幹人（八木通商㈱）		
	「建設業におけるプロジェクトをベースとした経営管理」 横山俊宏（㈱竹中工務店）		
	「不況の管理会計学：管理と会計に寄せて」 大下丈平（九州大学）		
第3回フォーラム			
開催日	10月23日（土）	会場	福島大学
統一論題：「中小企業経営と管理会計」			
	「中小建設業における付加価値基準の活用について」 藤井一郎（㈱みどり合同経営）		

「中小建設業における財務的特徴と総合評価方式の課題」 奥本英樹（福島大学）
「中小企業の成長のための財務情報の活用－経営者に必要な情報について－」 板倉雄一郎（寺田共同会計事務所）
「中小企業金融の現状と財務格付けの課題」 佐藤英雄（福島信用金庫）

2011年度			
第1回フォーラム			
開催日	4月23日（土）	会場	大阪大学
自由論題			
「協調戦略による事業価値と管理会計の論点－合併設立のケースから－」 三浦徹志（大阪成蹊短期大学）			
「人的資産と管理会計」 内山哲彦（千葉大学）			
「プロジェクトベース予算によるイノベーションの推進」 芝尾芳昭（イノベーションマネジメント(株)パートナー）			
「マテリアルフローコスト会計の管理会計手法としての有用性の再検討について」 中畠道靖（関西大学）			
第2回フォーラム			
開催日	7月16日（土）	会場	成城大学
自由論題			
「感動創造の価値と価格に関する考察－アート・プロデュースの視点から－」 境 新一（成城大学）			
「起業のファイナンス」 磯崎哲也（磯崎哲也事務所代表、公認会計士）			
「製作委員会方式による資金調達功罪」 山田有人（大原大学院大学、吉本興業(株)監査役）			
「ビジネスモデルの新たなフレームワーク－実際の変革事例から－」 川上昌直（兵庫県立大学）			
第3回フォーラム			
開催日	12月10日（土）	会場	東京経営短期大学
統一論題：「非営利組織の管理会計」			
「市川市の行政改革－ABCと附属機関による公開検討会を中心に－」 伊藤博（市川市役所企画部行政改革推進課長）			
「組織成員の目標達成、行動意識、および自律性の関係－BSCを利用したわが国医療組織における実証的研究－」 渡邊直人（首都大学東京）			
「公共部門の管理会計における今後の課題」 大西淳也（財務省財務総合政策研究所客員研究員，早稲田大学ビジネススクール非常勤講師，内閣府参事官（財政運営基本担当））			

2012年度			
第1回フォーラム			
開催日	4月14日(土)	会場	大阪成蹊大学・短期大学
自由論題			
	「リスクマネジメントと管理会計の接点:ERMを導入する場合—カリフォルニア州立大学バークレー校のケース—」 景山愛子(安田女子大学)		
	「株価と労働環境の関連性について」 平井裕久(高崎経済大学)・後藤晃範(大阪学院大学)		
	「観光振興と住民の意識—奈良県宿泊施設経営者の意識に関する調査の分析より—」 国枝よしみ(大阪成蹊短期大学)・鹿内健一(大阪成蹊短期大学)・田中祥司(大阪成蹊短期大学 非常勤講師)・早稲田大学大学院)		
	「非財務指標と財務指標の関係に関する実証研究:国立病院データの分析」 島吉伸(近畿大学)・安酸建二(近畿大学)・栗栖千幸(医療法人鉄蕉会亀田メディカルセンター 経営管理本部 企画部経営企画室)		
第2回フォーラム			
開催日	7月21日(土)	会場	北海道大学
特別講演:			
	「お客様の『見る喜び』と経営を強力に支えるFTISの運用とその成果」 大久保浩幸((株)富士メガネ取締役 人事・総務部長)		
自由論題			
	「管理会計の導入効果の事例研究—産学共同研究への期待—」 丸田起大(九州大学)		
	「中小製造業における管理会計導入の実務」 藤本康男(フジモトコンサルティングオフィス合同会社代表社員, 税理士)		
	「生産企画と融合コストマネジメント」 長坂悦敬(甲南大学)		
第3回フォーラム			
開催日	12月18日(土)	会場	玉川大学
企業講演:			
	「全社的原価管理プロセスの改善」 織田芳一(富士ゼロックス(株)調達本部原価管理部)		
統一論題:「ものづくりの管理会計の再考」			
	「Jコストによる現場改善効果の測定—資金効率の視点から—」 原慎之介(一橋大学大学院)		
	「グローバル型企業における原価企画の展開と課題」 田坂 公(久留米大学)		
	「日本のものづくりを強化するMFCAの有効性とは」 中島道靖(関西大学)・木村麻子(関西大学)		

2013年度			
第1回フォーラム			
開催日	4月13日(土)	会場	南山大学
特別講演:			
	「テレビ局の経営と管理」吉澤和秀(中京テレビ放送(株)常勤監査役)		
自由論題			
	「内部統制制度の導入効果に関する一考察—4社の事例—」孫美レイ(流通科学大学)		
	「利益マネジメントの業績間比較」木村史彦(東北大学)		
	「進化を止めた日本企業の管理会計」川野克典(日本大学)		
第2回フォーラム			
開催日	7月13日(土)	会場	法政大学市ヶ谷キャンパス
自由論題			
	「介護事業における組織の公益志向と業績測定尺度の利用」尻無濱芳崇(一橋大学大学院)		
	「ホテル業における収益管理—レベニューマネジメントに関する実証研究—」青木章通(専修大学)		
	「アメーバ経営の導入研究」近藤大輔(法政大学大学院)		
	「機能別組織における戦略的業績評価システムの考察」 妹尾剛好(和歌山大学)・横田絵理(慶應義塾大学)		
第3回フォーラム			
開催日	11月16日(土)	会場	大分大学且野原キャンパス
統一論題:「大分・別府,九州から地域経済・地域産業の将来を考える」			
	「顧問先の経営成績から大分の景気動向をさぐる」高橋 幹(南九州税理士会大分県連合会副会長)		
	「由布院の観光・まちづくり」桑野和泉(由布院玉の湯代表取締役社長)		
	「ダイハツ九州のめざすところ」魚井和樹(ダイハツ九州(株)取締役相談役)		
	「A社造船所における新造船事業の採算性改善のための方策(2)」宮地晃輔(長崎県立大学)		

2014年度			
第1回フォーラム			
開催日	4月26日(土)	会場	早稲田大学西早稲田キャンパス
統一論題:「日本企業における企業価値創造経営」			
	「企業価値創造の理論と経営における実践の融合—企業オペレーションとM&Aにおける最近のトピックを中心に—」佐藤克宏(Mckinsey Company プリンシパル)		
	「企業と市場のダイコトミ—緩和に向けた処方箋の理論と実践—「企業価値評価」にフォーカスし		

たアプローチ」柳 良平（エーザイ(株)執行役員)			
「M&Aによる企業価値創造とのれんの償却問題」花村信也（みずほ証券(株)執行役員)			
第2回フォーラム			
開催日	7月26日（土）	会場	首都大学東京南大沢キャンパス
自由論題			
“Subsidiary management using multinational transfer pricing” 濱村純平（神戸大学大学院博士後期課程）			
「国際比較による会計情報の価値関連性に関する研究」 山本宗一郎（首都大学東京大学院博士後期課程）			
「顧客価値ベースの人間尊重経営の実現に向けて」伊藤武志（(株)価値共創）			
「利益情報の訂正と会計情報の信頼性」奥村雅史（早稲田大学商学大学院）			
第3回フォーラム			
開催日	12月16日（土）	会場	甲南大学
統一論題：「統合報告の歩みと現況」			
第一セッション：「統合報告の管理会計へのインプリケーションズ」			
開題「統合報告の歩みと現況」上埜 進（甲南大学大学院社会科学研究所）			
「管理会計実践にとっての統合報告の意義」伊藤嘉博（早稲田大学商学大学院）			
「統合報告をめぐる実証研究—長寿企業データを用いたパイロット・テストの紹介—」 大鹿智基（早稲田大学商学大学院）			
第二セッション：「管理会計・原価計算の教育をめぐる課題と対応」			
開題「グローバル環境下の日本の会計・経営教育」原田 昇（目白大学）			
「専門教育へのアクティブ・ラーニングの適用可能性」島 吉伸（近畿大学）			
「一橋大学の職業人養成教育」古賀健太郎（一橋大学大学院）			
「実務への適合性と研究の厳格性の調和に向けて：神戸大学における研究者養成教育」 梶原武久（神戸大学大学院）			

2015年度			
第1回フォーラム			
開催日	4月19日（土）	会場	早稲田大学
特別講演：			
“What is good management accounting research and how do we get it done?” Ella Mae Matsumura（Wisconsin 大学）			
統一論題：「価値創造経営の管理会計」			

「価値創造のメカニズムと新たな理論的モデルの提示」伊藤和憲（専修大学）			
「価値創造とアメーバ経営—医療・介護組織を対象として—」挽文子（一橋大学）			
「企業価値経営・企業価値評価における CVP 分析」安酸建二（近畿大学）			
第2回フォーラム			
開催日	7月25日（土）	会場	東北大学片平キャンパス
自由論題			
「中小企業における管理会計の運用状況及び事例について」鎌田宣俊（(株)エスネットワークス）			
「中小企業の TKC 管理会計ツールと活用事例」内出琢也（税理士法人青木&パートナーズ）			
「戦略と業務の新 PDCA サイクル—中小企業への BSC の導入—」 長谷部光哉（アーセプトコンサルティング(株)）			
第3回フォーラム			
開催日	12月5日（土）	会場	同志社大学今出川キャンパス
自由論題			
「ストックオプションの付与と経営者の機会主義的行動」遠谷貴裕（明星大学）			
「中国における中小企業管理会計の現状と課題—大連での調査を中心に—」 張宏武（関西大学商学研究科博士後期課程）			
「防衛調達に関する契約時概算原価と実際原価の差異に関する考察：利益調整研究手法の応用」 尻無濱芳崇（山形大学）・森光高大（日本経済大学）			
「アメーバ経営が有する PDCA サイクルの分析」 大西智之（早稲田大学大学院博士後期課）・町田遼太（早稲田大学大学院博士後期課程）			
「業績評価と業績指標の操作：主観的業績評価の役割」北田智久（神戸大学大学院博士後期課程）			

2016年度			
第1回フォーラム			
開催日	4月16日（土）	会場	亜細亜大学
統一論題：			
「サービス・リエンジニアリング—わが国宿泊産業のインバウンド戦略にフォーカスをあてた考察—」			
「宿泊産業におけるサービス・リエンジニアリングの課題」伊藤嘉博（早稲田大学）			
「サービス・リエンジニアリングとアメーバ経営—宿泊産業の事例にもとづく考察—」 庵谷治男（長崎大学）			
「日本を好きになって頂くという使命を持って」橋本明元（(株)王宮 道頓堀ホテル・専務取締役）			
第2回フォーラム			

開催日	7月30日(土)	会場	福岡大学
統一論題:「管理会計の実務に与えるインパクト」			
「管理会計の財務諸表監査に与えるインパクト—管理会計が関連する監査の諸側面—」 結城秀彦(監査法人トーマツ)			
「日本の地域金融システムの他国への運用可能性について—中小企業の育成と管理会計の視点から—」 吉原清嗣(Department of Development Academy of the Philippines Visiting Fellow, The Vietnam National University Visiting Fellow, 京都大学大学院)			
「中小製造企業における管理会計の導入実態に関する研究—長崎県佐世保地域での調査を基礎として—」 宮地晃輔(長崎県立大学)			
第3回フォーラム			
開催日	12月17日(土)	会場	目白大学新宿キャンパス
統一論題:「日本の主要企業における原価企画の現状と課題」			
「日本の主要企業における原価企画の現状と課題」田中雅康(広島都市学園大学)			
「(株)リコーのVA推進・原価企画活動について」 渡邊昌俊((株)リコー グローバル購買本部・VA推進室)			
「いすゞ自動車(株)の原価企画活動」 萩原健一(いすゞ自動車(株) 原価企画部 VE・評価グループ)			

2017年度			
第1回フォーラム			
開催日	4月15日(土)	会場	国士舘大学
特別講演:			
「日本政策金融公庫と中小企業経営」古園伸一郎(日本政策金融公庫)			
統一論題:「中小企業における管理会計の展開可能性」			
「苫小牧地域の中小企業管理会計の現状と課題—M社を中心として—」川島和浩(苫小牧駒沢大学)			
「中小企業管理会計の前提条件としての中小企業の発展段階説」本橋正美(明治大学)			
第2回フォーラム			
開催日	7月15日(土)	会場	大阪大学
特別講演:			
「日本経営グループにおける理念経営と人材育成—国内最大級の医療経営コンサルティンググループの成長の軌跡—」丹羽修二((株)日本経営副社長)			
自由論題			
「フェア・ディスクロージャー規則が経営者の情報開示と資金調達に与える影響」			

石川徹（大阪大学）			
「顧客価値実現につながる新事業創出手法とその検討方法ーサービスデザイン手法と IT 企画人材育成セミナーを通じてー」 布施匡章（近畿大学）			
「第三者割当増資における制限付新株予約権の価値評価ー事例からみる問題点ー」 岩田悦之（ZECOO パートナーズ(株), 公認会計士）			
第3回フォーラム			
開催日	11月25日（土）	会場	富山大学五福キャンパス
統一論題：「グローバル化の進展と管理会計の現地化」			
「日本企業の国際経営戦略と管理会計システムーアンケート調査に基づいてー」 崎章浩（明治大学）			
「マレーシア進出企業における原価企画の現地化」 田坂公（福岡大学）・小酒井正和（玉川大学）			
「世界6極経営体制による地域に根差した海外展開の取り組み」 宮村久夫（YKK(株) 財務・経理部長）			

2018年度			
第1回フォーラム			
開催日	4月21日（土）	会場	東京理科大学
統一論題：「ESG 経営と管理会計」			
「ESG 投資の実務ー長期投資家の立場からー」 松原 稔（(株)りそな銀行）			
「管理会計が支えるコーポレート・ガバナンス」 円谷昭一（一橋大学）			
「ESG 投資の文脈からみた「ESG 経営」の概念」 水口剛（高崎経済大学）			
第2回フォーラム			
開催日	7月28日（土）	会場	北海道大学
特別講演：			
「コープさっぽろの再建と社会貢献」 大見英明（生活協同組合コープさっぽろ 理事長）			
自由論題			
「原価企画に関する実験研究トライアル」 篠田朝也（北海道大学）			
「マスカスタマイゼーションと戦略的コスト・マネジメント」 梶原武久（神戸大学）・小沢浩（名古屋大学）・窪田祐一（南山大学）・清水信匡（早稲田大学）			
「利他的行動を促す管理会計の工夫ーサンフロンティア不動産のアメーバ経営の事例ー」 丸田起大（九州大学）			
第3回フォーラム			
開催日	11月17日（土）	会場	大阪学院大学

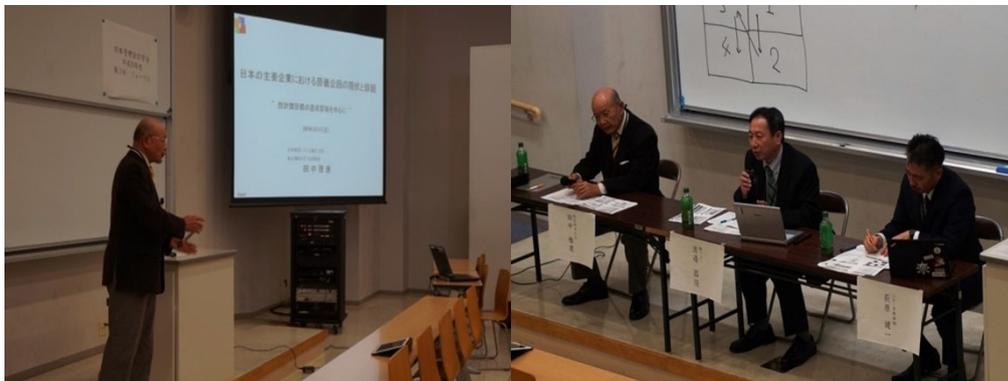
特別講演：	
	「アメーバ経営の原点と制約理論の展開—あたらしい経営会計の展望—」 石田秀樹（元京セラ(株)常務取締役・経営管理本部長）
自由論題	
	「中国企業におけるアメーバ経営の導入と展開」 ト 志強（大阪市立大学）
	「京セラフィロソフィに関する研究」 古田隆紀（大阪学院大学）
	「原価企画思考の適用領域拡大—おせち『板前魂』における原価企画—」 中野延市（(株)ナカノモードエンタープライズ）
	「ERP のシステム連携とその影響について—今後の改訂に対する意思決定の考察—」 佐藤正隆（慶應義塾大学大学院生）

2019年度			
第1回フォーラム			
開催日	4月20日（土）	会場	麗澤大学
特別講演：			
	「千葉県初のご当地レザー『柏レザー』の誕生—NUIZA 縫 EMON 柏の試み—」 飯島暁史（柏レザー(株)代表取締役）		
自由論題			
	「リコールコストの現状と課題」 長谷川泰隆（麗澤大学）		
	「予算管理におけるマネジャーの管理可能性の認知と行動の関係—インタビューデータの分析を起点とした考察—」 町田遼太（早稲田大学大学院博士後期課程）		
	「日本企業の海外進出と内部統制」 藤野真也（麗澤大学）		
第2回フォーラム			
開催日	7月20日（土）	会場	中村学園大学
特別講演：			
	「恋する管理会計（Dear my staff 株式会社 山口油屋福太郎のケース）」 樋口元信（(株)山口油屋福太郎 常務取締役）		
自由論題			
	「役割曖昧性と業績評価に関する研究動向」 足立 洋（県立広島大学）		
	「原価企画・再考—マツダのケースを手がかりに—」 丸田起大（九州大学）		
	「ホテル企業 E 社によるバランスト・スコアカードを用いた会計教育の実践と今日的意義」 宮地晃輔（長崎県立大学）		

2020年度			
第1回フォーラム			
開催日	4月18日(土)	会場	横浜国立大学
新型コロナウイルスの感染拡大を受けて中止となりました。			
第2回フォーラム			
開催日	7月18日(土)	会場	専修大学神田校舎
特別講演:			
	「オムロンの ROIC 経営・技術経営」水本智也 (オムロン(株)グローバル理財本部企画部)		
第3回フォーラム			
開催日	11月14日(土)	会場	長崎県立大学佐世保校
特別講演:			
	「株式会社亀山電機のバランスト・スコアカード (BSC)」 北口功幸 ((株)亀山電機 代表取締役会長)		
自由論題			
	「日本における統合報告の現状—インタビュー調査に基づいて—」李 会爽 (福岡大学)		
	「病院 TDABC モデルの開発」水野真実 (九州大学)		



2010 年度第 1 回フォーラムの様子（横浜国立大学）



2016 年度第 3 回フォーラムの様子（目白大学新宿キャンパス）

5 研修プログラム／リサーチセミナー

日本管理会計学会（以後、JAMA と略称）の今ひとつの特色は、研修プログラム（1999年～2004年）およびリサーチセミナー（2002年～現在）を通じた学会員の研究能力支援活動にある。もともと、JAMAの全身である数理会計研究会のころから、「月例研究会」と称する少人数の勉強会が開かれた。JAMAの設立後も1990年代中頃まで、主に東京理科大学を会場に「月例研究会」は継続した。

大学院生や大学院修了直後の若手研究者の研究能力支援を目的として、月例研究会を見直し、全国大会の併設イベントとして「研修プログラム」が開かれるようになった。また、2002年から始まった「リサーチセミナー」では、実際に行われている実証研究について話を聞き、議論を交わすことによって、研究方法の研鑽を積む場所が提供されている。

（1）研修プログラム

第1回研修プログラム			
会 場	福岡大学（1999年度全国大会開催）	開催日	1999年9月6日(月)
「エンピリカル・リサーチの方法と実践」古賀健太郎（早稲田大学）			
「会計教育・研究におけるインターネットの活用」成田 博（高千穂商科大学）			

第2回研修プログラム			
会 場	東京理科大学	開催日	1999年12月12日(日)
「実証的研究のための統計分析」篠崎信雄（慶應義塾大学）			

第3回研修プログラム			
会 場	上智大学（2000年度全国大会開催）	開催日	2000年9月15日(金)
「企業価値の評価と残余利益モデル」福井義高（東北大学）			
「CAPMと資本コスト」葛山康典（早稲田大学）			
「質問紙調査の設計と分析」高橋弘司（三重大学）			

第4回研修プログラム			
会 場	東北大学（2001年度全国大会開催）	開催日	2001年10月27日(土)
「統計処理の基礎／回帰分析」佃 良彦（東北大学）			
「会計ビッグバンの現在：減損会計，時価会計」小林伸行（公認会計士）			

第5回研修プログラム			
会 場	横浜市立大学(2002年度全国大会開催)	開催日	2002年9月8日(土)
「中国・香港の経済と税制・会計制度」西川京子(公認会計士)			
「資本市場に関連した会計研究の展望」薄井 彰(法政大学)			
「CD-ROMによるビジネス・ゲーム演習」野々山隆幸(横浜市立大学)			

第6回研修プログラム			
会 場	関西学院大学(2003年度全国大会開催)	開催日	2003年9月7日(日)
「会計学の研究方法—研究デザインと哲学・思想—」上埜 進(甲南大学)			
「研究の進め方：修士論文・博士論文を書くために」鹿島幸治(University of Washington)			

第7回研修プログラム			
会 場	立教大学(2004年度全国大会開催)	開催日	2004年9月15日(水)
「コンピュスタットを使ったアメリカ企業の財務分析」青木茂男(東京国際大学)			

(2) リサーチセミナー

2002年度第1回リサーチセミナー			
会 場	青山学院大学	開催日	2002年6月29日(土)
「会計ベースの企業評価モデルによる投資戦略」八重倉孝(筑波大学)			
「会計利益とランダムウォーカー利益変動の持続性に関する実証研究—」高橋美穂子(東北大学)			

2002年度第2回リサーチセミナー			
会 場	青山学院大学	開催日	2002年12月21日(土)
“Using the Duality of Input-Output Analysis for Cost and Revenue Allocations: With Extensions to Markov Process and Dynamic Programming” 金田直之(筑波大学)			
“Market Liquidity around Quartely Earnings Announcements: Evidence from Japan” 音川和久(神戸大学)			

2002年度第3回リサーチセミナー			
会 場	青山学院大学	開催日	2003年3月15日(土)
“More Stylized Facts before Theorizing: Toward a Data Acceptable Ohlson Model” 福井義高(青山学院大学)			
「新規公開株式の株価と企業価値—企業価値評価モデルによる株価の検証—」大鹿智基(早稲田大学)			

2003 年度第 1 回リサーチセミナー			
会 場	青山学院大学	開催日	2003 年 5 月 24 日(土)
“Initial Reaction of the Capital Market to the Introduction of Stock Option Plans in Japan” 野口晃弘 (名古屋大学)			
「M&A は株主価値を増加させるか」 薄井彰 (早稲田大学)			

2003 年度第 2 回リサーチセミナー			
会 場	青山学院大学	開催日	2003 年 11 月 15 日(土)
「上場子会社利益と親会社・子会社株価」 奥村雅史 (早稲田大学)			
「株価を基礎としたブランド価値評価モデルの実証研究」 緒方 勇 (東北大学)			

2004 年度第 1 回リサーチセミナー			
会 場	青山学院大学	開催日	2004 年 6 月 26 日(土)
“Voluntary Disclosure, Non-Japanese Ownership, and the Cost of Equity Capital : An Empirical Study” 内野里美 (早稲田大学)			
「連結ベースの配当政策と株価形成」 石川博行 (大阪市立大学)			

2004 年度第 2 回リサーチセミナー			
会 場	早稲田大学	開催日	2005 年 3 月 29 日(火)
「個別データと連結データの”ずれ”の分析—位相図を加味して—」 福多裕志 (法政大学)			
「監査の質と利益の価値関連性」 矢澤憲一 (一橋大学)			

2005 年度第 1 回リサーチセミナー			
会 場	早稲田大学	開催日	2005 年 10 月 29 日(土)
「個人情報漏洩事件に対する株式市場の反応」 河路武志 (成蹊大学)			
「創業社長が新規株式公開のアンダープライシングに及ぼす影響」 梅沢俊浩 (北九州市立大学)			

2005 年度第 2 回リサーチセミナー			
会 場	大阪府立大学	開催日	2006 年 1 月 28 日(土)
「財務的指標と非財務的指標との関係性：バランス・スコアカードの観点から」 河合隆治 (桃山学院大学), 坂口順也 (関東学園大学)			
「業績測定・評価のイノベーションに関する予備的考察—成果報酬システムを中心として—」 窪田祐一 (大阪府立大学), 近藤隆史 (長崎大学), 相原基大 (北海道大学), 福田直樹 (追手門学院大学)			

2005 年度第 3 回リサーチセミナー

会 場	青山学院大学	開催日	2006 年 3 月 18 日(土)
「液晶ディスプレイ産業における知識スピルオーバーと研究開発生産性」大西宏一（知的財産研究所）			
「回収可能価額の測定に関する実証分析－減損会計の早期適用企業を中心に－」 川島健司（千葉商科大学）			

2006 年度第 1 回リサーチセミナー

会 場	早稲田大学	開催日	2006 年 5 月 27 日(土)
「減損会計基準の適用における利益マネジメント－早期適用企業を用いた実証分析－」 榎本正博（東北大学）			
「経営破たん予測モデルの構築について」丸山博哉（早稲田大学）			

2006 年度第 2 回リサーチセミナー

会 場	大阪府立大学	開催日	2007 年 1 月 27 日(土)
「京セラ・アメーバ経営と責任会計：投資中心点としてのアメーバ組織」潮 清孝（京都大学）			
「企業価値経営における業績指標の考察：経済的利益と FCF」安酸建二（流通科学大学）			

2006 年度第 3 回リサーチセミナー

会 場	青山学院大学	開催日	2007 年 3 月 24 日(土)
“Financial Value Mapping” 柳良平（エーザイ(株)）			
「Ohlson（2001）のモデルに基づく会計情報の価値関連性の検証－研究開発投資の価値関連性を通して－」 矢内一利（青山学院大学）			

2007 年度第 1 回リサーチセミナー

会 場	早稲田大学	開催日	2008 年 2 月 2 日(土)
「収益と費用の対応，利益のボラティリティ，利益のキャッシュフロー予測能力の関係」 海老原崇（武蔵大学）			
「配当情報が企業の保有する過剰な流動性価値に与える影響」三宅淳司（早稲田大学）			

2008 年度第 1 回リサーチセミナー

会 場	早稲田大学	開催日	2008 年 4 月 19 日(土)
「中小企業の M&A とその成功要件」大山智章（東京商工会議所）			
「わが国企業における報告利益の管理」中原大輔（早稲田大学）			

2008 年度第 2 回リサーチセミナー

会 場	筑波大学	開催日	2008 年 10 月 18 日(土)
「事業定義と企業成長の関係に関する研究」若林広二（日本大学）			
「標準報酬規程廃止後の監査報酬の価値関連性分析」大谷泰彦（公認会計士）			

2009 年度第 1 回リサーチセミナー

会 場	大阪大学	開催日	2009 年 10 月 10 日(土)
“The Functions of Strategic Management Control for NPD Performance Enhancement” 山根里香（東京理科大学）			
“The Function of Strategic Management Control and Product Development Management Control: The Case of Japanese Manufacturing Industry” Kim Jae Wook（大阪大学）			

2009 年度第 2 回リサーチセミナー

会 場	筑波大学	開催日	2010 年 3 月 13 日(土)
「研究開発投資の会計処理に関する一考察」吉井貴充（筑波大学大学院）			
「多角化経営におけるシナジー効果の評価と分析」鈴木竜児（公認会計士・早稲田大学大学院）			

2010 年度第 1 回リサーチセミナー

会 場	早稲田大学	開催日	2010 年 12 月 11 日(土)
「自律的組織の利益帰属にみる正常利益概念に関する研究—京セラグループの事例を中心に—」 鈴木寛之（一橋大学大学院）			
「敵対的 TOB と経営者の情報開示」花村信也（早稲田大学大学院）			

2011 年度第 1 回リサーチセミナー

会 場	早稲田大学	開催日	2011 年 7 月 23 日(土)
「ホテル産業の戦略管理会計に関する研究」吉岡勉（亜細亜大学大学院）			
「マネジメント・コントロールによる製品イノベーションの創発」福島一矩（西南学院大学）			

2011 年度第 2 回リサーチセミナー

会 場	福岡大学	開催日	2011 年 11 月 12 日(土)
「マネジメント・コントロールと製品イノベーションの関係—質問票調査に基づく探索的研究—」 福島一矩（西南学院大学）			
「原価企画がうまく機能するための条件：逆機能の解消に向けて」加藤典生（大分大学）			
「IFRS 導入が管理会計に与える影響について」関口善昭（SAP ジャパン(株)）			
「これからの管理会計を考える—現代という時代と管理会計—」西村明（別府大学）			

2012 年度第 1 回リサーチセミナー

会 場	産業能率大学	開催日	2012 年 6 月 23 日(土)
「戦略のカスケードと方針展開 —医療機関の事例を中心に」 関谷浩行 (城西国際大学)			
「戦略マップがマネジャーの心理に与える影響の考察—文献レビューを中心に—」 妹尾剛好 (和歌山大学)			

2012 年度第 2 回リサーチセミナー

会 場	青山学院大学	開催日	2012 年 11 月 10 日(土)
「研究開発活動の測定・評価に関する—考察—実証研究のレビューを中心として—」 間普崇 (関東学園大学)			
「予算制度・年次計画への日本企業の期待と不満—質問紙調査による時系列比較—」 丹生谷晋 (出光興産)・小倉昇 (青山学院大学)			

2013 年度第 1 回リサーチセミナー

会 場	甲南大学	開催日	2013 年 6 月 15 日(土)
「振替価格の設定に関する研究—マイクロ経済学的研究を中心に—」 尾花忠夫 (関西学院大学院生)			
「日本企業における BSC 導入事例について—戦略策定機能を中心に—」 金紅花 (新潟大学院生)			

2013 年度第 2 回リサーチセミナー

会 場	早稲田大学	開催日	2013 年 12 月 7 日(土)
「RIV 及び OJ モデルを用いた株式市場における資本コストの研究 ~日本株式市場と海外市場の比較」 新谷理 (早稲田大学院生)			
「医療組織を対象とした管理会計研究の現状と課題~非営利組織の特質を踏まえた諸外国の文献レビュー —をもとに」 藤原靖也 (神戸大学院生)			

2014 年度第 1 回リサーチセミナー

会 場	名古屋大学	開催日	2014 年 11 月 1 日(土)
「行動ファイナンスへの招待」 加藤英明 (名古屋大学)			
“Stock Crash and R-squared around a Catastrophic Event: Evidence from the Great East Japan Earthquake” 山本達司 (大阪大学)			

2015 年度第 1 回リサーチセミナー

会 場	名古屋大学	開催日	2015 年 6 月 20 日(土)
「自動車ボデーの生産準備と DE 活用—生産技術の役割—」 井上眞一 (トヨタ自動車)			
「原価企画に対するエンジニアの受容」 小林英幸 (名古屋大学院生)			

2016 年度第 1 回リサーチセミナー (企業研究会との共催)			
会 場	センコー株式会社	開催日	2017 年 3 月 14 日(火)
「ビッグデータの利用と経営戦略」岡村久和 (亜細亜大学)			

2017 年度第 1 回リサーチセミナー			
会 場	福岡大学	開催日	2017 年 7 月 6 日(木)
“Switching Management Control System Use: A Construction Machinery Manufacturer Case” 浅田拓史 (大阪経済大学)			
“Incomplete performance measures from a collectivistic view” 藤野雅史 (日本大学)			
“Sustainability Management Control Systems in the Context of New Product Development: A Case Study on a Japanese Electronics Company” 木村麻子 (関西大学)			

2017 年度第 2 回リサーチセミナー			
会 場	明治大学	開催日	2017 年 10 月 21 日(土)
「顧客志向における価格決定についての考察」浅石梨沙 (一橋大学院生)			
「エマージェント組織のインタンジブルズ・マネジメント—A 社のケーススタディー— 梅田宙 (専修大学)			

2018 年度第 1 回リサーチセミナー			
会 場	青山学院大学	開催日	2018 年 6 月 30 日(土)
「職能横断プロジェクトにより遂行される製品開発の予算管理—予算執行段階に着目して— 中村正伸 (香川大学大学院)			
「公会計がマネジメントに活用されないのはなぜか—ニュー・パブリック・マネジメントの考え方と日本のしくみ—」掛谷純子 (京都女子大学)			

2018 年度第 2 回リサーチセミナー			
会 場	明治大学	開催日	2018 年 10 月 6 日(土)
「品質とコストに対する原価情報の役割と課題」飯塚隼光 (一橋大学院生)			
「中国中小電力企業への MFCA 適用可能性に関する一考察」蒙 雪超 (創価大学)			

2019 年度第 1 回リサーチセミナー			
会 場	青山学院大学	開催日	2019 年 6 月 29 日(土)
「不正会計が株価に与える影響—金融庁課徴金制度からの考察—」海老原佑 (東京理科大学院生)			
「制度的複雑性の下での管理会計変化」庄司豊 (京都大学院生)			

「インタンジブルズ・マネジメントの統合化—コミュニケーション, 戦略管理, 価値創造— 梅田充 (専修大学)

2019 年度第 2 回リサーチセミナー			
会 場	法政大学	開催日	2019 年 10 月 25 日(金)
“The select and the use of GHG indicators for environmental management control” 東田明 (名城大学)			
“The role of accounting inscription on biodiversity conservation” 李燕 (拓殖大学)			
“Managing Stakeholder Conflicts: Organized hypocrisy, Organizational Facades, and Sustainability Reporting” Charles Cho (Schulich School of Business, York University, CA)			

2020 年度第 1 回リサーチセミナー	
中止	

2020 年度第 2 回リサーチセミナー			
会 場	京都大学	開催日	2020 年 10 月 31 日(土)
『『シンプル』 管理会計の探究—医療機関における設備投資の事例から— 古井健太郎 (松山大学)・飯塚隼光 (一橋大学院生)			
「チームにおけるラチェット効果に関する実験研究」 小山真実 (神戸大学院生)			
「IT による業務プロセスの効率化投資とインセンティブ契約」 若林利明 (上智大学)			



2012 年度第 1 回リサーチセミナーの様子 (産業能率大学自由が丘キャンパス)



2018 年度第 1 回リサーチセミナーの様子 (青山学院大学青山キャンパス)

6 九州部会

九州部会は、日本管理会計学会で最初に設立された地方組織である。1999年から2001年に副会長を務められた西村明先生（九州大学名誉教授，別府大学客員教授）を中心として2000年に設立された。山口県も含む九州地域の会員は40名を超え，毎年2～3回のペースで部会を開催しており，2021年5月で通算60回開催の節目を迎えた。これまで関西・中部部会やAsia-Pacific Management Accounting Forumとの共催，およびフォーラムやリサーチセミナーも多数開催してきた。

第1回 九州部会			
開催日	2000年4月22日（土）	会場	西南学院大学
自由論題			
	「フランス管理会計の現状とそこから学ぶもの」大下丈平（九州大学）		
特別講演			
	「はせがわの企業戦略」長谷川裕一氏（株はせがわ）		
第2回 九州部会			
開催日	2000年7月1日（土）	会場	九州産業大学
自由論題			
	「会計情報システム設計のためのホームページの作成」金川一夫氏（九州産業大学）		
	「企業価値向上のための知的資産管理の重要性—管理会計的考察—」浜田和樹氏（西南学院大学）		
特別講演			
	「リンガーハットグループの経営戦略」米濱和秀氏（リンガーハットグループ代表取締役社長）		
第3回 九州部会			
開催日	2000年12月9日（土）	会場	九州大学
自由論題			
	「多目的意思決定とファジー線形計画モデル—非線形メンバーシップ関数適用の射程—」 小野博則氏（下関市立大学）		
	「地方自治体の管理会計—確立と課題—」古賀 勉氏（福岡大学）		
第4回 九州部会			
開催日	2001年4月21日（土）	会場	福岡大学
自由論題			

	「デュポン火薬会社における原価管理の展開」高栢真一氏（久留米大学）		
	「フランス自治体管理会計」中西 一氏（佐賀大学）		
第5回 九州部会			
開催日	2001年8月25日（土）	会 場	九州大学
自由論題			
	「Carron Company における原価管理 1759-1793」相川奈美氏（九州産業大学院生）		
	「マッキンゼー『予算統制』における報告システム—「責任」の視点から」北村浩一氏（鹿児島大学）		
	「タイムコストの一考察」水島多美也氏（日本文理大学）		
第6回 九州部会			
開催日	2001年12月1日（土）	会 場	西南学院大学
自由論題			
	「原価企画のフィードフォワード構造」丸田起大氏（佐賀大学）		
	「管理会計モデルの開発と導入」吉田康久氏（九州産業大学）		
	「専修学校の現状と課題—少子化傾向と高失業率社会の中で」野見山公宏氏（嘉穂経理専門学校）		
第7回 九州部会			
開催日	2002年4月20日（土）	会 場	福岡大学
自由論題			
	「R.マイヤーのキャパシティ原価計算に関する一考察」和田伸介氏（九州大学院生）		
	「アメリカにおける品質原価計算の展開—食品加工企業の事例」浦田隆広氏（久留米大学）		
	「セル生産におけるマネジメント・コントロールと管理会計」小沢 浩氏（西南学院大学）		
第8回 九州部会			
開催日	2002年7月27日（土）	会 場	九州大学
特別講演			
	「三菱造船所原価計算研究余話」山下正喜氏（熊本学園大学）		
自由論題			
	「Relational Database Soft による顧客管理システム構築の指導」新茂則氏（中村学園大学）		
	「インターネットを利用した会計ディスクロージャー—任意開示を中心として—」 岡田裕正氏（長崎大学）		
アジア管理会計フォーラム（九州部会／関西・中部部会共催）			
開催日	2002年11月2日（土）・3日（日）	会 場	九州大学

第1部「アジアの管理会計の現状」			
	「アジアにおける管理会計実践」 マリア・スレイマン氏（国際イスラム大学・マレーシア）		
	「エレクトロニクス産業の日本企業の国際管理会計の実践」 宮本寛爾氏（大阪学院大学）・小菅正伸氏（関西学院大学）		
	「中国における責任原価統制システム—管理会計の応用のケース—」 林志軍市（香港バプテスト大学）		
	「韓国管理会計実務の状況」 シン・ジョンヨン氏（韓国大学，韓国管理会計学会会長）		
第2部「東南アジアの管理会計の実態と比較研究」			
	西村 明氏（九州産業大学）		
	スパブン・ルッタナポルン氏（チュラロンコン大学・タイ）		
	ピチャン・ヨケ・カイ氏（ナンヤン工科大学・シンガポール）		
	イブラハム・カマル・ラーマン氏（マラ工科大学・マレーシア）		
	ノーマ・オマール氏（マラ工科大学・マレーシア）		
第9回 九州部会			
開催日	2003年4月19日（土）	会 場	中村学園大学
自由論題			
	「改善効果評価計算」 小沢 浩氏（西南学院大学）		
	「減収創益経営の計画と実践」 嶋田利弘氏（(有)RE 経営）		
第10回 九州部会			
開催日	2003年7月19日（土）	会 場	九州産業大学
特別講演			
	「製品別利益管理としての原価企画」 田中雅康氏（東京理科大学）		
自由論題			
	「自治体責任センター構築の国際比較（日仏英米）」 中西 一氏（佐賀大学）		
	「米国における株主価値経営の失敗」 昆 誠一氏（九州産業大学）		
第11回 九州部会			
開催日	2003年11月22日（土）	会 場	西南学院大学
自由論題			
	「インターネットによる会計ディスクロージャーの現状と課題」 新 茂則氏（中村学園大学）		
	「管理会計—フィードフォワードとアジアの視点—」 西村明氏（九州産業大学）		
第12回 九州部会			

開催日	2004年4月24日(土)	会場	福岡大学
特別講演:			
「松下電器の経営改革—全体最適のグループ経営—」河合靖彦氏(松下電器産業㈱)			
自由論題			
「業績評価と時間の問題」水島多美也氏(日本文理大学)			
第13回 九州部会			
開催日	2004年7月24日(土)	会場	九州大学
自由論題			
「知的資産をめぐる会計上の諸問題」木村麻子氏(九州産業大学)			
「製品原価計算システムにおける正確性について」片岡洋人氏(大分大学)			
「企業再生ファンドについて」浅川哲郎氏(浅川国際経営研究所, 米国公認会計士)			
第14回 九州部会			
開催日	2004年11月20日(土)	会場	九州産業大学
自由論題			
「非営利組織の活動の開示に関する考察」梅津亮子氏(九州産業大学)			
「中国における管理会計研究の動向」水野一郎氏(関西大学)			
第15回 九州部会			
開催日	2005年4月16日(土)	会場	西南学院大学
自由論題			
「病院の原価計算」浅川一郎氏(九州大学院生)			
「研究開発におけるプロセス管理の重要性」木村麻子氏(九州産業大学)			
「中国管理会計実践の発展動向」馮 巧根氏(南京大学・中国)			
第16回 九州部会			
開催日	2005年7月16日(土)	会場	九州大学
自由論題			
「会社法制の現代化と会計」岩崎 勇氏(九州大学)			
「医療関連の原価計算・管理会計」大崎泉美氏(大分大学)			
第17回 九州部会			
開催日	2005年12月3日(土)	会場	福岡大学
特別講演			

「原価企画の現状と課題」 田中雅康氏（諏訪東京理科大学）			
自由論題			
「知的財産の企業業績への影響」 木村麻子氏（九州産業大学）			
「自律的組織のコントロールに関する一考察」 片岡洋人氏（大分大学）			
第18回 九州部会			
開催日	2006年4月22日（土）	会場	西南学院大学
自由論題			
「タイムコストの検討」 水島多美也氏（日本文理大学）			
「投資利益率に基づく価格設定の生成と展開」 高栢真一氏（久留米大学）			
「ものづくり企業における戦略とツール」 八尋寛司氏（財団法人北九州産業学術推進機構）			
第19回 九州部会			
開催日	2006年7月22日（土）	会場	九州産業大学
自由論題			
「電気通信の料金規制にみる原価の弾力性—公正報酬率規制と長期増分費用方式を中心に—」 高野 学氏（西南学院大学）			
「原価計算の現代的な役割期待と意思決定」 片岡洋人氏（大分大学）			
「財務諸表における環境会計情報の開示について」 小川哲彦氏（佐賀大学）			
第20回 九州部会			
開催日	2006年12月2日（土）	会場	福岡大学
自由論題			
「連結経営における管理会計システムの諸相—経済付加価値概念を基礎とする業績評価システムを中心として」 飛田 努氏（九州東海大学）			
「業績指標としての包括利益概念」 中村美保氏（大分大学）			
第21回 九州部会			
開催日	2006年4月21日（土）	会場	九州産業大学
自由論題			
「人的資源の測定方法に関する一考察」 臼谷健一氏（鹿児島県立短期大学）			
「多品種一品生産企業の原価企画」 木下和久氏（沖縄国際大学）			
第22回 九州部会			
開催日	2007年8月4日（土）	会場	九州大学

特別講演			
「日本会計研究学会九州部会の過去、現在、未来」西村 明氏（別府大学、九州大学名誉教授）			
自由論題			
「CSR 会計の動向と論点」宮地晃輔氏（長崎県立大学）			
「経営管理システムとしての管理会計の生成」高栢真一氏（久留米大学）			
「信託の会計と税務－信託会計の基本とパス・スルー課税を中心として－」 末永英男氏（熊本学園大学）			
第 2 3 回 九州部会			
開催日	2007 年 11 月 17 日（土）	会 場	中村学園大学
自由論題			
「IFRS 適用によるドイツ・コントローリング論の変容」和田伸介氏（大阪商業大学）			
「利益と時間に関する一考察－制約理論を中心として－」水島多美也氏（中村学園大学）			
「TOPIX のテクニカル分析」新 茂則氏（中村学園大学）			
第 2 4 回 九州部会			
開催日	2008 年 4 月 19 日（土）	会 場	西南学院大学
自由論題			
「トヨタ・パブリカ開発における原価企画」丸田起大氏（九州大学）			
「内部統制報告制度の意義と動向」蟹江 章氏（北海道大学）			
“Survey of Environmental Management Accounting Practices of Japan Affiliates in Thailand”, Duangmanee Komaratat（Chulalongkorn University, Thailand）			
第 2 5 回 九州部会			
開催日	2008 年 7 月 29 日（土）	会 場	福岡大学
自由論題			
「病院における医療従事者の実感を加味した部門別損益計算の検討」 佐藤浩人氏（立命館アジア太平洋大学）			
「インタンジブルズ管理における指標間因果関係の重要性」木村麻子氏（関西大学）			
「長崎県立病院の現状と課題－公表財務・経営データに基づく分析を中心として－」 近藤隆史氏（長崎大学）・岡田裕正氏（長崎大学）			
第 2 6 回 九州部会			
開催日	2008 年 11 月 22 日（土）	会 場	九州産業大学
自由論題			

「価値重視の病院経営と病院原価計算」 足立俊輔氏（九州大学院生）			
「中国病院原価計算の組織と実施」 蔣 益鳴氏（熊本学園大学院生）			
「わが国管理会計の書誌学的研究：1980-2007」 吉田栄介氏（慶應義塾大学）・近藤隆史氏（長崎大学）・福島一矩氏（慶應義塾大学院生）・妹尾剛好氏（慶應義塾大学院生）			
第27回 九州部会			
開催日	2009年4月25日（土）	会場	中村学園大学
自由論題			
『原価計算基準』における価格計算目的の意義 高野 学氏（西南学院大学）			
“Management control for product innovation in a rapidly changing environment: Tension between budget and product roadmap”, Chris Akroyd (University of Auckland, New Zealand)・堀井悟志氏（立命館大学）			
第28回 九州部会 兼 第2回フォーラム			
開催日	2009年7月4日（土）	会場	九州大学
統一論題「内部統制と企業経営—内部統制は企業経営にどのような影響を与えたか—」			
「内部統制報告制度の概要と実務上の対応」 富田昭仁氏（監査法人トーマツ）			
「内部統制監査をめぐる諸問題」 伊藤龍峰氏（西南学院大学）			
「CEOの内部統制への取り組み」 別府正之助氏（中日本高速道路㈱）			
第29回 九州部会 兼 5th Asia-Pacific Management Accounting Forum			
開催日	2009年10月31日（土）～11月2日（月）	会場	別府大学
九州部会と The Asia-Pacific Management Accounting Association (APMAA：アジア太平洋管理会計学会)の共催で、第5回アジア太平洋管理会計フォーラムを開催。			
第30回 九州部会			
開催日	2010年4月24日（土）	会場	西南学院大学
自由論題			
「組織スラックの創出・運用における銀行の役割」 田尻敬昌氏（九州大学院生）			
「IFRSと管理会計の関連性について—ドイツ管理会計士の役割を中心に—」 和田伸介氏（大阪商業大学）			
「マッキンゼー『予算統制』の budgetary control と企業予算システムの展開・発展」 北村浩一氏（鹿児島大学）			
「品質原価計算の構造と機能」 浦田隆広氏（久留米大学）			

第31回 九州部会			
開催日	2010年7月24日(土)	会場	西南学院大学
自由論題			
	「デュポン社のコントロール・チャートによる業績評価の展開」高栢真一氏(久留米大学)		
	「米国病院原価計算の一考察—相対価値尺度(RVU)を中心として」足立俊輔氏(九州大学院生)		
	「価格計算目的が『原価計算基準』に組み入れられた理由」高野 学氏(西南学院大学)		
第32回 九州部会			
開催日	2010年11月20日(土)	会場	九州産業大学
自由論題			
	「組織の成長とマネジメント・コントロールの関係性—郵送質問票調査に基づく実証研究—」 福島一矩氏(西南学院大学)		
	「原価企画に求められる役割期待の多様化—意思決定支援機能が及ぼす業績評価とサプライヤーの 疲弊問題への影響—」加藤典生氏(大分大学)・望月信幸氏(熊本県立大学)		
	「原価企画研究の新展開と課題—サービス業への適用可能性—」田坂 公氏(久留米大学)		
	「中小企業の経営戦略におけるパフォーマンス測定」 出水秀治氏(出水・コンピュータ・コンサルティング)		
第33回 九州部会			
開催日	2011年4月16日(土)	会場	中村学園大学
自由論題			
	「地域金融機関の業績評価制度—現場での実践と戦略実行—」篠原巨司馬氏(福岡大学)		
	「財務会計と管理会計の関係性再考—相互浸透とレレバンス・ロスト—」 島田美智子氏(下関市立大学)		
	「ライフサイクル・コストを適用した政策形成—発電技術への適用を事例として—」 矢澤信雄氏(別府大学)		
	「暗黙知の練磨に管理会計はどう貢献できるか—TPSの視点を踏まえて—」 今井範行氏(トヨタファイナンシャルサービス(株), 名城大学)		
第34回 九州部会			
開催日	2011年7月23日(土)	会場	鹿児島大学
自由論題			
	「組織スラック形成と利益マネジメントに関する一考察」田尻敬昌氏(九州大学院生)		
	「自動車解体業への試案 MFCA」木村眞実氏(徳山大学)		
	「日本とドイツにおける原価計算実践の比較研究—アンケート調査の結果から—」		

	和田伸介氏 (大阪商業大学)		
	「サービス業における原価企画の論点一定義と体系化」 田坂 公氏 (久留米大学)		
第35回 九州部会 兼 第2回リサーチセミナー			
開催日	2011年11月12日(土)	会場	福岡大学
自由論題			
	「マネジメント・コントロールと製品イノベーションの関係—質問票調査に基づく探索的研究—」 福島一矩氏 (西南学院大学)		
	「原価企画がうまく機能するための条件—逆機能の解消に向けて—」 加藤典生氏 (大分大学)		
	「IFRS 導入が管理会計に与える影響について」 関口善昭氏 (SAP ジャパン株式会社)		
	「これからの管理会計を考える—現代という時代と管理会計—」 西村 明氏 (別府大学)		
第36回 九州部会			
開催日	2012年4月21日(土)	会場	九州大学
自由論題			
	「デュポン社のベンチャー事業分析におけるキャッシュ・フローの役割」 高栢真一氏 (久留米大学)		
	「中国病院管理会計—「績効工資」(変動給)制度の限界—」 蔣 益鳴氏 (熊本学園大学院生)		
	「福岡県における病院組織の変遷」 浅川哲郎氏 (九州産業大学)		
	「商品市場適合率の考察」 出水秀治氏 (出水・コンピュータ・コンサルティング)		
第37回 九州部会			
開催日	2012年7月28日(土)	会場	西南学院大学
自由論題			
	「財務報告の管理会計化—Zambon[2011]の所説に寄せて—」 島田美智子氏 (下関市立大学)		
	「コントロールのパラドックスと管理会計—『レレバンス・ロスト』の意義を考える—」 大下丈平氏 (九州大学)		
	「不動産企業の時価情報開示と株価—賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準の適用による 株価の影響—」 新 茂則氏 (中村学園大学)		
第38回 九州部会			
開催日	2012年11月24日(土)	会場	中村学園大学
自由論題			
	「管理会計の現代的課題—回顧と展望—」 西村 明氏 (別府大学)		
	「時間と管理会計技法に関する—考察」 水島多美也氏 (中村学園大学)		

	「デュポン社のベンチャー事業における割当予算の申請と承認」高栢真一氏（久留米大学）		
	「責任会計システムと柔軟性」足立 洋氏（九州産業大学）		
第39回 九州部会			
開催日	2013年4月20日（土）	会 場	九州産業大学
自由論題			
	「米国病院原価計算の発展と価値重視の病院経営」足立俊輔氏（下関市立大学）		
	「中小企業のマネジメントコントロールシステムに関する研究—熊本・福岡の事例を中心として—」 飛田努氏（福岡大学）		
	「英国の行政・公会計改革の取り組み—留学で感じ得たこと—」吉田康久氏（九州産業大学）		
第40回 九州部会 記念大会			
開催日	2013年7月20日（土）	会 場	福岡大学
自由論題			
	「管理会計と目標利益達成の柔軟性」足立 洋氏（九州産業大学）		
	「アメーバ経営の導入効果の検証—コミュニケーション活性化を中心に—」 丸田起大氏（九州大学）		
	「CSR 報告書の評価基準とその課題」矢澤信雄氏（別府大学）		
特別講演			
	「グローバル企業の経営管理と管理会計」宮本寛爾氏（大阪学院大学）		
第41回 九州部会 兼 第3回フォーラム			
開催日	2013年11月16日（土）	会 場	大分大学
特別講演			
	「顧問先の経営成績から大分の景気動向をさぐる」 高橋 幹氏（南九州税理士会大分県連合会副会長）		
	「由布院の観光・まちづくり」桑野和泉氏（由布院玉の湯代表取締役社長）		
	「ダイハツ九州のめざすところ」魚井和樹氏（ダイハツ九州(株)取締役相談役）		
自由論題			
	「A 社造船所における新造船事業の採算性改善のための方策」宮地晃輔氏（長崎県立大学）		
第42回 九州部会 兼 関西・中部部会			
開催日	2014年4月19日（土）	会 場	下関市立大学
自由論題			
	「アメーバ経営における時間当り採算での時間の意味」水島多美也氏（中村学園大学）		

「小規模事業者への管理会計の仕組みの導入の実情」岡本健一氏（タスクサポート(株)）			
「財務報告の”Managerialisation”と会計変化の今日的意味—Zambon [2011]の解釈を通じて—」 島田美智子氏（下関市立大学）			
第43回 九州部会			
開催日	2014年7月26日（土）	会 場	九州大学
自由論題			
「英国プロサッカークラブにおける人的資源の会計と管理の事例研究」角田幸太郎氏（別府大学）			
「グループ子会社における CSR マネジメント・コントロールの事例研究」 黒瀬浩希氏（九州大学院生）			
「自動車静脈系サプライチェーンへの試案 MFCA」木村眞実氏（沖縄国際大学）			
「企業経営戦略とリスクマネジメント」西村明氏（九州大学名誉教授）			
第44回 九州部会			
開催日	2014年11月22日（土）	会 場	西南学院大学
自由論題			
「日本企業の品質コスト志向性：実態調査に基づく探索的分析」 吉田栄介氏（慶應義塾大学）・徐智銘氏（慶應義塾大学院生）			
「東日本大震災以降の電気事業における総括原価方式の役割」高野 学氏（西南学院大学）			
「オバマ改革以降の病院マネジメントシステムの変化について」浅川哲郎氏（九州産業大学）			
「フルーガル・エンジニアリングと原価企画」田坂 公氏（久留米大学）			
第45回 九州部会			
開催日	2015年4月18日（土）	会 場	中村学園大学
自由論題			
「サービス業における原価計算に関する研究—銀行のポスト ABC アクションリサーチを通して—」 谷守正行氏（専修大学）			
「造船業における人的資産・組織資産の高度化への取組みと課題」宮地晃輔氏（長崎県立大学）			
「企業リスクマネジメントと機会／機会原価統制システム」西村明氏（九州大学名誉教授）			
第46回 九州部会			
開催日	2015年7月25日（土）	会 場	九州産業大学
自由論題			
「組織スラックとフィードフォワード・コントロールスラック形成とその戦略的展開」 田尻敬昌氏（九州国際大学）			

「キャリア教育の視点に立った管理会計の指導法について」緒方光行氏（福岡常葉高等学校）			
特別講演			
「デュアルモード管理会計とプロアクティブスラック—予算スラックの順機能性に関する一考察—」 今井範行氏（名城大学）			
第47回 九州部会			
開催日	2015年11月7日（土）	会 場	福岡大学
自由論題			
「社会責任戦略コントロールに関する一考察：全社リスクマネジメント ERM の可能性」 黒岩美翔氏（九州大学院生）			
「自動車解体業への試案 MFCA—樹脂を対象として—」木村眞実氏（沖縄国際大学）			
「日本版スチュワードシップ・コードと ROE 投資」新 茂則氏（中村学園大学）			
「管理会計におけるデリバティブとものづくり」西村 明氏（九州大学名誉教授）			
第48回 九州部会			
開催日	2016年5月14日（土）	会 場	下関市立大学
自由論題			
「管理会計の生成・発展における投資利益率の役割」高栢真一氏（久留米大学）			
「クリニカルパスを介した病院 TDABC の有用性について」足立俊輔氏（下関市立大学）			
「時間管理会計論とその発展」水島多美也氏（中村学園大学）			
第49回 九州部会 兼 第2回フォーラム			
開催日	2016年7月30日（土）	会 場	福岡大学
自由論題			
「管理会計の財務諸表監査に与えるインパクト—管理会計が関連する監査の諸側面—」 結城秀彦氏（監査法人トーマツ）			
「日本の地域金融システムの他国への運用可能性について—中小企業の育成と管理会計の視点から—」 吉原清嗣氏（Development Academy of the Philippines Visiting Fellow, The Vietnam National University Visiting Fellow, 京都大学院生）			
「中小製造企業における管理会計の導入実態に関する研究—長崎県佐世保地域での調査を基礎として—」 宮地晃輔氏（長崎県立大学）			
パネルディスカッション			
座長：大下丈平氏（九州大学），登壇者：結城秀彦氏，吉原清嗣氏，宮地晃輔氏			
第50回 九州部会 記念大会			

開催日	2016年11月19日(土)	会場	九州大学
統一論題「グローバル化の下での管理会計の課題と展望—不確実性・モノづくり・CSR—」			
	「管理会計はどこまで企業現場の競争力を練磨し得るか?—実務視点からの考察—」 今井範行氏(名城大学)		
	「不確実性・リスクの中で管理会計を考える」 西村 明氏(別府大学客員教授,九州大学名誉教授)		
	「日本の主要企業の節目管理」田中雅康氏(広島都市学園大学,東京理科大学名誉教授)		
円卓討論			
座長:大下丈平氏(九州大学),討論者:今井範行氏,西村 明氏,田中雅康氏			
第51回九州部会 兼 関西・中部部会			
開催日	2017年5月6日(土)	会場	西南学院大学
自由論題			
	「病院BSCにおける医療安全の位置づけ」足立俊輔氏(下関市立大学)		
	「米国のオバマ医療制度改革における病院マネジメントシステムの変化」 浅川哲郎氏(九州産業大学)		
	「プロジェクト特性がマネジメント・コントロール・システムに与える影響—コントロール・パッケージの視点から—」島吉伸氏(近畿大学)		
	「鉄工団地中小企業における経営課題と管理会計思考の適用研究—金属加工業の設備投資,品質・人材・在庫問題を事例として—」三浦徹志氏(大阪経済大学)		
第52回九州部会 兼 日本会計研究学会九州部会第100回記念大会			
開催日	2017年7月29日(土)	会場	九州大学
自由論題			
	「自己の信用リスクの変化に起因する金融負債公正価値の変動額を巡る会計処理」 陳 釗氏(九州大学院生)		
	「フランスにおける社会的責任戦略コントロールの一考察」黒岩美翔氏(九州大学院生)		
	「利益率の分布形状を決定する要因は何か?」小谷学氏(熊本学園大学)		
	「管理会計の整備プロセスに関する研究:A社のケーススタディに基づいて」 篠原巨司馬氏(福岡大学)・福島一矩氏(中央大学)・足立洋氏(県立広島大学)		
	「法人所得の特質と税務会計」末永英男氏(熊本学園大学)		
第53回九州部会			
開催日	2017年11月11日(土)	会場	中村学園大学
自由論題			

「中小企業における管理会計の実践レベルに関する研究—長崎県での調査を基礎として—」 宮地晃輔氏（長崎県立大学）			
「中小企業における管理会計の実践レベルに関する研究—熊本県での調査を基礎として—」 吉川晃史氏（熊本学園大学）			
「中小企業における管理会計の実践レベルに関する研究—沖縄県での現場改善—」 木村眞実氏（熊本学園大学）			
第54回 九州部会			
開催日	2018年6月23日（土）	会 場	久留米大学
自由論題			
「組織の構造的特性に関連する『マネジメント・コントロールの罫』についての探索的研究」 新改敬英氏（九州大学院生）			
「原価企画の実験研究—パイロットテストの結果と課題—」 丸田起大氏（九州大学）・篠田朝也氏（北海道大学）			
第55回 九州部会			
開催日	2018年10月20日（土）	会 場	長崎県立大学
自由論題			
「アメーバ経営システムの向上と現場情報との接続—株式会社ヒライの事例—」 吉川晃史氏（熊本学園大学）・吉本政和氏（(株)ヒライ）			
「アメーバ経営の部門別採算制度と利益配分」庵谷治男氏（長崎大学）			
「全社的リスク・マネジメントの展開についての一考察—WBCSDの報告書を中心として—」 黒岩美翔氏（長崎県立大学）			
「CSVと付加価値概念の再考—人本主義管理会計の展開を目指して—」水野一郎氏（関西大学）			
第56回 九州部会			
開催日	2019年5月25日（土）	会 場	九州産業大学
自由論題			
「患者別手術室人件費管理のためのABCモデルとTDABCモデルの開発と比較」 水野眞実氏（医療法人社団寿量会 熊本機能病院）			
「スループット会計における時間に関する一考察」水島多美也氏（中村学園大学）			
「スラックと会計統制モデル—日本製造企業の実態を踏まえて—」 西村 明氏（九州大学名誉教授・別府大学客員教授）			
第57回 九州部会			

開催日	2019年11月9日(土)	会場	九州大学
自由論題			
	「就労継続支援B型事業所における取り組み」田尻敬昌氏(九州国際大学)		
	「タスク・シフティングに病院原価計算が果たす役割」足立俊輔氏(下関市立大学)		
	「現代フランスコントロール論の系譜」大下丈平氏(九州大学)		
第58回九州部会			
開催日	2020年5月23日(土)	会場	熊本学園大学
コロナ禍により延期			
第59回九州部会 兼 第3回フォーラム			
開催日	2020年11月14日(土)	会場	長崎県立大学
特別講演			
	「株式会社亀山電機のバランスト・スコアカード(BSC)」 北口功幸氏((株)亀山電機 代表取締役会長)		
自由論題			
	「日本における統合報告の現状—インタビュー調査に基づいて—」李 会爽氏(福岡大学)		
	「病院TDABCモデルの開発」水野真実氏(九州大学)		
第60回九州部会 記念大会			
開催日	2021年5月22日(土)	会場	熊本学園大学
自由論題			
	「英国プロサッカークラブにおけるマネジメント・コントロールの事例研究」 角田幸太郎氏(熊本学園大学)		
	「公的支援事業を活用した中小企業への利益管理プロセスの定着の可能性」 宮地晃輔氏(長崎県立大学)		
記念講演			
	「リスク・スラック・バランス—企業リスク管理と現代管理会計—」 西村 明氏(九州大学名誉教授・別府大学客員教授)		



第 55 回九州部会の様子（長崎県立大学佐世保校）



第 56 回九州部会の様子（九州産業大学）



第 57 回九州部会の様子（九州大学）

7 関西・中部部会

九州部会に次ぐ2番目の地方組織として2000年11月に関西部会が設立され、関西部会が母体となって2002年に中部地方も含む組織へと拡大され関西・中部部会が生まれた。もともと、京阪神地域の大学間では会計研究者の活発な交流が行われており、また、名古屋を中心とする地域でも日本会計研究学会の中部部会を通じての大学間の交流があり、部会活動の素地はすでにあつた。ただ、関西と中部を分けて小さな研究者グループとして活動するのではなく、関西・中部部会として積極的な活動を目指すことを選択したのだった。

年に2回の部会では、必ず統一論題または特別講演をプログラムに取り入れ、その時々々の先端的な研究課題を議論する場を設けている。なお、2020年度第1回部会は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により11月に延期し、オンラインにて開催した。

2000年度			
第1回 関西部会			
開催日	2000年11月13日(月)	会場	関西学院大学
統一論題:			
	「管理会計の国際比較研究の課題」小菅正伸(関西学院大学)		
	「業務管理の重要性をめぐって」花木孝道(松下電器産業㈱客員)		

2001年度			
第2回 関西部会			
開催日	2001年6月30日(土)	会場	立命館大学
特別講演:			
	「市場経済の進化と会計パラダイムの転換」吉田 寛(神戸商科大学名誉教授)		
統一論題:「管理会計の現代的課題」			
	「組織変革と管理会計」水野一郎(関西大学)		
	「ライフサイクル・コスト・モデルの構築—わが国の核燃料サイクルを中心として—」 竹森一正(中部大学)		
自由論題			
	「子会社方式によるシェアードサービスの導入」園田智昭(慶應義塾大学)		
	「ミニ・プロフィットセンター(MPC)における管理会計情報の役割」 松木智子(神戸大学院生)		
	「日米企業における予算管理の差異分析」朴 景淑(大阪大学院生), 浅田孝幸(大阪大学)		

「会計情報システムの統合化について」坂手啓介（関西学院大学院生）

2002年度			
第1回 関西・中部部会			
開催日	2003年2月15日（土）	会場	甲南大学
統一論題：「管理会計・原価計算教育のあり方を考える」			
	「学部教育のあり方」河田 信（名城大学）		
	「社会人修士課程：専門職業家の教育」山本浩二（大阪府立大学）		
	「博士課程における研究者の養成」浅田孝幸（大阪大学）		
	「実務者教育の現状」古田清和（新日本監査法人，JICPA 兵庫会）		
自由論題			
	「IT を活かした原価計算・管理会計教育」長坂悦敬・上埜進（甲南大学）		
	「ベンチャー企業における管理会計の活用」山田伊知郎（神戸大学院生）・加登 豊（神戸大学）		
	「戦略経営システムにおけるバランスト・スコアカードの役割」 張 翼（大阪大学院生）・浅田孝幸（大阪大学）		
	「多国籍企業におけるバランスト・スコアカードの適用—EVA への統合に向けて—」 朝倉洋子（関西学院大学院生）・小菅正伸（関西学院大学）		

2003年度			
第1回 関西・中部部会			
開催日	2003年7月5日（土）	会場	関西大学
統一論題：「現代企業経営における環境会計の現状と展望」			
	「松下電器の環境経営」今井伸一（松下電器産業㈱）		
	「環境経営におけるマテリアルフローコスト会計の有効性」河野裕司（田辺製薬㈱）		
	「環境会計における費用対効果の現状と課題」平井孝治（立命館大学）		
	「マテリアルフローと環境報告書：持続可能な環境パフォーマンス＜脱化石資源＞に向けて」 富増和彦（奈良産業大学）		
自由論題			
	「日本企業の環境会計情報開示：経年分析と新しい動向」 梨岡英理子（地球環境戦略研究機関・関西研究センター）國部克彦（神戸大学）		
	「ABC の導入事例研究」松尾貴巳（大阪府立大学）		
	「戦略経営に対する管理会計システムの対応—BSC によるプログラミング概念の明確化—」 堀井悟志（京都大学院生）		
	「知的資産と企業価値—人的資産を中心として—」唐楽寧（関西大学院生）		
	「環境パフォーマンス情報の開示に関する一考察」宮武記章（関西学院大学院生）		

「オートバイエシス・システム論に基づく会計研究」堀口真司（神戸大学院生）			
第2回 関西・中部部会			
開催日	2004年2月14日（土）	会場	京都大学
統一論題：「社会科学における産学連携：管理会計の場合」			
「情報システム導入におけるABC, BSCの活用について」宗平順己（㈱オーガス総研）			
「日本企業にみるBSC導入状況について」水野 整（宝酒造㈱）			
「社会科学における産学連携：管理会計の場合」加登 豊（神戸大学）			
自由論題			
「近年のNTT事業戦略の特徴について—経営分析の視点から—」畑田康則（愛知学泉大学）			
「現代的Capacity概念の様相」和田淳蔵（岡山大学）			
「グローバル企業管理会計の課題」宮本寛爾（大阪学院大学）			
「プログラミングにおける会計情報の整合性」堀井悟志（京都大学院生）			
「日本における社会・組織と会計：統制テクノロジーとしての標準原価」 岡野浩（大阪市立大学）・藤井博茂（大阪市立大学院生）			
「環境配慮型設備投資の意思決定に関する研究」浅田孝幸（大阪大学）・井尾里香（大阪大学院生）			

2004年度			
第1回 関西・中部部会			
開催日	2004年6月12日（土）	会場	中部大学
特別講演：			
「管理会計の中国企業への応用」王 華（暨南大学）			
統一論題：「日中企業コラボレーションと管理会計—中国ビジネス環境に学ぶこと—」			
「日本の管理会計が中国で果たす役割」大島正克（亜細亜大学）			
「中国・大連市のビジネスと大学の役割」木野瀬吉孝（木野瀬印刷）			
「中国で学んだこと（在中国学習的知識）」林真弘（林スプリング製作所）			
自由論題			
「中国経済改革に伴う中国における原価管理の発展と課題」朴 貞子（大阪市立大学院生）			
「多国籍企業における業績評価の現状—業績評価指標とBSC—」朝倉洋子（大阪国際大学）			
「売上高予測と企業評価」平井裕久（大阪大学院生）・椎葉淳（大阪大学）			
第2回 関西・中部部会			
開催日	2004年11月27日（土）	会場	京都産業大学
統一論題：「MOTと管理会計」			

報告者：武富為嗣（コーポレートインテリジェンス社社長） 後藤芳一（経済産業省） 長坂悦敬（甲南大学）
自由論題
「環境マネジメントを促進させる環境配慮型製品開発について—環境配慮型冷蔵庫開発の事例を中心として—」井尾里香（大阪大学院生）・浅田孝幸（大阪大学）
「日系多国籍企業における業績評価に関する研究—質問調査票により—」朝倉洋子（大阪国際大学）
「企業の健全性測定におけるキャッシュ・フローの計算書が果たす役割」山崎 泉（京都産業大学）
「受注メーカー専用システム：受注売価構成基準値の指数化方式による製品群別戦略受注基準売価策定システム」岡本義三（OMC）・葉田利幸（OMC）

2005年度			
第1回 関西・中部部会			
開催日	2005年7月2日（土）	会場	立命館大学
記録が残っていません。			
第2回 関西・中部部会			
開催日	2006年3月18日（土）	会場	大阪大学
記録が残っていません。			

2006年度			
第1回 関西・中部部会			
開催日	2006年7月1日（土）	会場	甲南大学
自由論題			
「現代中国における管理会計の動向と特質—財務管理制度との関わりの中で—」 水野一郎（関西大学）			
「管理会計・原価計算教育の現況—実態調査を踏まえて—」 上埜 進（甲南大学）・長坂悦敬（甲南大学）・杉山善浩（甲南大学）・椎葉 淳（大阪大学）			
「ERP 導入と、管理会計制度のレベルアップ」高田純司（㈱ビジネスブレイン太田昭和）			
「CPM（企業業績管理）の実際」堀 弘幸（㈱ビジネスアーキテクチャ）			
「日本版 SOX 法対策における第4世代バランス・スコアカード」 戸村智憲氏（日本マネジメント総合研究所）			
「戦略・組織・会計—戦略管理会計の視点から—」豊田尊久氏（関西学院大学）			
「研究開発型組織におけるプロジェクトマネジメント成熟度モデルについての研究」 芝尾芳昭氏（大阪大学院生）			

2007年度			
第1回 関西・中部部会			
開催日	2007年7月21日(土)	会場	関西大学
特別講演:			
「上海経済圏と日系企業の進出」陳 建安(復旦大学経済管理学院教授, 日本研究センター前所長)			
統一論題:「日本の経営・管理会計の国際的な展開可能性と展望」			
	「サントリーグループの海外展開と経営方法:中国事業展開を中心として」 富岡伸一(サントリー(株))		
	「中国における日系企業の現地化—日本的経営の可能性と展望—」 薛 軍(佐賀大学, 中国社会科学院世界经济政治研究所)		
	「在外日系企業における管理会計システム」中川 優(同志社大学)		
自由論題			
	「管理会計システム導入におけるマイクロ・プロセスの解明へむけて: 榎飯田のフィールド・スタディ」大浦啓輔(神戸大学)		
	「研究開発投資がキャッシュ・フロー予測に与える影響についての実証研究」 緒方 勇(光陵女子短期大学)		
	「企業戦略が会計情報の特性に与える影響」椎葉 淳(大阪大学)		
第2回 関西・中部部会			
開催日	2007年11月10日(土)	会場	関西学院大学
特別講演:			
	“Enacting Globalization” David Cooper (University of Alberta, Canada)		
統一論題:「管理会計教育を考える—会計大学院での模索と苦悩—」			
自由論題			
	「病院経営における管理会計のしくみ—病院予算を中軸とした総合管理—」 衣笠陽子(京都大学院生)		
	「PBSC(Project-Based Balanced Scorecard)フレームワーク構築のためのプログラム&プロジェクト: MCS(Management Control System)の実態調査」金幸焜(大阪大学院生)		
	「原価企画活動における部間連携を促進する経営システムの進化とその考察」諸藤裕美(岡山大学)		

2008年度			
第1回 関西・中部部会			
開催日	2008年5月31日(日)	会場	大阪大学中之島センター
統一論題:「事業リスクと管理会計」			
	報告者:大西徹夫(シャープ(株))・藤原浩一(同志社大学)		

自由論題			
	「回収期間法の合理性—ケース研究からの含意」堀井悟志（立命館大学）		
	「地方自治体の財務報告への企業会計的手法の導入意義に関する研究」前田英樹（兵庫県病院局）		
第2回 関西・中部部会			
開催日	2008年12月13日（土）	会場	南山大学
統一論題：「キャッシュ・フローの会計と管理」			
	「プロジェクトファイナンスにおけるキャッシュ・フロー分析」太田 純（㈱三井住友銀行）		
	「学校法人会計におけるキャッシュ・フロー計算書」梅田守彦（中京大学）		
	「会計発生高のキャッシュ・フローへの実現化と内部統制との関連性」 中島真澄（福島学院大学・コンバース大学兼任教授）		
産学連携研究会			
開催日	2008年12月18日（木） 2009年1月22日（木）	会場	大阪大学中之島センター
	「ドーバ海峡プロジェクトに学ぶ—ドーバ海峡海底トンネル掘削ビッグプロジェクト通じて学ぶ—」小石原謙介		
	「プロジェクトマネジメントの世界の瀬流—PM界の世界の要人交流を通じて知る最新動向—」 田中 弘		

2009年度			
第1回 関西・中部部会			
開催日	2009年6月6日（土）	会場	名古屋市立大学
自由論題			
	「移転価格の設定とその比較可能性」中富香苗（名古屋市立大学）		
	「Cost structure changes of Japanese manufactures amidst global competition」 木下徹弘（龍谷大学）		
	「「利益」から「利益ポテンシャル」概念へ—財務分析の新たな可能性を探る—」 河田 信（名城大学）		
第2回 関西・中部部会			
開催日	2010年2月27日（土）	会場	同志社大学
自由論題			
	「VBM環境下における事業のライフサイクル・ステージと業績評価システムの関係性に関する経験的研究」徳崎 進（関西学院大学）		

「階層的会計コントロールによる水平的相互作用の促進：ケーススタディ研究からの知見」 李 燕（立命館大学院生）
「地方自治体へのバランスト・スコアカード適用に関する諸問題」佐藤 幹（広島大学院生）
「人的資源コストのマネジメント・システム」山下千丈（関西学院大学院生）
「日本の DPC 導入病院のコスト・マネジメントの実態」栗栖千幸（近畿大学院生）

2010年度			
第1回 関西・中部部会			
開催日	2010年7月17日（土）	会場	大阪学院大学
特別講演：			
	「パナソニックの経営理念と経営管理制度」上野山実（パナソニック(株)常務取締役）		
統一論題：「管理と会計」			
	「専門商社の経営管理」北田幹人（八木通商(株)）		
	「建設業におけるプロジェクトをベースとした経営管理」横山俊宏（(株)竹中工務店）		
	「不況の管理会計学：「管理と会計」に寄せて」大下丈平（九州大学）		
第2回 関西・中部部会			
開催日	2011年2月26日（土）	会場	岡山大学
特別講演：			
	「地域経済における100年企業の経営システムについて」 植田 隆（尾崎商事(株)）・小山嘉紀（両備ホールディングス(株)）		
自由論題			
	「MFCAと組織実践の変化」北田皓嗣（神戸大学院生）		
	「中国における国家電網会社のCSR報告の研究—コーポレート・レピュテーションの観点から」 崔 洪雷（大阪産業大学）		
	「適応的反復活動としての予算管理—会計のリズムと製品イノベーション」 堀井悟志（立命館大学）		

2011年度			
第1回 関西・中部部会			
開催日	2011年6月25日（土）	会場	近畿大学
Asia-Pacific Management Accounting Association(APMAA)との共同企画			
	“The Significance of Learning Process in BSC Introducing Process” AOKI, Masaaki (Tohoku University) and HASEBE, Mitsuya (Hasebe Managements)		
	“Management Accounting Information: Its Use by Top Management Team in Transforming		

A Company” WEE, Shu Hui (Uitm, Malaysia)			
自由論題			
「ショッピングセンターの会計におけるテナントとの接点」坂戸英樹（愛媛大学院生）			
「部門管理者の利益操作に関する探索的研究：インタビュー調査より」 高田富明（神戸大学 MBA 修了生）・梶原武久（神戸大学）			
「日本企業の経営計画：探索的分析」福嶋誠宣（神戸大学院生）・米満洋己（エスペック(株)）・新井康平（甲南大学）・梶原武久（神戸大学）			
第2回 関西・中部部会			
開催日	2012年2月11日（土）	会場	キャンパスプラザ京都 開催校：立命館大学
統一論題：「企業環境の複雑性の増加と管理会計」			
「経営戦略に連動した原価管理の考え方・進め方」武富為嗣（日本工業大学）			
「業績管理会計の課題－分社制における MCS について－」頼 誠（兵庫県立大学）			
「コスト・マネジメントのグローバル最適化」上總康行（福井県立大学）			
自由論題			
「海外子会社の分権化と国際振替価格管理プロセスの関係性に関する考察」 梅田浩二（名古屋市立大学院生）			
「M&A・組織再編を実施した日本企業の財務特性に関する研究」村上暢子（筑波大学院生）			
「原価企画の発展的活用による『顧客価値会計』の考察」北山一真（プリベクト）			

2012年度			
第1回 関西・中部部会			
開催日	2012年5月26日（土）	会場	中部大学
統一論題：「『絆』の時代における環境管理会計の今日と展望」			
「MFCAのサプライチェーンへの展開」中嶋道靖（関西大学）			
「物流環境管理会計の課題」長岡 正（札幌学院大学）			
「環境管理会計とジャスト・イン・タイム経営」今井範行（名城大学）			
自由論題			
「工業簿記と原価計算との有機的な結合による原価管理事例の考察」井上和子（立教大学院生）			
「海外子会社からの研究費回収方法に関する考察－移転価格税制と研究開発費負担の公平性の視点から－」梅田浩二（名古屋市立大学院生）			
第2回 関西・中部部会			
開催日	2013年3月23日（土）	会場	兵庫県立大学

統一論題：「管理会計とリスク」	
	「危機管理における管理会計の意義：組織間関係の視点から」大浦啓輔（滋賀大学）
	「投資意思決におけるリスク」山下直紀（山下公認会計士事務所）
	「業績測定指標とリスク」安酸建二（近畿大学）
自由論題	
	「日本の紡績業界およびアパレル業界における倒産予測の実証研究」梅谷幸平（大阪大学院生）
	「マルチングール測度に基づく確率的 CVP 分析の拡張」佐藤清和（金沢大学）
	「わが国におけるバランスト・スコアカードの動向：欧米での蓄積状況を踏まえて」 河合隆治（同志社大学）・乙政佐吉（小樽商科大学）・坂口順他（関西大学）

2013年度			
第1回 関西・中部部会			
開催日	2013年6月15日（土）	会場	甲南大学
統一論題：「アジアにおける管理会計の潮流—2013 APMAA 名古屋大会を前にして—」			
	「APMAA における管理会計研究」上埜 進（甲南大学）		
	「中国から見た日本の管理会計」王 志（名古屋商科大学）		
	「中国における管理会計の動向—理論と実践—」水野一郎（関西大学）		
自由論題			
	「コンティンジェンシー理論の再評価」杉山善浩（甲南大学）		
	「ビッグデータ時代のデータアナリティクス」佐々木宏（立教大学）		
	「経済効果予測を“脱問題先送り”にいかにか活用するか—ケーススタディー—」坂戸英樹（愛媛大学）		
	「マテリアルフロータイムコスト概念の提唱—トヨタ生産システムとマテリアルフローコスト会計統合的進化の可能性に関する一考察—」今井範行（名城大学）		
第2回 関西・中部部会			
開催日	2013年10月26日（土）	会場	京都大学
特別講演：			
	「トヨタのイノベーション・マネジメント」土井正己（トヨタ自動車(株)）		
企画セッション：「イノベーションと管理会計」			
	「両利きの経営を実現するマネジメント・コントロール・システムに関する考察」 市原勇一（京都大学）		
	「イノベーションを促進する管理会計の役割の再考」天王寺谷達将（広島経済大学）		
自由論題			
	「小売店のコスト変動分析—マネジャーの個人差がコスト変動に及ぼす影響—」 佐久間智広（神戸大学院生）		

「山形県米沢地区における地域連携の特徴と地域イノベーション活性化の試み」 柗紫乃（山形大学）
--

2014年度			
第1回 関西・中部部会			
開催日	2014年4月19日（土）	会場	下関市立大学
自由論題			
	「アメーバ経営における時間当り採算での時間の意味」 水島多美也（中村学園大学）		
	「小規模事業者への管理会計の仕組みの導入の実情」 岡本健一（タスクサポート(株)）		
	「財務報告の“Managerialisation”と会計変化の今日的意味—Zambon [2011] の解釈を通じて—」 島田美智子（下関市立大学）		
第2回 関西・中部部会			
開催日	2014年11月15日（土）	会場	関西学院大学
統一論題：「経営情報とマネジメント」			
	「企業の社会性と収益性に関する予備的研究—電機業界の事例をもとに—」 伊佐田文彦（関西大学）		
	「業務改革のための KPI マネジメント—業務の可視化および重要業績指標による業務プロセス改革に関する研究—」 平山賢二（(株)アットストリーム）		
自由論題			
	「半導体企業の設備投資に関する実証研究—日米半導体協定の影響について—」 東壮一郎（関西学院大学院生）		
	「組織内で行われる実体的利益調整行動—ビジネスユニットレベルで生じるコストの調整に関する実証研究—」 佐久間智広（神戸大学院生）・安酸建二（近畿大学）・三矢 裕（神戸大学）		
	「環境に配慮した製品開発と原価企画—質問票調査による実態分析—」 朴 鏡杓（香川大学）		

2015年度			
第1回 関西・中部部会			
開催日	2015年5月23日（土）	会場	南山大学
特別講演			
	『「速達生」導入プロモーション（第6回日本マーケティング大賞奨励賞）』 水谷 稔（(株)マルト水谷）		
自由論題			
	「コンフィギュレーションとしてのマネジメントコントロールと fsQCA (fuzzy-set Qualitative Comparative Analysis)」 劉 美玲（神戸大学院生）・梶原武久（神戸大学）		
	「事務事業評価のための予算管理システム—三勘定簿記を前提として—」 浅池秀幸（リゾートトラスト(株)）		

『ジャスト・イン・タイム経営』導入の成功率向上に関する一考察—『流れ創り』における現実的課題へのアプローチ— 河田 信 (椋山女学園大学)			
第2回 関西・中部部会			
開催日	2015年10月17日(土)	会場	京都産業大学
特別講演			
「ホソカワミクロンのM&Aと海外子会社および国内事業管理」 東 充延 (ホソカワミクロン(株))			
自由論題			
「Unobservable transfer price exceeds marginal costs under relative performance evaluation to CEO」 濱村純平 (神戸大学院生)			
「連邦政府予算とMcKinseyのBudgetary Control—社会的背景からみた予算制度—」 川崎紘宗 (高松大学)			
「マネジメント・コントロールと企業の固有利益」 石光 裕 (京都産業大学)・近藤隆史 (京都産業大学)			

2016年度			
第1回 関西・中部部会			
開催日	2016年5月21日(土)	会場	大阪経済大学
特別講演			
「先進的な製品応用技術(デバイス・テクノロジー)開発と経営戦略・業績管理—2015 IPO—」 井上 誠 ((株)中村超硬)			
自由論題			
「企業価値評価法の一考察—行動ファイナンスから考える意思決定—(試論)」 岡田朋之 (関西大学院生)			
「医療機関の管理会計システムとミドルマネジメント—ある地域の中核医療機関を対象とした事例研究—」 井上秀一 (追手門学院大学)			
「利益管理論—史的分析を踏まえて—」 和田淳蔵 (岡山大学)			
第2回 関西・中部部会			
開催日	2016年10月22日(土)	会場	香川大学
特別講演			
「あぶなき流グループ経営と予実分析」 富岡徹也 (あぶなき興産(株))			
自由論題			
「マネジメント・コントロール研究におけるテキスト分析の可能性の検討」 近藤隆史 (京都産業大学)・石光 裕 (京都産業大学)			

「持続可能性報告による組織の正当化」大西 靖（関西大学）
「エンパワーメント研究のブラックボックスの透明化」宮脇秀貴（香川大学）
「予算目標の厳格度と業績評価方法が財務業績に及ぼす影響」 吉田栄介（慶應義塾大学）・榎谷奎太（慶應義塾大学院生）

2017年度			
第1回 関西・中部部会			
開催日	2017年5月6日（土）	会場	西南学院大学
自由論題			
	「病院 BSC における医療安全の位置づけ」足立俊輔（下関市立大学）		
	「米国のオバマ医療制度改革における病院マネジメントシステムの変化」浅川哲郎（九州産業大学）		
	「プロジェクト特性がマネジメント・コントロール・システムに与える影響—コントロール・パッケージの視点から—」島 吉伸（近畿大学）		
	「鉄工団地中小企業における経営課題と管理会計思考の適用研究—金属加工業の設備投資・品質・人材・在庫問題を事例として—」三浦徹志（大阪経済大学）		
第2回 関西・中部部会			
開催日	2017年10月14日（土）	会場	名古屋学院大学
特別講演：			
	「TQM の構築による持続的成長の実現—“質創造”マネジメントの実践—」 古谷建夫（トヨタ自動車(株)）		
自由論題			
	「MFCA によるマテリアルロス情報の意義—機会原価概念の適用拡張による新たな管理会計情報の確立に向けて—」中寫道靖（関西大学）		
	「経営者による売上高予想はコスト変動をどの程度説明するのか」安酸建二（近畿大学）		
	「大阪道修町のファミリー企業—武田長兵衛と小野市兵衛—」石川 潔（小野薬品工業(株)）		

2018年度			
第1回 関西・中部部会			
開催日	2018年6月2日（土）	会場	立命館大学茨木キャンパス
特別講演			
	「中小企業向け情報システム会社—アスコットの創業から今日まで—」森井義雄（(株)アスコット）		
自由論題			
	「地方自治体への『脱予算』導入の可能性—広島県庁の事例をもとに—」佐藤 幹（福山平成大学）		
	「利益の絶対値統制と差分値管理—リスク耐性とコスト競争力を錬磨する利益管理実務の考察—」		

今井範行（名城大学）			
「予算化が利益目標のラチェッティングに与える影響—経営者利益予想を用いた実証研究—」 早川 翔（神戸大学院生）・妹尾剛好（中央大学）・安酸建二（近畿大学）・新井康平（群馬大学）・ 横田絵理（慶應義塾大学）			
第2回 関西・中部部会			
開催日	2018年11月17日（土）	会場	大阪学院大学
特別講演			
「アメーバ経営の原点と制約理論の展開—新しい経営会計の展開—」 石田秀樹（京セラ(株)）			
自由論題			
「中国企業におけるアメーバ経営導入と展開」 ト 志強（大阪市立大学）			
「京セラフィロソフィに関する研究」 古田隆紀（大阪学院大学）			
「原価企画思考の適用領域拡大—おせち『板前魂』における原価企画—」 中野延市（(株)ナカノモードエンタープライズ）			
「ERPのシステム連携とその影響について—今後の改訂に対する意思決定の考察—」 佐藤正隆（慶應義塾大学院生）			

2019年度			
第1回 関西・中部部会			
開催日	2019年5月18日（土）	会場	近畿大学
特別講演			
“Reflections on Experimentation in Management Accounting, Information Systems and beyond”, Dennis Fehrenbacher (Monash University)			
自由論題			
「イノベーションのための創造性マネジメント—経営人材のための創造性開発における経営学，心理学，教育学の融合可能性とその管理会計的展開」 徳崎 進（関西学院大学）			
「マテリアルフローコスト会計（MFCA）の継続性を促進する取り組み—日東電工(株) vs ウシオ電機(株)—」 王 博（京都大学院生）			
「Ratchet Effect in Teams with Mutual Learning」 小山真実（神戸大学院生）			
第2回 関西・中部部会			
開催日	2019年11月16日（土）	会場	神戸大学
特別講演			
「結果の強調が組織行動に及ぼす影響」 鈴木竜太郎（神戸大学）			
自由論題			

「顧客価値基準価格決定の有用性」 皆川芳輝 (名古屋学院大学)
「非財務情報が企業価値へ与える影響」 下田卓治 (筑波大学院生)
「キャパシティの利用度と混雑コスト：探索的研究」 新井康平 (大阪府立大学・群馬大学)・福嶋誠宣 (京阪アセットマネジメント(株))・安酸建二 (近畿大学)・栗栖千幸 (亀田医療大学)
「組織間コントロールにおける境界連結者の認知的コンフリクト」 大浦啓輔 (立命館大学)
「台湾における MFCA の展開—日本との比較を通じて—」 國部克彦 (神戸大学)・謝 江龍 (神戸大学院生)

2020年度		
第1回 関西・中部部会		
開催日	2020年11月21日(土)	オンライン開催 ホスト校：関西大学
特別講演		
	『あばよ』の経営美学」 渡辺良機 (東海バネ工業(株))	
自由論題		
	「創造性マネジメントの管理会計的展開—合理思考からの脱却がもたらす創造的意思決定と経営のイノベーション」 徳崎 進 (関西学院大学)	
	「デジタル技術の特徴と管理会計の課題」 皆川芳輝 (名古屋学院大学)	



2011年度第2回関西・中部部会の様子 (キャンパスプラザ京都)



2012年度第2回関西・中部部会の様子 (兵庫県立大学)

8 企業研究会

日本管理会計学会（以後 JAMA と略称）の特色としての一つとして、企業を訪問し管理会計の実務を学ぶ企業研究会がある。企業研究会は 1999 年から毎年 1, 2 回開催され、理論と実践の融合という課題に大きな貢献を果たしてきた。これまで、様々な組織（企業）の方の多大なるご協力により、開催することができた。

業種、業態や営利、非営利問わず様々な組織（企業）を工場見学や講演を通じて、闊達な議論を交わすことで、実務の現状や実務における管理会計の役割を学び、検討する場として提供されている。

2011 年度 第 1 回			
会 場	(株)明治 坂戸工場	開催日	2011 年 7 月 15 日(金)
テーマ	「明治ビジネスサポート株式会社におけるシェアードサービスの取組み」		

2011 年度 第 2 回			
会 場	ボッシュ(株)寄居工場	開催日	2011 年 9 月 11 日(日)
テーマ	「RPP の改善活動」		

2012 年度 第 1 回			
会 場	(株)北海道熱供給公社 札幌駅南口エネルギーセンター	開催日	2012 年 7 月 20 日(金)
テーマ	「コージェネレーションシステムの経済的効率」		

2012 年度 第 2 回			
会 場	富士ゼロックス(株)・富士ゼロックスマ ニユファクチュアリング(株) 竹松事業所	開催日	2013 年 5 月 17 日(金)
テーマ	「竹松事業所における生産革新活動」		

2013 年度 第 1 回			
会 場	大阪ガス(株) 泉北製造所	開催日	2013 年 7 月 26 日(金)
テーマ	「最新エコ技術」		

2014年度 第1回			
会場	日立建機(株) 土浦工場	開催日	2014年8月6日(水)
テーマ	「建設機械の世界的動向と VE」		

2015年度 第1回			
会場	(株)エイチーム	開催日	2016年3月4日(金)
テーマ	「エンターテインメント事業とライフスタイルサポート事業」		

2016年度 第1回			
会場	(株)Jファーム 北海道キッコーマン(株)	開催日	2016年11月14日(月)
テーマ	「スマートアグリプラント」, 「キッコーマンの経営」		

2016年度 第2回			
会場	センコー(株)	開催日	2017年3月14日(火)
テーマ	「センコーの経営戦略」		

2017年度 第1回			
会場	トヨタ自動車(株)	開催日	2017年8月4日(金)
テーマ	「自動車の最新の技術動向」		

2017年度 第2回			
会場	花王(株)すみだ事業場/東京工場	開催日	2018年3月13日(火)
テーマ	「花王の会計について」		

2018年度 第1回			
会場	日東電工(株) 尾道事業所	開催日	2018年8月22日(水)
テーマ	「総ロス削減活動」		

2019年度 第1回			
会場	オムロンヘルスケア(株) 本社	開催日	2019年6月8日(土)
テーマ	「TOC 実践および ROIC 管理」		

2019年度 第2回			
会場	亀田総合病院	開催日	2019年8月9日(金)
テーマ	「病院経営と医療管理会計について」		



2012年度第1回企業研究会の様子（(株)北海道熱供給公社 札幌駅南口エネルギーセンター）



2018年度第1回企業研究会の様子（日東電工(株)尾道事業所）

9 スタディ・グループ／産学共同研究グループ

スタディ・グループおよび産学共同研究グループの創設は2012年7月の理事会で日本管理会計学会の共同研究グループの創設が承認されたことに始まる。共同研究グループ創設の具体化に向けて、慎重に検討・審議がされたのち、2013年4月13日からスタディ・グループ規定および産学共同研究グループ規定が施行された。

スタディ・グループは、会員からの自主的な申請により組織するもので、日本会計研究学会のスタディ・グループに相当するものである。産学共同研究グループは、会長を中心とする学会執行部が主導性を発揮して、実務家の方にも入っていただき、事例研究なども含む産学共同の研究グループとして組織する学会提案型の研究グループである。

スタディ・グループはこれまで9つのテーマが採択され、7つの研究成果がまとめられている。産学共同研究グループは4つのテーマが採択され、3つの研究成果がまとめられている。

(1) スタディ・グループ

2013年度	
採択テーマ	企業価値創造に向けてのインタangibleの複合的活用
研究代表者	内山哲彦（千葉大学）
共同研究者	青木章通（専修大学）・岩田弘尚（専修大学）・木村麻子（関西大学）・小酒井正和（玉川大学）・細海昌一郎（首都大学東京）

2014年度	
採択テーマ	中小企業における管理会計の総合的研究
研究代表者	水野一郎（関西大学）
共同研究者	山口直也（青山学院大学）・大串葉子（新潟大学）・井上和子（税理士、立教大学大学院博士後期課程）・金 紅花（事業創造大学院大学）・張 宏武（関西大学大学院商学研究科博士後期課程）

2015年度	
採択テーマ	コスト変動の把握と変動の原因解明に向けた実証的研究
研究代表者	安酸建二（近畿大学）
共同研究者	新井康平（群馬大学）・佐久間智広（松山大学）・福嶋誠宣（京阪アセットマネジメント(株)代表取締役社長、神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程）・北

	田智久（近畿大学）・濱村純平（桃山学院大学）・劉美玲（鹿児島大学稲盛アカデミー）・小笠原亨（神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程）
研究協力者	廣瀬喜貴（高崎商科大学短期大学部）・井上謙仁（大阪市立大学大学院経営学研究科後期博士課程）・佐々木多恵（神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程）・牧野功樹（群馬大学大学院社会情報学研究科修士課程）・川野純子（群馬大学大学院社会情報学研究科修士課程）

2016年度	
採択テーマ	地域中小製造企業の管理会計・原価計算活用実態解明と経営改善への接続に関する研究
研究代表者	宮地晃輔（長崎県立大学）
共同研究者	竹田範義（長崎県立大学）・吉川晃史（熊本学園大学）・木村眞美（東京都立大学）・吉本政和（(株)ヒライ, 熊本学園大学大学院博士後期課程）・法師山康成（税理士）・下田義孝（(株)親和銀行）

2016年度	
採択テーマ	サービス業における顧客マネジメント
研究代表者	青木章通（専修大学）
共同研究者	佐々木郁子（東北学院大学）・妹尾剛好（中央大学）・田坂 公（福岡大学）・谷守正行（専修大学）・吉岡 勉（東洋大学）

2017年度	
採択テーマ	医療機関におけるマネジメント・システムの導入とその成果に関する研究
研究代表者	伊藤和憲（専修大学）
共同研究者	挽 文子（一橋大学）・島 吉伸（近畿大学）・栗栖千幸（亀田医療大学）・関谷浩行（北海学園大学）・阪口博政（金沢大学）・梅田 宙（高崎経済大学）・丹羽修二（日本経営副社長）

2018年度	
採択テーマ	日本における管理会計技法・情報利用の変容に関する研究
研究代表者	吉田栄介（慶應義塾大学）
共同研究者	福島一矩（中央大学）・妹尾剛好（中央大学）・徐 智銘（Shanghai Zhongde Institute of Quality Technology）・森 浩気（千葉商科大学）・榎谷奎太（高千穂大学）・岩澤佳太（慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程）

2019年度	
採択テーマ	原価企画の今日的課題と対応に関する研究
研究代表者	諸藤裕美（立教大学）
共同研究者	浅石梨沙（西武文理大学）・井上慶太（東京経済大学）・小沢 浩（名古屋大学）・片岡洋人（明治大学）・木村麻子（関西大学）・近藤大輔（立正大学）・鈴木寛之（ブリストル大学）・天王寺谷達将（岡山大学）・藤野雅史（日本大学）
研究協力者	中川 優（同志社大学）・森光高大（西南学院大学）

2020年度	
採択テーマ	DDP（仮説指向事業計画）の導入効果に関する研究
研究代表者	伊藤克容（成蹊大学）
共同研究者	池側千絵（青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科後期博士課程,（一社）日本 CFO 協会主任研究委員）・新江 孝（日本大学）・井上慶太（成蹊大学）

（2）産学共同研究グループ（隔年設置）

2013年度	
採択テーマ	次世代マネジメント・コントロールのためのメゾスコピック・モデルに関するアクション研究
研究代表者	長坂悦敬（甲南大学）
共同研究者	李 健泳（新潟大学）・今井範行（名城大学）・徳崎 進（関西学院大学）・篠田朝也（北海道大学）・丸田起大（九州大学）・終 柴乃（山形大学）
研究協力者	中村昌弘（(株)レクサー・リサーチ）・大橋輝雄（(株)レクサー・リサーチ）・松本浩之（(株)956）・北川 満（ノースリバーポイント(株)）・河本 潤（河本・海津税理士法人）・玉澤 昇（玉澤精機(株)）・大竹 浩（玉澤精機(株)）

2015年度	
採択テーマ	KPI と予算の設定及び業績予想に関する研究
研究代表者	清水信匡（早稲田大学）
共同研究者	矢内一利（青山学院大学）・柳 良平（エーザイ(株)）・高橋克幸（早稲田大学）・高原康太郎（早稲田大学）
研究協力者	新井康平（群馬大学）・田村晶子（法政大学）・谷田雅大（日本航空(株)）・西澤雅子（(株)SOOUP）

2017年度	
採択テーマ	グローバル管理会計原則の可能性と展望に関する研究
研究代表者	浅田孝幸（桃山学院大学）
共同研究者	青木雅明（東北大学）・清水 孝（早稲田大学）・澤邊紀生（京都大学）

2019年度	
採択テーマ	「人を基軸」にしたグローバル経営を展開するダイキン工業の管理会計の研究
研究代表者	中川 優（同志社大学）
共同研究者	水野一郎（関西大学）・園田智昭（慶應義塾大学）・挽 文子（一橋大学）・伊藤正隆（京都産業大学）
研究協力者	河合隆治（同志社大学）

10 学会賞

日本管理会計学会の学会賞授与制度は、本学会が管理会計学およびその隣接諸学に関する理論または応用について、学問的または技術的に貢献するところが大きいと認められた者を顕彰し、学会および学術の発展をはかることを目的として、1999年に設けられた。

学会賞は、特別賞、功績賞、論文賞、文献賞、および奨励賞の5種からなる。特別賞は、管理会計学およびその隣接諸学に関する理論もしくは応用について多年にわたり特に優れた研究業績や教育業績があると認められた者または本学会の運営について特に顕著な功績があったと認められた者に授与される。功績賞は、本学会の大会および研究会等での報告や執筆で顕著な貢献があるとともに学会活動に顕著な貢献があったと認められた者に授与される。

論文賞は、日本管理会計学会誌「管理会計学」に掲載された論文を対象として、管理会計学およびその隣接諸学に関する理論または応用の発展に貢献するところが顕著であると認められた論文の執筆者に授与される。文献賞は、一般に公刊された論文以外の著書等を対象として、管理会計学およびその隣接諸学に関する理論または応用の分野の発展に貢献するところが顕著であると認められた著書等の著者に授与される。そして、奨励賞は、若手研究者の研究を奨励するため、管理会計学およびその隣接諸学に関する理論または応用について内外の研究誌等に掲載された優れた論文または著書等の執筆者に授与される。

1999年度	
特別賞	
	佐藤 進 (中央大学)
功績賞	
	該当者なし
論文賞	
	該当者なし
文献賞	
	該当者なし
奨励賞	
	該当者なし

2000年度	
特別賞	
	該当者なし
功績賞	

	該当者なし
論文賞	
	佐藤紘光（早稲田大学）「企業の投資行動と業績評価」『管理会計学』第8巻第1・2合併号，17-31ページ
文献賞	
	浜田和樹（西南学院大学）『管理会計技法の展開』中央経済社
奨励賞	
	山下裕企（東京理科大学）「設備投資評価のための実効税率に関する研究」『管理会計学』第5巻第1号，15-28ページ

2001年度	
特別賞	
	該当者なし
功績賞	
	該当者なし
論文賞	
	該当者なし
文献賞	
	清水 孝（早稲田大学）『経営競争力を強化する戦略管理会計』中央経済社
奨励賞	
	該当者なし

2002年度	
特別賞	
	該当者なし
功績賞	
	該当者なし
論文賞	
	該当者なし
文献賞	
	西村 明（九州産業大学）『会計の統制機能と管理会計』同文館出版
奨励賞	
	吉田栄介（近畿大学）「原価企画活動を支援する組織能力—質問票調査による基礎分析—」『管理会計学』第10巻第1号，39-52ページ

2003年度	
特別賞	
	該当者なし
功績賞	
	該当者なし
論文賞	
	該当者なし
文献賞	
	該当者なし
奨励賞	
	該当者なし

2004年度	
特別賞	
	西澤 脩 (LEC 会計大学院)
功績賞	
	該当者なし
論文賞	
	該当者なし
文献賞	
	該当者なし
奨励賞	
	椎葉 淳 (大阪大学)「費用削減投資と指令振替価格」『管理会計学』第11巻第1号, 57-71 ページ

2005年度	
特別賞	
	該当者なし
功績賞	
	該当者なし
論文賞	
	大鹿智基 (早稲田大学)「新規公開株式の株価と企業価値：IPO バブルと初値の妥当性」『管理会計学』第13巻第1・2号併合, 39-54 ページ
文献賞	
	澤邊紀生 (京都大学)『会計改革とリスク社会』岩波書店
	高栢真一 (久留米大学)『アメリカ管理会計生成史：投資利益率に基づく経営管理の展開』創成社

奨励賞	
	片岡洋人（大分大学）「ABCの基礎的構造と意思決定」『管理会計学』第12巻第2号，61-74ページ

2006年度

特別賞	
	該当者なし
功績賞	
	該当者なし
論文賞	
	該当者なし
文献賞	
	丸田起大（北海道大学）『フィードフォワード・コントロールと管理会計』同文館出版
奨励賞	
	緒方 勇（光陵女子短期大学）「日本の製造企業の広告宣伝費と研究開発投資が無形資産形成に与える効果の時系列分析」『管理会計学』第14巻第1号，39-59ページ
	平井裕久（名古屋商科大学）・椎葉 淳（大阪大学大学院）「販売費および一般管理費のコスト・ビヘイビア」『管理会計学』第14巻第2号，15-27ページ

2007年度

特別賞	
	片岡洋一（目白大学）
	橘高重義（東京理科大学）
	長松秀志（駒澤大学名誉教授）
功績賞	
	石川昭（青山学院大学名誉教授）
	今井二郎（今井会計事務所）
	加藤隆之（公認会計士加藤隆之事務所）
	木村幾也（岡山商科大学）
	矢澤秀雄（千葉商科大学会計大学院）
	横山和夫（東京理科大学）
論文賞	
	榎本正博（東北大学大学院）「減損会計基準の適用における利益マネジメント—早期適用企業を用いた実証分析—」『管理会計学』第15巻第2号，41-56ページ
	鈴木浩三（東京都水道局）・小倉昇（筑波大学大学院）「M&Aと提携が財務業績に及ぼす影響—コスト低減の視点を交えた企業間関係の効果測定—」『管理会計学』第15巻第2号，77-91ページ

文献賞	
	挽文子（一橋大学大学院）『管理会計の進化－日本企業にみる進化の過程』森山書店
奨励賞	
	野坂和夫（あずさ監査法人）「退職給付会計における割引率の会計方針選択行動－裁量的選択行動，横並び選択行動および水準適正化選択行動－」『管理会計学』第15巻第1号，57-70ページ

2008年度	
特別賞	
	田中雅康（東京理科大学）
	山田庫平（明治大学）
功績賞	
	佐藤宗彌（創価大学）
	谷 和久（(株)イメージン）
	宮本寛爾（大阪学院大学）
	三代澤経人（立命館大学）
論文賞	
	山下裕企（愛知大学）・音川和久（神戸大学）“Do Japanese Firms Manage Earnings in Response to Tax Rate Reductions in the Late 1990s?”『管理会計学』第16巻第1号，41-59ページ
文献賞	
	梶原武久（神戸大学）『品質コストの管理会計－実証分析で読み解く日本の品質管理』中央経済社
奨励賞	
	新井康平（神戸大学大学院生）「日本企業のマネジメント・コントロールにおける心理的契約の役割－経験的研究」『管理会計学』第16巻第2号，23-37ページ

2009年度	
特別賞	
	西村 明（別府大学）
功績賞	
	中根 滋（UwiN(株)）
	倉重英樹（(株)シグマクシス）
論文賞	
	山本達司（名古屋大学）「株式所有構造と利益マネジメント」『管理会計学』第17巻第2号，3-21ページ
文献賞	
	荒井 耕（一橋大学）『病院原価計算－医療制度適応への経営改革』中央経済社

	松尾貴巳（神戸大学）『自治体の業績管理システム』中央経済社
奨励賞	
	潘 健民（早稲田大学院生）“Japanese Firms’ Real Activities Earnings Management to 10 Avoid Losses”『管理会計学』第 17 巻第 1 号，3-24 ページ
	丹生谷晋（筑波大学院生）「分権型組織における業績評価システムに関する実証研究」『管理会計学』第 17 巻第 1 号，39-55 ページ

2010年度	
特別賞	
	門田安弘（目白大学）
功績賞	
	石崎忠司（中央大学）
論文賞	
	安酸建二（流通科学大学）「コスト変動を通じて利益変動に影響を与える要因としての売上高予測の重要性に関する実証研究」『管理会計学』第 18 巻第 1 号，3-17 ページ
文献賞	
	大下丈平（九州大学大学院）『現代フランス管理会計—会計・コントロール・ガバナンス—』中央経済社
奨励賞	
	該当者なし

2011年度	
特別賞	
	該当なし
功績賞	
	青木茂男（茨城キリスト教大学）
	古賀 勉（福岡大学）
	坂口 博（城西大学）
論文賞	
	該当者なし
文献賞	
	櫻井通晴（城西国際大学）『コーポレート・レピュテーションの測定と管理—「企業の評判管理」の理論とケース・スタディー』同文館出版
奨励賞	
	山口朋泰（東北学院大学）「実体的裁量行動の要因に関する実証分析」『管理会計学』第 19 巻第 1 号，

57-76 ページ
呉 重和 (大阪大学院生) 「報酬契約における非財務指標の役割」『管理会計学』第 19 巻第 1 号, 35-56 ページ

2012年度	
特別賞	
	佐藤紘光 (早稲田大学)
功績賞	
	笠井賢治 (亜細亜大学)
	竹森一正 (中部大学)
論文賞	
	該当者なし
文献賞	
	徳崎 進 (関西学院大学) 『VBM における業績評価の財務業績効果に関する考察：事業単位の価値創造と利益管理・原価管理の関係性』 関西学院大学出版社
	中島洋行 (作新学院大学) 『ライフサイクル・コストニング：イギリスにおける展開』 創成社
奨励賞	
	衣笠陽子 (滋賀大学) 「病院経営における管理会計の機能—病院予算を中軸とした総合管理—」『管理会計学』第 20 巻第 2 号, 3-18 ページ
	山田哲弘 (名古屋市立大学院生) 「報告利益と課税所得の関係が利益調整行動に与える影響」『管理会計学』第 20 巻第 2 号, 19-41 ページ

2013年度	
特別賞	
	辻 正雄 (早稲田大学)
	原田 昇 (東京理科大学)
功績賞	
	昆 誠一 (九州産業大学)
	柳田 仁 (神奈川大学名誉教授)
	廣瀬哲夫 (日本公認会計士協会)
論文賞	
	浅田拓史 (大阪経済大学) ・ 吉川晃史 (熊本学園大学) ・ 上總康行 (京都大学名誉教授) 「日本電産株式会社の経営改革と管理会計—知識創造理論の視点から」『管理会計学』第 21 巻第 2 号, 41-60 ページ
文献賞	

	安酸建二（近畿大学）『日本企業のコスト変動分析—コストの下方硬直性と利益への影響』中央経済社
奨励賞	
	北尾信夫（関西外国語大学）「わが国企業の投資意思決定におけるオプション価値評価行動」『管理会計学』第21巻第2号，61-75ページ

2014年度	
特別賞	
	上埜 進（甲南大学）
功績賞	
	該当者なし
論文賞	
	鈴木研一（明治大学）・松岡孝介（東北学院大学）「従業員満足度、顧客満足度、財務業績の関係—ホスピタリティ産業における検証—」『管理会計学』第22巻第1号，3-25ページ
文献賞	
	諸藤裕美（立教大学）『自律的組織の管理会計』中央経済社
奨励賞	
	該当者なし

2015年度	
特別賞	
	該当者なし
功績賞	
	上總康行（京都大学名誉教授）
	小林啓孝（早稲田大学）
論文賞	
	木村史彦（東北大学）「事業内容と利益マネジメント—利益マネジメントの業種間比較を通じて—」『管理会計学』第23巻第1号，21-41ページ
文献賞	
	伊藤和憲（専修大学）『BSCによる戦略の策定と実行：事例で見るインタンジブルズのマネジメントと統合報告への管理会計の貢献』同文館出版
奨励賞	
	堀井悟志（立命館大学）「予算管理とイノベーションの創出」『管理会計学』第23巻第1号，61-71ページ

2016年度	
特別賞	
	浅田孝幸（立命館大学）
功績賞	
	菊井高昭（上智大学名誉教授）
	西村優子（青山学院大学）
論文賞	
	該当者なし
文献賞	
	辻 正雄（早稲田大学）『会計基準と経営者行動—会計政策の理論と実証分析—』中央経済社
奨励賞	
	佐久間智広（松山大学）「マネジャーの個人差が意思決定・業績に与える影響—株式会社ドンクの店舗データを用いた定量的検証—」『管理会計学』第24巻第1号，27-46ページ
	北田智久（神戸大学院生）「日本企業におけるコストの反下方硬直性」『管理会計学』第24巻第1号，47-63ページ

2017年度	
特別賞	
	該当者なし
功績賞	
	大島正克（亜細亜大学）
	白銀良三（国土舘大学）
	吉岡正道（東京理科大学）
論文賞	
	山口直也（青山学院大学）「メタ組織におけるマネジメント・コントロール—京都試作ネットの分析—」『管理会計学』第25巻第1号，19-33ページ
文献賞	
	該当者なし
奨励賞	
	福島一矩（中央大学）「管理会計による急進的イノベーションの促進—管理会計能力に基づく考察—」『管理会計学』第25巻第1号，3-18ページ

2018年度	
特別賞	

	該当者なし
功績賞	
	浜田和樹（関西学院大学）
論文賞	
	該当者なし
文献賞	
	小林英幸（SBI 大学院大学）『原価企画とトヨタのエンジニアたち』中央経済社
奨励賞	
	天王寺谷達将（広島経済大学）「イノベーションと管理会計研究の今後の方向性—Robert Simons の理論面での貢献の考察を足掛かりとして—」『管理会計学』第 26 巻第 1 号，43-60 ページ
	谷守正行（専修大学）「銀行アカウントフィーに関する管理会計研究—サブスクリプションモデルの適用可能性」『管理会計学』第 26 巻第 1 号，83-102 ページ

2019年度

特別賞	
	廣本敏郎（一橋大学名誉教授）
功績賞	
	該当者なし
論文賞	
	渡辺岳夫（中央大学）「アメーバ経営システムの運用の継続企業と中止企業の比較—組織構成員に対する心理的な影響メカニズムの多母集団同時分析—」『管理会計学』第 27 巻第 1 号，35-55 ページ
文献賞	
	伊藤克容（成蹊大学）『組織を創るマネジメント・コントロール』中央経済社
奨励賞	
	鬼塚雄大（慶應義塾大学院生）「自律的な在外子会社に対する本社による業績管理の影響」『管理会計学』第 27 巻第 1 号，109-124 ページ

2020年度

特別賞	
	該当者なし
功績賞	
	該当者なし
論文賞	
	該当者なし
文献賞	

	該当者なし
奨励賞	
	岩澤佳太（慶應義塾大学院生）「ジャストインタイム生産方式の導入に伴うミニ・プロフィットセンター制の変化—水平的インタラクションに注目して—」『管理会計学』第 28 巻第 1 号, 37-53 ページ
	牧野功樹（大阪府立大学院生）「中小企業の管理会計研究—システムティック・レビューによる統合の試み—」『管理会計学』第 28 巻第 1 号, 71-95 ページ

11 国際的活動

設立から 30 年を通し、経営環境のグローバル化の進展に呼応するように、日本管理会計学会（以後、JAMA と略称）は国際的活動に取り組んできた。年次全国大会や地方部会を問わず、海外から研究者を招聘し講演を開催するなどの国際活動はもとより、近年では、特に Asia-Pacific Management Accounting Association（アジア太平洋管理会計学会；以後、APMAA と略称）とのコラボレーションや、Chartered Institute of Management Accountants（英国勅許管理会計士協会；以後、CIMA と略称）との提携が行われてきた。

JAMA と APMAA とのコラボレーションとしては、2011 年に JAMA 関西・中部部会において APMAA との共同企画が試みられたことが挙げられる。当部会では、JAMA および APMAA の会員から 1 報告ずつ行われた。これを契機に、2013 年度の関西・中部部会では、同年に名古屋大学で開催される APMAA Annual Conference に向け、APMAA の理解促進のための報告などが行われた。その後も、APMAA は 2013 年に名古屋大学、2018 年に早稲田大学と、定期的に、日本国内で Annual Conference を開催しており、その都度、APMAA Japan の上埜進先生らをとおして学会 HP で告知が行われてきた。また、学会員である大学院生や若手研究者が APMAA Annual Conference で報告する際の参加費援助も行われており、特に近年において、同学会との連携の強化が図られてきた。

CIMA との提携は、2016 年に“Memorandum of Understanding to unveil the collaboration between the world’s largest professional body in management accounting and Japan’s leading management accounting association（以後、MoU と略称する）の調印式において行われた。2017 年には学会として MoU の具体化が計画され、その一環として、Global Management Accounting Principle（以後、GMAP と略称する）の翻訳作業に着手することとなり、これは、JAMA の産学共同研究グループ「グローバル管理会計規準の可能性と展望に関する研究」（2017 年採択；代表：浅田孝幸先生）を中心に行われた。その成果は日本語版 GMAP（翻訳代表者：青木雅明先生）（※）として 2018 年に公表され、2019 年の同グループ最終報告に反映されることになり、GMAP の成り立ちや適用可能性、今後の研究の方向性などを示した研究成果としてまとめられた。

JAMA が取り組んできた国際的活動の中でも、APMAA とのコラボレーションや、CIMA との提携による日本語版 GMAP が成果として残されてきていることは、これまでの執行部の先生方や各プロジェクトに参加された先生方の貢献が大きい。これらの国際的活動を通して、JAMA 会員の国内外での活躍の場が広げられたことは、JAMA の今後の発展に大きく寄与するものと考えられる。

※. 日本語版 GMAP は以下の URL から閲覧することができる。

<https://www.cgma.org/resources/reports/globalmanagementaccountingprinciples/princip>

(1) Asia-Pacific Management Accounting Association (APMAA : アジア太平洋管理会計学会) とのコラボレーション

2011年度			
第1回関西・中部部会			
開催日	2011年6月25日(土)	会場	近畿大学(東大阪キャンパス)
Joint Program with APMAA			
	“The Significance of Learning Process in BSC Introducing Process”, Masaaki Aoki (Tohoku University) and Mitsuya Hasebe (Hasebe Managements)		
	“Management Accounting Information: Its Use by Top Management Team in Transforming A Company”, Shu Hui Wee (Universiti Teknologi MARA)		
自由論題 (2件)			

2013年度			
第1回関西・中部部会			
開催日	2013年6月15日(土)	会場	甲南大学(岡本キャンパス)
統一論題:「アジアにおける管理会計の潮流—2013 APMAA 名古屋大会を前にして—」			
	「APMAAにおける管理会計研究」上埜 進(甲南大学)		
	「中国から見た日本の管理会計」王 志(名古屋商科大学)		
	「中国における管理会計の動向—理論と実務—」水野 一郎(関西大学)		
自由論題 (4件)			
第9回アジア太平洋管理会計学会			
開催日	2013年11月1日(金) ~11月4日(月)	会場	名古屋大学
Plenary Talks			
	“Analysis of the Management Control Systems in Holding Companies: Some Integrative Functions in Corporate Governance”, Takayuki Asada (Ritsumeikan University)		
	“Japanese Management Accounting: A Case of Amoeba Management”, Toshiro Hiromoto (Certified Public Accountants and Auditing Oversight Board)		
Panel Session: “Challenges for Management Accounting: Issues in Theory and Practice”			
	“Challenges in Management Accounting in Thailand: Dynamics of Management Accounting		

	Practice”, Wila-sini Wongkaew (Chulalongkorn University)
	“Some Thoughts on Cost of Quality Reporting (Accounting for Quality Management)”, Lin Zhijun (Kong Baptist University)
	“Challenges for Management Accounting: Issues in Theory and Practice”, Jimmy Y. T. Tsay (National Taiwan University)
Invited Talk	
	“Fundamentals and Evolving Points of the Toyota Production System” Masatoshi Naito (Toyota Motor Corporation)
Parallel Sessions (62)	

2018年度			
第14回アジア太平洋管理会計学会			
開催日	2018年10月29日(月) ～11月1日(木)	会場	早稲田大学
Special Session I “Management Accounting Research and Education in Asia Top Accounting Schools”			
	“The Future Trends of Management Accounting Research and Education in China”, Yasheng Chen (Xiamen University)		
	“Accounting Research and Education: Seoul National University”, Iny Hwang (Seoul National University)		
	“Reflections on Publishing in JMAR: The Writing of “Estimating the Effect of a Fit-Focused Employee Selection Program””, Shuen-Zen Liu (National Taiwan University)		
Special Session II “Stage of Management Accounting Evolution in Asia Pacific (SMAE)”			
	“The Advancement of Management Accounting Practices of the Large Thai Manufacturing Companies”, Kanitsorn Terdpaong (Rangsit University), Nimmual Visedsun (Rangsit University), Kanibhatti Nitirojntanad (Chulalongkorn University), Kamaljeet Sandhy (University of New England)		
	“Application of IFAC’s Management Accounting Evolution Model in Restructuring of Financial Distressed Companies in Emerging Economies”, Normah B Omar (Universiti Teknologi MARA), Hanafiah Hasin (Universiti Teknologi MARA)		
	“The Current Adoption of Management Accounting Practices in Vietnamese Manufacturing and Commercial Enterprises”, Nguyen Thi Phuong Dung (University of Economics and Business – Vietnam National University), Kanitsorn Terdpaong (Rangsit University), Dao Phuong Dong (University of Economics and Business – Vietnam National University)		
	“A Pilot Study of MAPs Usage in Chinese POE’s Planning”, Robert C. Rickards (German Police University), Rolf Ritsert (German Police University)		

CFO/Controller Symposium	
	“Management Reform and Corporate Governance in Hitachi”, Mike Nishiyama (Hitachi, Ltd)
	“Management Accounting, Risk & Control, and Internal Auditing”, Kazuhisa Fujita (Mitsubishi Corporation), Yasumi Taniguchi (Protiviti Japan)
	“Hoe Does a CFO Measures Quality of Earnings: One Perspective of Managerial Accounting”, Yoshimasa Ogino (Akebono Brake Industry Co.)
	“Synchronization Model of Non-Financial Capital and Equity Spread”, Ryohei Yanagi (Eisai Co.)
Parallel Sessions (103)	

(2) Chartered Institute of Management Accountants (CIAM : 英国勅許管理会計士協会) とのコラボレーション

2015年度			
The MOU Signing Ceremony between CIMA and JAMA			
開催日	2016年2月29日(月)	会場	
	“Memorandum of Understanding to unveil the collaboration between the world’s largest professional body in management accounting and Japan’s leading management accounting association”, Signed by Noboru Harada (JAMA’s President), Masaaki Aoki Vice President, Vicky Li (CIMA’s North Asia Regional Director), Charles Liang (Head of Emerging Markets North Asia)		

2017年度			
Global Management Accounting Principle (GMAP) Japanese version Launching Ceremony & CPE Seminar on Best Practice of Management Accounting			
開催日	2018年2月27日(火)	会場	ハイアットリージェンシー東京
Keynote Speech			
	“Global Management Accounting Principles and Finance Function Effectiveness”, Charles Tilley (CGMA Research Foundation)		
Panel Discussion			
	“Management Accounting-Best Practice of Management Accounting in Japan”, Charles Tilley (CGMA Research Foundation)・Nicholas Brown(チューリッヒ生命 CFO)・三木晃彦(日本IBM(株)理事)・Jeremy Brocherie (アマゾン・ジャパン上級財務管理者)・三浦 力 (ネスレネスプレッソ(株))・石橋善一郎 (元日本マクドナルド(株)CFO)		

2018年度			
年次全国大会			
開催日	2018年8月27日(月) ～8月29日(水)	会場	慶應義塾大学 (三田キャンパス)
産学共同研究グループ中間報告			
「グローバル管理会計規準の可能性と展望に関する研究」 浅田孝幸 (桃山学院大学)・青木雅明 (東北大学)・清水 孝 (早稲田大学)・澤邊紀生 (京都大学)			

2019年度			
年次全国大会			
開催日	2019年8月27日(火) ～8月29日(木)	会場	専修大学 (生田キャンパス)
産学共同研究グループ最終報告			
「グローバル管理会計規準の可能性と展望に関する研究」 浅田孝幸 (桃山学院大学)・青木雅明 (東北大学)・清水 孝 (早稲田大学)・澤邊紀生 (京都大学)			



CIMA との MOU (Memorandum of Understanding) の締結 (2016年2月19日)
(左: 青木雅明副会長, 右: CIMA アジア担当部長 Vicky Li 氏 (役職はいずれも当時))

あとがき

ここに日本管理会計学会創設 30 周年記念 30 年史が刊行され、会員の皆様にお届けすることができてほっとすると同時に大変嬉しく思います。

学会創設 30 周年記念事業委員会は、前執行部のもとで開設されていた委員会（委員長：小倉昇先生）活動を踏まえて伊藤和憲会長の新執行部の発足により新たに組織された委員会です。委員会のメンバーは、井岡大度先生（国士舘大学）、山口直也先生（青山学院大学）、塘誠先生（成城大学）、そして水野です。第 1 回の会議はコロナ禍ということもあって 2020 年 5 月 23 日（土）に Zoom で開催しました。伊藤和憲会長にもオブザーバーでご出席いただいた。そこでは、①創設 30 周年記念大会について、②管理会計学会 30 年史の刊行について、③「管理会計の日」の申請と取り組みの意義について、④ 30 周年記念 Web 部会の創設について、議論され、基本的な方向が確認されました。とくに②管理会計学会 30 年史の刊行が重要であり、この責任者には前委員会の事務局長をされていた山口直也先生になっていただくことになりました。今回の 30 年史の刊行の実現は山口直也先生のご尽力の賜であり、ご協力いただいた参事の先生方にも厚くお礼申し上げます。また前回の『20 年史』を編集され、今回の 30 年史についても当初よりご指導いただいた小倉昇先生に感謝申し上げます。

かつて『日経ビジネス』誌の「企業の寿命 30 年」という記事が話題になりましたが、日本管理会計学会も 30 周年を迎えることになったのは意義深く、会員の皆様と共に慶びたいと思います。また最近、楠木健・杉浦泰（2020）『逆・タイムマシン経営論』も興味深く読みました。ウオーレン・バフェットの「われわれが歴史から学ぶべきなのは、人々が歴史から学ばないという事実だ」という名言があるそうですが、若い研究者の皆様も今回の『30 年史』の第 2 部に掲載された過去の全国大会をはじめ、フォーラム、部会、リサーチセミナーの報告テーマは研究テーマを考えるうえで大変参考になると思います。また『30 年史』第 1 部には『20 年史』に掲載された学会の初代会長である片岡洋一先生の玉稿も再掲されており、学会に貢献された先生方の思い出と共に、会員を激励されるものとなっています。

今回の『30 年史』もまだまだ不十分な点が残されていると思いますが、次の世代の先生方にあとは託したいと思います。わが国には世界ではめずらしい 200 年企業、100 年企業が数多く存在しております。578 年から存続している社寺建築の金剛組とまではいかないにしても日本管理会計学会の一層の発展と継続を祈念してあとがきとさせていただきます。

創設 30 周年記念事業委員会を代表して 水野一郎